

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

観光という事象について経済・経営と関連付けて理解し、特に危機管理の専門的知識をもって諸問題を解決する能力を身につける科目である。世界的に年々交流人口は増加しており、それらを視野に入れた観光産業・観光ビジネスは今後ますます多種多様になっていくと考えられる。観光ビジネスは、目に見えない「おもてなし」も含めて想像以上の広がりを見せている。本講義では最新の情報を交えながら解説する。また、日本政府が観光立国を掲げている近年、都市から離れた地域が存続していくためには、観光による活性化、すなわち経済学的な観点からも観光ビジネスの必要性がある。このような政府戦略や地域創生の概念も学びの対象とする。この授業の中心は、あくまでも稼ぐための観光である。観光産業の企業からも講師を迎えて講義を展開する。地域社会が抱える経営・経済活動の問題に危機管理の知識をもちつつ、専門分野の諸問題を自ら解決し、持続的な発展に寄与できる人材の養成を目標とする。

【アクティブラーニング】調査学習（グループ）、課題解決型学習、プレゼンテーションを取り入れている。例年フィールドワークを実施しているが、社会的状況によって不可能になる場合がある。（感染症・自然災害など）

【フィードバック】事前調査に関してプレゼンテーションやレポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

到達目標

この講義は、経済・経営分野の知識および技能を身につけることを目的として、以下のように目標を設定している。

- 1.観光ビジネスについて学び、それらが地域経済にどのように影響するのかを考察することにより、企業や社会の持続的な発展に寄与できる。
- 2.観光政策と地域振興について理解し説明できる。
- 3.観光とマーケティングについて理解し、危機管理の知識をもって諸問題を解決できる。
- 4.観光産業の変遷を学び、観光と将来への展望について考察することにより、企業や社会の持続的な発展に寄与できる。

評価方法

- ・レポート、およびプレゼンテーション 50%（到達目標 1 ～ 4 を評価）
- ・定期試験 50%（到達目標 1 ～ 4 を評価）

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・1年次開講の「観光概論」の履修が望ましい。
- ・各自興味のある観光産業について調べたり、さまざまな角度から観光ビジネスを理解する態度を養うこと。
- ・観光に関する日々のニュースや時事問題は観光に繋がっていることが多く、そこから課題を抽出し観光の力で解決する方策を考察すること。(PBL、アクティブラーニング)
- ・政府や自治体のホームページからどのような観光戦略を打ち出しているかを読み、観光の力を深く理解すること。
- ・観光ビジネスの対象となる市場について考察すること。
- ・本講義は「旅行業」国家試験の対策科目ではないが、受験希望者には別途学習の指導が可能である。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 オリエンテーション（授業概要と進め方）
第2回	第2回 観光ビジネスについて（基本構造）
第3回	第3回 観光ビジネスについて（市場）
第4回	第4回 観光ビジネス（旅行業）について。外部講師を招聘する予定です。（日時が変更になる場合があります。）
第5回	第5回 観光ビジネスとマーケティングについて
第6回	第6回 地域の観光ビジネス
第7回	第7回 観光政策と地域振興について

回数	内容
第8回	第8回 観光資源と活用について
第9回	第9回 観光ビジネス（宿泊業）について。外部講師を招聘する予定です。
第10回	第10回 観光ビジネス（テーマパーク、その他）について
第11回	第11回 観光ビジネス（交通運輸業）について
第12回	第12回 新しい観光ビジネスについて（ビッグデータを活用して）
第13回	第13回 都市観光と農村観光について
第14回	第14回 観光と環境問題について
第15回	第15回 総括

授業外学習

回数	内容
第1回	第1回 授業計画に示した参考書の序論を事前に読み、本講義の概略をつかんでおくこと。（2時間）
第2回	第2回 観光ビジネスの概要について調べる。（2時間）
第3回	第3回 観光の市場について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第4回	第4回 旅行業について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第5回	第5回 地域の観光産業あるいは観光ビジネスについて調べる。（2時間）
第6回	第6回 地域の観光産業あるいは観光ビジネスについて調べる。（2時間）
第7回	第7回 観光振興について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第8回	第8回 地域の観光資源について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第9回	第9回 宿泊業について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第10回	第10回 テマパークについて調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第11回	第11回 交通運輸業について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第12回	第12回 先進的な観光ビジネスについて調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第13回	第13回 都市観光、農村観光について調べる（2時間）
第14回	第14回 観光がもたらす環境問題について調べる（2時間）
第15回	第15回 各自で観光ビジネスの総括をする。（2時間）

教科書

指定しない。資料は都度紹介する。

参考書

「観光ビジネスの基礎」木谷 直俊 創成社（ISBN-10: 4794424183）
「地域引力を生み出す 観光ブランドの教科書」岩崎 邦彦（ISBN-13 : 978-4532323073）

備考

特記なし。

危機管理学概論（21103）

前期

Introduction to Risk and Crisis Management

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

我々の身の回りには経済危機、企業危機、情報危機、自然災害あるいは身の回りの危機等の様々なリスクが存在する。これら危機へ対応するための危機管理、リスクマネジメントについて、その歴史、現状、問題点などを取り上げ、未然防止対策、発生対策、事後対策等、危機管理システム、リスクマネジメントのあり方と、その対応方法について基本的事項を解説し、様々な危機管理やリスクに関する基礎的な知識を身につける。

※Google Classroomのクラスコード：h3oocy6

到達目標

- 身近な生活における危機と危機管理を理解できる
- 危機管理、リスクマネジメントの基礎が理解できる
- 本講義で学習した事を、後期以降の関連科目および専門科目の理解に繋げることができる

評価方法

- 学期末試験：30%
(到達目標 1、2、3を評価)
* 但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】
 - 授業時間外での作成レポートの内容で評価(該当授業回の最初に提出14×3回)：42%
(到達目標 1 を評価)
* 但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回分は採点しない】
 - 平常点〔授業への積極的参加および態度〕(授業内での理解および気づきを300字以上で授業終了時に提出14×2回)：28%
(到達目標2、3を評価)
* 但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
- ★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない。

注意事項

- 許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要
- 欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
* 10分以上の[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
- 授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする
- 授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
- 授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
* 特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする
- 授業中の飲食禁止
* 教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする
- 講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

授業計画

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	オリエンテーション 危機とは何か、リスクとは何か
第2回	危機管理とリスク管理
第3回	リスクの認知
第4回	リスク分析とリスク評価
第5回	リスクコミュニケーション
第6回	危機・リスクへの対応 1：事前対応
第7回	危機・リスクへの対応 2：発生時対応
第8回	危機・リスクへの対応 3：事後対応
第9回	経済分野における危機管理
第10回	経営分野における危機管理
第11回	環境分野における危機管理
第12回	医療・健康分野における危機管理
第13回	防災・減災と危機管理
第14回	国際関係と危機管理
第15回	全体のまとめとふりかえり

授業外学習

学習時間の目安：60時間

毎日の新聞やテレビおよびネットなどのニュースに常に関心を持ち、次回の講義までに掲載されたニュースの中から、危機およびリスクに一番関連するニュースを見つけ、自分へのリスクの関係性と考えを含めたレポートを600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業の初めに提出すること《後からの提出は、未提出扱いとする》

*但し、“新型コロナウイルス（COVID-19）”関連のニュースは除く

教科書

教科書は、使用しない

参考書

書名：危機管理学総論—理論から実践的対応へ

著者：大泉 光一

発行：ミネルヴァ書房

ISBN：978-4-62306-263-8

書名：危機管理&メディア対応 新・ハンドブック (養成講座シリーズ)

著者：山口明雄

発行：宣伝会議

ISBN：978-4-88335-418-4

備考

行政システム論（21104）

前期

Administrative system theory

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 赤澤幹温

授業の概要

現代では社会の複雑化と多様化を反映し、行政の役割がますます増大している。行政国家化・福祉国家化の現象は、わが国に限らず、世界各国に共通した傾向である。三権分立と言うものの、官僚が法律の原案を作成し、紛争の予防的解決に行政権が用いられる今日では、立法や司法に比して行政の影響力は明らかに突出している。本講義は行政学の導入的講義として、日本の行政の基本的な仕組みについて学んでいきたいと思い、行政学の基礎概念を可能な限り網羅的に学習することを目的としている。 地域社会の構成員として活躍できる知識を身につける。

到達目標

- 市民として、また、国民として存在する自己の置かれた社会的環境をよりよく理解し、社会や行政システムを説明できる。
- 行政学を学び、政治や行政について考察することにより、社会参加や社会への貢献を喚起する。
- 行政学を学ぶことにより、自分の将来への選択肢を広げる一助とすることができる。

評価方法

試験の成績（40％）（到達目標1を評価）、ジャーナルレポート（40％）（到達目標1, 2を評価）、授業に取り組む態度・姿勢及びグループワーク（20％）（到達目標3を評価）を基準として、総合的に評価する。

注意事項

- 提出を課すジャーナルレポートは、提出期限を守ること。
- 授業中は、私語を慎み、積極的に授業に参加すること。
- グループワークは、グループを決め、課題について積極的に討議し、グループの意見をまとめ、それを各グループで発表する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション と 「行政」の意味
第2回	行政学の成立と展開
第3回	官僚制と行政国家
第4回	行政改革と公共管理
第5回	国と自治体を動かす仕組み
第6回	国の行政組織制度
第7回	自治体の行政制度
第8回	公務員制度
第9回	制度改革
第10回	公共政策
第11回	法律・条例の作成
第12回	国の予算
第13回	自治体の予算
第14回	政策の実施と評価
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安は、60時間以上である。次回の授業への予習、授業後の復習により、理解を更に深め、知識の定着を図る。

また、グループワークやジャーナルレポートを課す。

教科書

参考書

参考資料は、講義中に必要に応じて配布します。

備考

特になし

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

民法は私法分野の最も基礎となる法律であり、学習の手順としては民法の内容を理解した上で、会社法（商法を含む）を学ぶことになる。この講義で理解することは、契約をはじめとした社会の仕組み、法人設立の意義や物権・債権の区別を中心とする財産権の性質、時効、担保、不法行為などの基礎的な事項である。これにより経済・経営分野の知識を身につけることができる。

到達目標

1. 物権や債権について理解し、説明出来る。
2. 契約について理解し、説明出来る。
3. 不法行為について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1~4を評価）
時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%
論述：評価割合40%（到達目標1~4を評価）
＊合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

- 第1回 民法の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。
- 第2回 民法は私法・民事法の分野に属しているが、法人や財産権についての基本原則を提供しており、商事法を学ぶための必須基本分野ともなっている。私法分野の基礎としての民法の枠組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第3回 権利主体について学ぶ。法人が「人」であることを理解出来るようになる。会社が法人の一形態であることも学ぶ。関連する時事問題も取り上げる。
- 第4回 財産権の種類について学ぶ。物権と債権の違いを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第5回 所有権と占有権について学ぶ。物権の代表としての所有権の取得について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第6回 担保物権について学ぶ。物権を物的保証として提供する仕組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第7回 売買契約の特徴について学ぶ。合意による債権取得の仕組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第8回 貸借契約の仕組みについて学ぶ。貸借によって占有を相手方に移すが所有は移らないという仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第9回 不法行為について学ぶ。合意はないにも拘らず相手方に債権が発生する仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第10回 債務不履行について学ぶ。契約違反とは債務を履行しないこと、すなわち債務不履行であることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第11回 融資と担保について学ぶ。商法・会社法への橋渡しとして、銀行による融資（民法上は金銭消費貸借契約）の仕組みと担保の設定方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第12回 物的担保と人的担保について学ぶ。実務上発達している種々の担保設定方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第13回 強制執行について学ぶ。債務不履行が生じている場合の強制執行の方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第14回 少額訴訟について学ぶ。簡易かつ迅速な方法で勝訴判決を得られる少額訴訟の手続について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第15回 民法について知ることと商事法の基礎について学ぶことが出来た。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

- 第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。民法を学ぶ場合には、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）
- 第2回 予習：民事法と刑事法の違いについて予め自分で調べるのが大切である。復習：民法の基本構造を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第3回 予習：法人について予め自分で調べるのが大切である。復習：権利主体とは法的に何を意味しているのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

- 第4回 予習：財産権の種類について予め自分で調べることが大切である。復習：物権と債権の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第5回 予習：物権について予め自分で調べることが大切である。復習：所有権の性質を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第6回 予習：担保物権について予め自分で調べることが大切である。復習：質権や抵当権について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第7回 予習：債権について予め自分で調べることが大切である。復習：売買契約の際に債権がどのように発生し、それらが互いにどういう相関関係になるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第8回 予習：賃貸借や消費貸借について予め自分で調べることが大切である。復習：売買契約と貸借契約との違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第9回 予習：事故が発生した際の責任の所在について予め自分で調べることが大切である。復習：不法行為の形態と債権の発生するメカニズムを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第10回 予習：契約違反について予め自分で調べることが大切である。復習：債務不履行とは債権/債務関係がどうなることを言うのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第11回 予習：銀行融資と担保権設定について予め自分で調べることが大切である。復習：金銭消費貸借契約の際には担保設定することが通常であることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第12回 予習：担保権の設定について予め自分で調べることが大切である。復習：実務上で発達してきた種々の担保設定方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第13回 予習：強制執行について予め自分で調べることが大切である。復習：強制執行の仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第14回 予習：少額訴訟について予め自分で調べることが大切である。復習：判決での勝訴の獲得とその後の強制執行の手続について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

教科書

河野正英『（新版）商取引法講義』大学教育出版（ISBN: 978-4-86692-136-5）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 安達精治

授業の概要

「地方創生」が注目されている。地域が自ら考え、独自の資源を活かして地域振興を図る時代なのである。人口減少、社会保障制度、東京一極集中など難しい問題が山積するなかで、地域の自立と活力の創造は重要性を増している。

「地域政策論」は社会科学の学術的領域であり、地域課題の解決に向け経済・経営・行政・財政・法律など既存の学問体系に捉われない実践的な総合科学である。

地域政策論の学習を通じて、地域に暮らす市民を中心に、行政や企業、NPOなどステークホルダーの立場を理解するとともに、地域で活躍するために必要な知識や手法、行動力を育成する実践授業である。

地域で活躍するためには、まずは地域を知らなければならない。その具体的な実例をもとに、地域で起こる様々な出来事の背景には地域政策があることを学ぶ。

地域経済を実践で支える地域未来牽引企業は、地方創生の立役者である。

地域経済発展を目指す地方創生において、地方公共団体と各産業界・地域外企業との橋渡し役を踏まえ実践経営を行っており、深く地域政策に関わっている。

その施策に携わった実務経験を踏まえて、事例などを紹介し、授業をおこなう。

到達目標

地域政策の基礎を学んだあとに、「地域政策の実践テーマ」をグループにて調査・ワーク・フィールドワーク・プレゼンテーション作成に対する講評などのフィードバックを含めた指導を行う。

- 到達目標
- 1．地域政策の現代的課題を把握し、説明できる。
 - 2．地域の抱える問題について理解し、現在取り組まれている政策についてデータに基づき新たな提案・説明ができる。
- 授業外学習 授業外学習時間の目安：合計10時間

評価方法

定期テスト：50%(到達目標1を評価)（試験はノート・プリント・教科書の持ち込み可）

課題研究:：50% (到達目標2を評価)により成績を評価し、総合計 60 点以上合格

課題研究では、グループ学習・発表を予定している。

グループメンバー間のコミュニケーションを密に課題に取り組み、不明点・疑問点・問題発生の際は、その度に教員に問い合わせ、即戦力を向上させる。

最終的にプレゼンテーション発表をおこない、その評価対象とする

注意事項

グループ学習では、調査学習・グループワーク・フィールドワークグループによる共同研究をおこなうため、個人の無責任な行動がグループ全体の負担となることを肝に命じて臨むこと

授業計画

回数	内容
第1回	地域経済の実態を知る（強まる地方経済・大都市と地域格差）
第2回	地域経済の実態を知る（企業誘致・公共投資）
第3回	地域経済の実態を知る（過疎化・空洞化）
第4回	地域経済の実態を知る（地域創生）
第5回	地域創生の手法と担い手（産業振興）
第6回	地域創生の手法と担い手（まちづくり）

回数	内容
第7回	地域創生の手法と担い手（商店街）
第8回	地域創生の手法と担い手（山林離島）
第9回	地域創生の手法と担い手（地域ブランド）
第10回	地域創生事例の研究（岡山県矢掛町の事例研究①;）
第11回	地域創生事例の研究（岡山県矢掛町の事例研究;②）
第12回	地域政策の在り方（公共投資削減）
第13回	地域政策の在り方（地方経済と産業連関性）
第14回	政府が推薦する地域創生の事例研究①（近隣事例：岡山・広島県）
第15回	政府が推薦する地域創生の事例研究②（総務省表彰事例中心）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 参考書や授業で配布されるレジюмеや資料を良く読んで必ず予習・復習を行うこと。
- ・ グループ課題を出題する。課題の成果は講義で各グループに発表してもらうが、発表資料のデータ分析・資料作成は課外学習として取り組むこと。

教科書

担当教師は、経済産業省認定の地域未来牽引企業(株)シャンテCEO実践者：

国・大学等での講演・レジメ資料を活用する

参考書

著者名：山崎 朗・杉浦勝章・山本匡毅・豆本一茂・田村大樹・岡部遊志書名：地域政策 ベーシックプラス

出版社名：中央経済社

備考

※外部講師の講演予定あり

第8回（90分） 地域創生の手法と担い手（山林離島）と

第9回（90分） 地域創生の手法と担い手（地域ブランド）については、笠岡市白石島（対面者；白石島観光協会会長 原田茂氏）、井原市新町（対面者；IBARA DENIM STREET沖久教人理事）を面談・学習研究する予定

救命救助法入門（21151）

後期

Introduction to rescue and first aid activities

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 水野恭志

授業の概要

勇猛果敢な救出活動は必ずしも称賛されるものではない。傷病者の発見から救出救助の一連の作業を「探査と救出」という。災害現場において最初に行われる救護活動である。救護活動で大切なことは救出にあたる者の安全確保である。阪神・淡路大震災では、要救助者の約77%は近隣住民の手で救出された。近隣住民が互いに助け合い、負傷者などの救出や応急手当を迅速に行うことが多くの命を救うことになる。「自助・共助」、日頃から資機材の取り扱いや、応急手当を習得することで多くの人を助け出すことができる。ここでは各処置の原理を理解し、処置等を習得する。地域社会の構成員として活躍できることを目的とする。

【フィードバック】課題（小テスト、レポート）に対して講評や解説を行う。

到達目標

- 1.救急蘇生法についての意義、目的を理解し、知識を高めることができる。
- 2.救急蘇生法に関する項目を理解することにより、いざという時に行動に移せるようになる。

評価方法

- 1 授業に取り組む姿勢30%（到達目標 1、 2 を評価）、レポート提出20%（到達目標 2 を評価）、定期試験50%（到達目標 1、 2 を評価）により成績を評価し、総合点60点以上を合格とする。
- 2 普通救命講習を受講し、その修了証を提示した場合には、最大で20点を総合点に加点する。

注意事項

普通救命講習ⅠないしはⅡ（Ⅰ：3時間、Ⅱ：4時間）を受講し修了証を取得することを強く望みます（防災士の資格取得のためには必須な資格であるため）。

普通救命講習受講に際してのアナウンスは、講義の際に行います。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	救急蘇生法とは
第3回	救命の連鎖と市民の役割
第4回	突然の心停止を防ぐために（１）（成人）
第5回	突然の心停止を防ぐために（２）（小児・特異な状況）
第6回	一次救命処置（１）（心肺蘇生法の手順）
第7回	一次救命処置（２）（人工呼吸）
第8回	一次救命処置（３）（AED・気道異物除去）
第9回	一次救命処置（４）（１）～（３）までを再確認
第10回	救急蘇生法における倫理と法律
第11回	ファースト・エイド（１）
第12回	ファースト・エイド（２）
第13回	学外授業（普通救命講習ⅠないしはⅡ）に充当
第14回	学外授業（普通救命講習ⅠないしはⅡ）に充当
第15回	学外授業（普通救命講習ⅠないしはⅡ）に充当

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

小テストを事前告知した上で実施する。その準備を怠らないようにすること。理解できないことは質問すること。

教科書

改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用（へるす出版）ISBN 978-4-86719-027-2

参考書

適宜紹介する。

備考

観光危機管理概論（21152）

後期

Crisis Management In the Tourism Industry

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

観光における危機管理について基礎的な知識および技能を身につけ、専門分野の諸問題を解決する能力を身につける科目である。世界観光機関（UNWTO）は今後も世界的に交流人口が増加することを予測している。経済的にも大きな効果が期待される観光は、一方で人間や社会的環境、あるいは自然環境などが原因となるリスクをも抱えている。このように正と負の双方に波及する観光全般の危機管理について、産業と観光者の立場からどのようなリスクがあるのか理解を深める。また年間1700万人もの日本人が海外へ出国している近年、旅行中の危機管理は観光者の安全を守るという点で重要なものとなる。文化や法令の違いなどから起こるリスクについて解説し、それらの危機管理についても実践的な方法論を基に解説する。また、観光がもつ力は社会的に影響が大きく、そのため様々な社会問題を観光で解決できる可能性が高いと考えられる。このような課題解決型のアクティブラーニングを取り入れている。

【アクティブラーニング】調査学習（グループ）、課題解決型学習、プレゼンテーションを取り入れている。例年フィールドワークを実施しているが、社会的状況によって不可能になる場合がある。（感染症・自然災害など）

【フィードバック】事前調査に関してプレゼンテーションやレポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

【実務経験のある教員による授業科目】元株式会社JTBサポートプラザ勤務：旅行会社の相談、手配、添乗業務に携わってきた経験に基づき、観光全般に起こりやすい危機について事例をもとに事前の対策や対処方法について解説する。

到達目標

この講義は、経済・経営分野に関連する危機管理の知識および技能を身につけ、一般企業、官公庁などの事業継続計画（BCP）を立案できる社会人の育成を目的として、以下のように目標を設定している。

- 1、観光産業の成長を阻むリスクについて理解する。
- 2、観光者が受けるリスクと減少について理解する。
- 3、観光と危機管理について、理論のみならず実例に基づく知識を身につける。
- 4、観光経済が、負の出来事によってどのように影響を受けるのかを理解する。
- 5、観光を学ぶことによって社会的な課題を解決する知識を身につける。（PBL、アクティブラーニング）

評価方法

- ・レポート、およびプレゼンテーション 50%（到達目標 1～4 を評価）
 - ・定期試験 50%（到達目標 1～4 を評価）
- 総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・新聞やメディアなどで、過去に起こった観光に関連した事件、危機的な事例について調べること。
- ・観光（旅行）のリスクを理解するために、事例を基に原因・発生・経緯・回復・究明と時系列で理解すること。
- ・観光のリスクの対処と防止には、専門知識の蓄積が必要となる。多くの事例を勉強することを心がけること。
- ・本講義は「旅行業」国家試験の対策科目ではないが、受験希望者には別途学習の指導が可能である。
- ・前期開講科目「観光概論」を受講していることが望ましい。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 ガイダンス（授業の概要と進め方）
第2回	第2回 観光における危機管理（基本的理解）
第3回	第3回 観光における危機管理（具体的事例を基に）
第4回	第4回 負の出来事と人間の活動域の変化について
第5回	第5回 観光における負の事例（海外のテロ事件など）

回数	内容
第6回	第6回 観光における負の事例（西日本豪雨・東日本大震災など）
第7回	第7回 観光産業と危機管理（旅行業の事例を基に）
第8回	第8回 観光産業と危機管理（運輸系企業の事例を基に）
第9回	第9回 負の出来事による被害と回復
第10回	第10回 旅行危機管理（高齢者の事例を基に）
第11回	第11回 旅行危機管理（幼年者の事例を基に）
第12回	第12回 観光と保険商品
第13回	第13回 学外実習 （＊日時と内容は決定次第連絡する。）
第14回	第14回 外部講師 （＊日時と内容は決定次第連絡する。）
第15回	第15回 総括

授業外学習

回数	内容
第1回	第1回 授業計画に示した参考書の序論を事前に読み、本講義の概略をつかんでおくこと。（2時間）
第2回	第2回 観光における危機管理の定義について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第3回	第3回 観光の効果について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第4回	第4回 参考書「危機管理論と観光」指定ページをあらかじめ読む。（2時間）
第5回	第5回 海外のテロ事件について調べる。（2時間）
第6回	第6回 西日本豪雨と観光被害について調べる。（2時間）
第7回	第7回 旅行業・宿泊業の危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第8回	第8回 運輸系企業の危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第9回	第9回 参考書「危機管理論と観光」指定ページをあらかじめ読む。（2時間）
第10回	第10回 高齢者と旅行危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第11回	第11回 幼年者と旅行危機管理について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第12回	第12回 旅行保険について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第13回	第13回 学外実習の下調べをする。（2時間）
第14回	第14回 外部講師の授業内容をあらかじめ下調べして、質問を考える。（2時間）
第15回	第15回 総括

教科書

指定しない。参考資料は都度紹介する。

参考書

「危機管理論と観光」D．グレーサー著 くんぶる発行（ISBN-10: 4875511981）
「観光危機管理ハンドブック ―観光客と観光ビジネスを災害から守る―」高松 正人（ISBN-13：978-4254500295）

備考

特記なし。

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 松尾隆敏

授業の概要

経済政策は、経済問題のみならず様々な社会問題を解決するために発動され、私たちの生活に大きな影響を及ぼす。そうした諸問題を解決するための政策立案においては、諸問題が、どうして起こり、どう展開し、どう対応すればよいか的確に分析することが極めて重要となる。

本科目では、ミクロ・マクロ経済に関する基礎的な知識を活用して、日本や世界で実際に起こっている問題、特に解決までの猶予がない危機的な課題に対応する経済政策について、できるだけ平易に解説する。

本科目は、専門科目のうち、D P「経済・経営分野の基礎知識を身につける」こと、およびDP「経済・経営分野に関連する危機管理の知識および技能を身につける」ことを目的とする。

【フィードバック】レポートに対する講評・解説を行う。

到達目標

- 1．ミクロ経済の視点から経済政策を説明できる。
- 2．マクロ経済政策について、概要を説明できる。
- 3．新聞の経済政策関連記事の内容が理解できる。

評価方法

※到達目標と関連して記入してください。

定期試験：6 0 %（到達目標 1 ～ 3 を評価）

レポート：4 0 %（到達目標 2 ～ 3 を評価）

総合計の 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

私語・遅刻・無断早退・音を鳴らす電子機器使用の禁止。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション（日本の経済の歩みと政策）
第2回	経済政策の概要
第3回	政策目標と政策手段
第4回	成長戦略の基本
第5回	ミクロ経済政策（1）需要曲線、供給曲線と余剰概念の復習
第6回	ミクロ経済政策（2）競争政策
第7回	ミクロ経済政策（3）市場の失敗への対処
第8回	マクロ経済政策（1）安定化政策の基本
第9回	マクロ経済政策（2）財政政策
第10回	マクロ経済政策（3）金融政策①（中央銀行の役割）
第11回	マクロ経済政策（4）金融政策②（金融政策の実際）
第12回	再分配政策の基本
第13回	社会保障制度の歪み
第14回	日本の経済政策の総括と問題点
第15回	今後の経済政策、総括

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・各回の講義内容について、予め教科書を読んで予習するとともに、参考書や授業で配布されるレジュメ・資料に基づき必ず復習すること。
- ・レポート課題を2回出題する。レポート課題を通じて、わが国の経済政策について考察を深めること。

教科書

著者名：柳川隆・永合位行・藤岡秀英

書名：セオリー＆プラクティス経済政策

出版社名：有斐閣

I S B N：978-4-641-16499-4

参考書

著者名：岩田規久男・飯田泰之

書名：ゼミナール経済政策入門

出版社名：日本経済新聞出版社

I S B N：978-4-532-13310-8

著者名：宮川努・細野薫・細谷圭・川上淳之

書名：ベーシックプラス日本経済論（第2版）

出版社名：中央経済社

I S B N：978-4-502-37481-4

備考

Google Classroomに配布資料等の情報を掲載し、課題提出はGoogle Classroomから行う。

PC・スマートフォンからGoogle Classroomを使用できるよう登録・設定を行うこと。

遠隔授業実施時には、Zoomによるリアルタイム授業を行う場合がある。

危機管理関連法規（21155）

後期

Laws and regulations on crisis management

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 石川清英

授業の概要

本講義では事例を使ったリスク危機管理の法体系を国際法、憲法・行政法、刑法、民法、会社法の基礎的な知識と結びつけながら学ぶ。そのほか、災害対策基本法を中心とする災害法制、安全保障関係法令、消防・警察に関する法律との関連についても学習する。講義中心の授業であるが、対話型の授業方式を重視し、受講生からの意見や問題点等について自発的な発言を求める。

なお、この科目の担当者は、金融機関、金融機関相手のコンサルティング会社等において、金融リスクマネジメント、法務等の実務及び教育指導を役員・管理職の立場で実施してきた、実務経験のある教員である。従って、授業時には具体的な事例を交えて、より分かりやすく実践的な「危機管理関連法規」を指導したい。

社会人として活躍するための危機管理に関する知識や技能を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1．リスクマネジメントと危機管理の意義について説明できる。（知識）
- 2．危険管理の法体系を説明できる。（知識）
- 3．企業・自治体等組織の防災と危機管理について、意見をまとめて発表することができる。（態度・習慣、技能）

評価方法

総合レポート（15回目に実施）50％（到達目標1・2を評価）、授業中の発表・レポート50％（到達目標3を評価）の割合で評価する。

注意事項

受講生は積極的に授業に参加し、学生としてのマナーを守るとともに授業中の質疑応答に対しても旺盛な意欲を示すことを希望する。

授業計画

回数	内容
第1回	リスクと危機の意義 リスクの概念、危険と危機、危険管理と危機管理の相違などについて、事例を紹介しながら進める。
第2回	危機管理関連の主な法令 近年注目されている主なリスクと関連法規の概要を学習する。
第3回	地震災害と関連法規 地震リスクの特徴、地震リスク対策と関連法規を学習する。
第4回	風水害と関連法規 風水害リスクの特徴、風水害対策と関連法規を学習する。
第5回	個人情報漏えいと関連法規 個人情報漏えいの原因と対策、個人情報保護法を学習する。
第6回	個人情報漏えいと賠償資力確保 国・自治体など組織の個人情報漏えいにかかわる保険の活用と課題について学習する。
第7回	不祥事と関連法規 国・自治体・企業など組織の不祥事と関連法規を学習する。
第8回	危機管理関連法規の基本認識と確認テスト（中間テスト） 危機管理の法体系の基本とこれまでの学習確認のために小テスト（中間テスト）を行う。
第9回	サイバー攻撃と関連法規 現在、世界中で拡大するサイバー攻撃の特徴と対策、刑法などの関連法規を学習する。
第10回	ネット炎上と関連法規 ネット炎上とネット炎上対策、刑法、民法などの関連法規を学習する。
第11回	ハラスメントと関連法規 ハラスメントと男女雇用機会均等法、労働契約法など関連法規および最近の判例などを紹介する。

回数	内容
第12回	メンタルヘルス・リスクと関連法規 職場のメンタルヘルス・リスクと労働安全衛生法など関連法規および最近の判例などを紹介する。
第13回	内部統制と関連法規 内部統制と会社法など関連法規を学習する。
第14回	環境リスクと関連法規 環境リスクと環境基本法、土壌汚染対策法など関連法規を学習する。
第15回	危機管理関連法規講座全体の重要ポイント確認と総合レポート（総合テスト）の作成 危機管理関連法規にかかわる講座全体の重要ポイント確認と総合レポートの作成を行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 授業計画の各回で指示されたテキスト、レジュメ資料の箇所を丹念に繰り返し読むとともに授業関連のテーマに沿った判例、参考書などを図書館で調べておくこと。
- 2) 事前学習として、講義の対象となるテキストの箇所を読み込こんでおくこと。
- 3) 事後学習として、講義の対象であったテキストと内容を再確認すること。

教科書

赤堀勝彦『リスクマネジメント入門～いま、リスクの時代を生き抜くために～』（株式会社保険教育システム研究所）（2017年7月出版）（3,000円＋税）。ISBN 978-4-901857-78-9

参考書

赤堀勝彦『リスクと保険用語辞典』（金融ブックス）（2015年4月出版）（2,950円＋税）。ISBN978-4-904192-59-7

石川清英『事例からみた地域金融機関の信用リスク管理』（きんざい）（2015年6月出版）（3,700円＋税）。ISBN978-4-322-12612-9

備考

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 石川清英

授業の概要

阪神大震災、オウム真理教による地下鉄サリン事件などを契機に、国民の危機管理に対する意識も高まり、国・自治体も危機管理に関する制度の構築、さまざまな施策の展開に努めてきた。また、2011年の東日本大震災を機に、わが国の危機管理に対するさまざまな問題点が指摘されている。しかし、学問として見た場合、危機管理政策という学問分野は未だに体系が構築されていないのが現状である。本講義では、危機管理に関する法制度にもとづき、実際に国・自治体・企業などにおいてどのような危機管理体制が構築され、危機に対しどのような対応が講じられるかについて考察し、国の危機管理の全体像のイメージを構築する。講義中心の授業であるが、対話型の授業方式を重視し、受講生からの意見や問題点等について自発的な発言を求める。

なお、この科目の担当者は、金融機関、金融機関相手のコンサルティング会社等において、金融リスクマネジメント、法務等の実務及び教育指導を役員・管理職の立場で実施してきた、実務経験のある教員である。従って、授業時には具体的な事例を交えて、より分かりやすく実践的な「危機管理政策論」を指導したい。

社会人として活躍するための危機管理に関する知識や技能を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1．危機管理政策の意義について説明できる。（知識）
- 2．危険管理に関する法制度を説明できる。（知識）
- 3．国・自治体・企業等組織の危機管理体制について、意見をまとめて発表することができる。（態度・習慣、技能）

評価方法

総合レポート（総合テスト）50％（到達目標1・2を評価）、授業中の発表・レポート50％（到達目標3を評価）の割合で評価する。

注意事項

受講生は積極的に授業に参加し、学生としてのマナーを守るとともに授業中の質疑応答に対しても旺盛な意欲を示すことを希望する。

授業計画

回数	内容
第1回	危機と危機管理の意義 国・自治体など組織にとっての危機、危機管理とは何かについて事例を紹介しながら講義を進める。
第2回	国・自治体など組織における危機管理の基本 ① 平常時の危機管理、② 緊急時の危機管理、③ 収束時の危機管理などについて学習する。
第3回	自然災害と危機管理 地震災害の特徴、地震防災戦略の策定、防災基本計画の策定などについて学習する。
第4回	阪神淡路大震災と危機管理 阪神淡路大震災と国・自治体など組織の危機管理について学習する。
第5回	東日本大震災と危機管理 東日本大震災と国・自治体など組織の危機管理などについて学習する。
第6回	国・自治体など組織を取り巻く環境の変化 ① クレーマーの増加、② 内部告発の一般化などについて学習する。
第7回	BCM（業務継続マネジメント）、BCP（業務継続計画） BCM とBCPについて具体的な事例を紹介しながら学習する。
第8回	危機管理政策の基本認識と確認テスト（中間テスト） 国・自治体など組織の危機管理政策の必要性和学習確認のために小テスト（中間テスト）を行う。
第9回	危機管理としての賠償資力確保 国・自治体など組織の危機発生にかかわる賠償資力としての保険の活用と課題について学習する。
第10回	クライシス・コミュニケーションの重要性 クライシス・コミュニケーションの意義、要件などについて学習する。

回数	内容
第11回	不祥事と危機管理 国・自治体など組織の不祥事と危機管理などについて具体的な事例を紹介しながら学習する。
第12回	緊急事態発生時と国・自治体など組織のメディア対応 事故・災害発生時、不祥事発生時と国・自治体など組織のメディア対応について事例を紹介する。
第13回	テロと危機管理 テロと国・自治体など組織の危機管理などについて学習する。
第14回	地下鉄サリン事件と危機管理 オウム真理教による地下鉄サリン事件と国・自治体など組織の危機管理について学習する。
第15回	危機管理政策講座全体の重要ポイント確認と総合レポートの作成 危機管理政策にかかわる講座全体の重要ポイント確認と総合レポート（総合テスト）の作成を行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

1. 授業計画の各回で指示されたテキスト、レジュメ資料の箇所を丹念に繰り返し読むとともに授業関連のテーマに沿った判例、参考書などを図書館で調べておくこと。
2. 事前学習として、講義の対象となるテキストの箇所を読み込こんでおくこと。
3. 事後学習として、講義の対象であったテキストと内容を再確認すること。

教科書

赤堀勝彦編著『危機管理政策入門』（2018年10月出版）（1,500円＋税）。ISBN978-4-901857-88-8

参考書

赤堀勝彦『リスクマネジメント入門～いま、リスクの時代を生き抜くために～』（株式会社保険教育システム研究所）（2017年7月出版）（3,000円＋税）。ISBN 978-4-901857-7-78-9

備考

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 徳重哲哉

授業の概要

自然災害には、毎年のように各地で発生する風水害・土砂災害のほかに、数十年から数千年に一度しか発生しない地震や火山噴火もあり、被災地域の空間的スケール、発生頻度や復旧・復興までの時間的スケールとも幅広い。「天災は忘れた頃にやって来る」といわれるが、過去の災害を記憶に留めるだけでなく、将来の災害への備えも重要である。

本講義では、防災士資格取得に向けた養成カリキュラムのうち「災害発生のしくみ」「災害に関する情報」を取り上げ、いつ、どこで被災するか予想できない自然災害の発生メカニズムと防災・減災対策について解説する。そして、自らを守るだけでなく、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につけることを目的とする。

講義を進めるにあたり以下を取り入れる：

【アクティブラーニング】グループディスカッションとプレゼンテーションを行う

【フィードバック】毎回出題する課題に対する講評を行う

到達目標

- （１）自然災害にはいろいろな種類・規模・頻度があることを認識できる
- （２）自然災害の発生メカニズムが理解できる
- （３）自然災害から身を守り、被害を少なくする方法（防災・減災）を実践できる
- （４）自然災害が社会活動（経済、医療、教育など）に与える影響が理解できる
- （５）自然災害と防災・減災について他者に明快地説明できる

評価方法

- （１）学期末レポート（３０％）：到達目標（１）～（５）を評価
- （２）授業外学習に関するレポート（３０％）：到達目標（１）～（４）を評価
- （３）授業時間中に行うプレゼンテーション（２０％）：到達目標（２）、（３）、（５）を評価
- （４）授業・課題に取り組む姿勢（２０％）：ディスカッション、プレゼンテーションでの質疑などの積極性を評価

この授業では、課題の提出が必須条件です。提出していない場合は評価の対象となりません。

総合計６０点以上を合格とする。

注意事項

- （１）防災士の資格取得を目指す学生を主対象とする。
- （２）許可のない途中退出は不可とする。やむを得ず退出する場合は証明書等を提出すること。
- （３）欠席、遅刻、早退は原則不可とするが、やむを得ない場合は証明書等の提出を要する。証明書の提出のない１０分を超える遅刻等は欠席扱いとする。
- （４）授業中の私語及び周囲から迷惑と思われる行為については禁止する。その場合は退出の上欠席扱いとする。
- （５）スマートフォンやタブレット等、授業に関係のない電子機器の使用は禁止する。授業中の飲食についても同様とする。それらが認められた場合は退出のうえ欠席扱いとする。
- （６）必要と思われる講義資料については「Google classroom」の指定されたクラスにアップロードする。
- （７）課題レポート、プレゼンテーション資料等は「Google classroom」の指定したクラスに提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション、自然災害のスケール
第2回	宇宙の中の地球
第3回	地震災害１：地震のメカニズム
第4回	地震災害２：主な地震災害
第5回	地震災害３：地震の防災・減災
第6回	地震災害４；課題プレゼンテーションとまとめ

回数	内容
第7回	火山災害 1：火山噴火のメカニズム
第8回	火山災害 2：主な火山災害、火山の防災・減災
第9回	火山災害 3：課題プレゼンテーションとまとめ
第10回	気象災害 1：気象現象
第11回	気象災害 2：風水害
第12回	気象災害 3：土砂災害
第13回	気象災害 4：課題プレゼンテーションとまとめ
第14回	自然災害と自助・共助
第15回	まとめ、ふりかえり

授業外学習

※ 復習として課題レポートを毎回出題し、次回授業の冒頭に講評を行う。

教科書

著者名：認定特定非営利活動法人日本防災士機構

書名：防災士教本（2022年版）

出版社名：認定特定非営利活動法人日本防災士機構

参考書

講義の中で随時紹介する

備考

リスクマネジメントの基礎（21202）

後期

Basics of risk management

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

この授業では、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につける。私たちが生活する現代社会には、企業・家庭・官公庁などが関係しているリスクがあり、その立場が異なればリスクそのものの質・量・程度は異なってくる。

本講義では、前半でリスクの概念やリスクマネジメントに関する基礎的な内容について体系的に学習し、後半では現代企業におけるビジネスリスクにおけるマネジメントを中心に学習することで、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につける。

※この講義を履修する前に、「危機管理学概論」と「危機管理と社会制度」を修得しておくことが望ましい。

※Google Classroomのクラスコード：sv3b7r3

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションと調査学習およびグループ発表を取り入れている。

到達目標

- 1.リスクマネジメントを取り巻く用語について理解できる
- 2.リスクマネジメントの意味と手法を理解し説明できる

評価方法

・学期末試験：30%（到達目標 1 を評価）

※但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】

・授業時間外での作成レポートの内容で評価(該当授業回内での提出14回)：42%（到達目標 1、2を評価）

※但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回分は採点しない】

・平常点【授業への積極的参加および態度】(グループ・ディスカッションと発表の内容)：28%（到達目標2を評価）

※但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】

★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない。

注意事項

1)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は[証明書]などを提示の上、事前許可要

2)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要

※ 10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする

3)授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする

4)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする

5)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止

※特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする

6)授業中の飲食禁止

※教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする

7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション リスクとは？ リスクマネジメントの目的
第2回	リスクから損失へのメカニズムを知る
第3回	リスクマネジメントと保険の関係
第4回	リスクマネジメントは前向きな行動
第5回	リスクマネジメントは意思決定システムである
第6回	リスクマネジメント経営とは
第7回	リスクマネジメントの発展の歴史
第8回	日本社会の大きな流れ（自己責任社会の到来）
第9回	社会構造の変化 社会の価値観の変化によるハザード（マーケットの変化）
第10回	組織内の意思決定のズレ
第11回	信じていたものの転換
第12回	コンプライアンス経営の必要性
第13回	グローバルスタンダード・ルールへの転換とそのハザード その他の大きなハザード
第14回	近年の重要リスク
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

・次の授業までに掲載されたリスクに関連したニュース（時事）の中から、自分に一番影響がある（リスクが発生する）と考えられる1件を選択すること
※但し、“新型コロナウイルス（COVID-19）”関連のニュースは除く

・選択したニュース（時事）に対して、自分へのリスクの関係性と考えを含めたレポートを600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること
※発表時にグループメンバー全員のレポートを提出すること《後からの提出は、未提出扱いとする》
（4.2時間／回） 14回

教科書

教科書は、使用しない

参考書

図解 リスクのしくみ、東洋経済新報社、石井至、ISBN:9784492092989

図解 入門ビジネス 最新リスクマネジメントがよ〜くわかる本、秀和システム、東京海上日動リスクコンサルティング、ISBN:9784798032887

リスクマネジメント論トレーニング、創成社、鴻上喜芳、ISBN:9784794424167

備考

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

確率論をベースとして、統計的データをまとめたり分析したりするために必要な統計学的知識の基礎を学ぶことを目的とする。最初に統計の基礎としてデータ・グラフ・基本統計量などについて学習し、次いで統計のベースとなる確率論の基礎を学び、それに基づいたデータの分析手法（推定・検定等）について学習する。

学科の各コースに共通する基礎的な知識及び技能を身に着けることを目的とする科目である。

危機管理学科のディプロマポリシー「経済・経営分野に関連する危機管理の知識及び技能を身につけ、一般企業、官公庁などの事業継続計画(BCP)を立案できる。」「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 「統計学の基礎的な知識を身につける。」
- 「教科書などの資料を参照しながらであればデータの整理・分析ができるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業への参加状況などの平常点40％（到達目標1、2を評価）と授業中に行なう小テスト60％（到達目標1、2を評価）により評価する。小テストは間違いの訂正後の再提出分も評価に加える。

注意事項

特になし。

授業計画

回数	内容
第1回	統計とは（扱うデータ・記述統計と推測統計）
第2回	度数分布とヒストグラム
第3回	基本統計量（代表値と散らばりの尺度）
第4回	確率の基礎1（場合の数・順列・組合せと統計的確率）
第5回	確率の基礎2（条件付き確率と事象の独立・従属）
第6回	確率の基礎3（2項定理）
第7回	確率変数と確率分布
第8回	2項分布
第9回	連続的なデータと確率変数
第10回	正規分布
第11回	母集団と標本・標本の抽出法
第12回	推定（平均・比率、区間推定）
第13回	検定（平均・比率の差、独立性）
第14回	相関（散布図・相関係数）と回帰分析
第15回	まとめ

授業外学習

予習として授業計画の毎回のテーマに関連する部分を教科書から探し、目を通しておくこと。（毎週 1 時間程度）
また、各回の授業開始時に前回の授業内容に関する小テストを実施するので、しっかり復習しておくこと。（毎週 3 時間程度）

教科書

ミニマムエッセンス統計学|三土 修平|日本評論社|978-4-535-55396-5
確率・統計入門 順列・組み合わせから推測まで|有馬 哲ほか|実教出版|978-4-407-03147-8

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

企業経営危機論 I (21204)

前期

Corporate management crisis I

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	安達精治

授業の概要

■ 企業の経営活動の仕組みや経営資源を理解し、経営に関する興味と理解を深める。一方で、企業経営上におこる諸課題について具体的な事例を取り上げ、様々な事例や事故等を紹介する。

■ 経営危機をいかに未然に防ぎ、また万が一発生した場合にも経営に対する影響を最小限に抑える対策等を学習する。本講義では、リスク回避の手法の考察をする。

■ 【フィードバック】 予習レポートについて発表を行い、提出物を確認の上、理解度に応じて解説をおこなう

到達目標

- 1. 企業経営における経営危機管理（リスクマネジメント）についての基礎知識の習得を目標とする。
- 2. 様々なリスク対策として、日常の経営管理・市場分析・資金計画・ファイナンス等の基本を習得、その具体的な手法について理解できる。

評価方法

- 評価 定期試験：80% （目標1～2を概念編と数値編の総合評価）
- 出席（レポート）：20% （目標1～2を提出レポート内容にて評価）にて成績評価し、総合60点以上

注意事項

私語を慎む、無断遅刻の禁止

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション
第2回	経営とは何か？ MMC マーケティング Cash Flow
第3回	リスクマネジメントの基礎知識と
第4回	リスクマネジメント手法 部門別損益と損益分岐点を知る
第5回	企業経営と企業Risk Managementの関係に
第6回	Risk Management研究事例 ①
第7回	Risk Management研究事例 ②
第8回	Risk Management研究事例 ③
第9回	Corona禍での現実経営
第10回	リスクの洗出しとRiskマッピング
第11回	Risk Managementと企業存続のための地方創生の関係
第12回	国内企業Risk Management研究事例 ④⑤
第13回	国内企業Risk Management研究事例 ⑥⑦
第14回	標準企業組織と リスクマネジメントの関係
第15回	リスクマネジメントと統計学 金融におけるリスク

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・参考書や授業で配布されるレジメや資料を良く読んで必ず予習・復習を行うこと。
- ・レポート課題を複数回出題する。

教科書

授業当日にプリントを配付する

参考書

備考

特になし

インターンシップ (21205)

通年

Internship

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 芦田雅子 👤 渡谷真吾 👤 ブラダンスジット

授業の概要

学生がインターンシップを経験することにより、将来活動する企業、自治体、各種団体等における課題を発見し、特に危機管理の専門的知識をもって解決できる能力を身につける科目である。学科での学びを実社会でどのように行かせるのか、企業、行政機関等での職場体験を通じ、その組織の理解を深め、将来の職業選択や職業意識の醸成をはかることを目的とする。

【アクティブラーニング】発見学習、問題解決型学習、プレゼンテーション（学内公開）を取り入れている。

【フィードバック】実務資料の提出、プレゼンテーション（報告会）、レポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

到達目標

この講義は、経済・経営など専門分野の諸問題を解決する能力を身につけることを目的として以下のように目標を設定している。

- 1．自己分析・企業分析を踏まえ、決められた期日までに履歴書やエントリーシートを作成することが出来る。
- 2．インターンシップを通して、専門分野の諸問題を自ら解決できる。
- 3．インターンシップを通して、実社会で求められる社会人基礎力やマナーを実践できる。
- 4．インターンシップを通して、実社会で求められる人材とは何かを理解し自らの言葉で説明できる。
- 5．インターンシップの成果を報告書でまとめ、口頭で発表することが出来る。

評価方法

- ・座学への取り組みとエントリーシートや履歴書の作成40%（到達目標 1， 4、 5 を評価）
 - ・実習内容30%（到達目標 2， 3 を評価）
 - ・インターンシップ成果報告30%（到達目標 4， 5 を評価）
- 総合計60点以上を合格とする。

注意事項

科目の特性上、以下の条件を満たさない場合は、インターンシップの参加を認めない場合がある。

- ・社会的なマナーとして時間を守って行動できることや挨拶が交わせること。
- ・受講態度が誠実であること。
- ・エントリーシート・履歴書の記入が期日までにできていること。
- ・留学生は実習に支障のない日本語能力 N 1（N 2）を取得していること。

単位評価については、以下の注意事項を理解すること。

- ・原則として同じ実習先で40時間のインターンシップを単位評価の対象として認める。なお、この条件に満たない場合でも、事前に教員と合議のうえで認める場合がある。
- ・本講義は原則として夏季休暇中にインターンシップを実施するものとする。したがって、夏季休暇に入る前までにインターンシップ先を決定し、決定届を提出しなければならない。冬季休暇中にインターンシップを希望する学生は教員に事前に届け出をし承諾を得ること。
- ・近年のインターンシップを取り巻く環境は随時変化しており、例えば企業でのインターンシップを希望しても学年によっては受入れが不可能な場合もある。特に低学年の学生については受入れが不可能な場合が多いことを了承すること。
- ・シラバスでは10週目で終了予定であるが、学生のインターンシップの状況次第では11週目以降も継続する場合がある。

授業計画

1 週目(4/12)：オリエンテーション及びインターンシップの心得を説明する（教員 1 芦田雅子、教員 2 渡谷 真吾、教員 3 ブラダナン スジット）

2 週目(4/19)：インターンシップマッチングサイトの活用について（教員 1 芦田雅子、教員 2 渡谷 真吾）

3 週目(4/26)：自己分析と履歴書記入（1）（教員 1 渡谷 真吾、教員 2 ブラダナン スジット）
＊授業中に履歴書フォームを渡し記入する。

4 週目(5/10)：エントリーシートの書き方の指導（教員 1 芦田雅子、教員 2 ブラダナン スジット）
＊授業中にエントリーシートを渡し記入する。

5 週目(5/17)：企業検索、企業分析（教員 1 芦田雅子、教員 2 渡谷 真吾）

6 週目(5/24)：企業検索、企業分析（教員 1 プラダン スジット、教員 2 渡谷 真吾）

7 週目(5/31)：インターンシップ事前マナー研修、礼状作成（教員 1 芦田雅子、教員 2 プラダン スジット）
＊前期授業は 7 週目をもって終了するが、時間外に担当教員の指導を受けたい場合は積極的に申し出ること。

インターンシップ期間：原則夏期休暇中、1 日 8 時間 5 日間（40 時間）
＊実習先の決定届を夏季休暇に入る前に提出すること。

8 週目(9/27)：実習日誌、発表原稿作成、（教員 1 芦田雅子、教員 2 渡谷 真吾、教員 3 プラダン スジット）

9 週目(10/4)：インターンシップ発表準備（教員 1 芦田雅子、教員 2 渡谷 真吾、教員 3 プラダン スジット）
＊発表会用のスライド作成については定められたフォームを使用する。

10 週目(10/11)：インターンシップ報告会（教員 1 芦田雅子、教員 2 渡谷 真吾）→報告会は日時を変更する場合がある。（学内公開）

授業外学習

- ・実務に関しては、授業外でもエントリーシートや履歴書の記入方法、インターンシップ先との連絡メールのマナーなどを積極的に身につける。参考資料として、大学キャリアセンターが発刊する「キャリアハンドブック」を参照すること。
- ・実習期間中は、実習日誌を毎日つけることを求める。実習日誌は実習先のフォームを使用することもあるが、授業中に配布する基本的な日誌のフォームの書き方を身につける。実習先の評価書類の提出を求める場合もある。
- ・インターンシップで得た学びを、大学内外または公的な場で広く発信する機会を自ら希求する。これは到達目標の「5」に相当し、プレゼンテーション能力の向上にも繋がる。

教科書

指定しない。

参考書

資料については都度紹介する。

備考

特記なし。

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

経営の知識をリーダーシップ研究の多様なアプローチについて学習し、リーダーシップの基本的な知識を習得する。リーダーの具体的行動とフォロワーとの相互関係について考え、マネジメントに求められる効果的なリーダーシップスタイルとは何かを学ぶ。
それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」と「理想的なリーダーシップ」について、考えを深めるきっかけとする。
この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

【アクティブラーニング】

- ・グループ・ディスカッションやケース分析を取り入れている

【フィードバック】

- ・課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

- 1．リーダーシップ研究の基本的な知識を理解し、説明できるようになる。
- 2．リーダーの具体的行動とフォロワーとの相互関係について考え、マネジメントに求められる効果的なリーダーシップスタイルについて説明できるようになる。
- 3．理想的なリーダーシップについて、企業や組織活動の視点から考察できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2、3を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標1~3を評価）
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

経営学概論を事前に受講している事が望ましい。

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクションーリーダーとリーダーシップー
第2回	リーダーシップとは
第3回	モチベーションー何によって動機づけられるのかー
第4回	組織コミットメントーコミットメントの意義ー
第5回	キャリア・マネジメント1ー個人主導への変化とはー
第6回	キャリア・マネジメント2ーキャリアデザインー
第7回	組織ストレスーストレスとその対処方法ー
第8回	チーム・マネジメントーチームの成功に向けてー
第9回	組織学習ー誰がどのように学習するのかー
第10回	組織変革ー変化への対応ー

回数	内容
第11回	組織文化ーリーダーと組織文化の形成ー
第12回	組織的公正ー制度設計への課題ー
第13回	ダイバーシティ・マネジメント
第14回	プロフェッショナル・マネジメント
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 配布資料に基づき、復習・ノート整理を行う。(毎週2.5時間程度)
- 2) 授業で紹介する文献や資料を読み、講義への理解をより高める。(毎週1.5時間程度)

教科書

資料は、講義時に適宜配布します。

参考書

服部泰宏著『組織行動論の考え方・使い方』有斐閣(2020) ISBN 978-4641165663

開本浩矢著『組織行動論』中央経済社(2019) ISBN978-4502295614

必要に応じ授業中に適宜紹介

備考

特になし

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 山中高光

授業の概要

この科目は経済・経営分野の知識を身につけるための科目の一つである。

我々が実生活を送るうえで、様々な経済現象、経済問題に遭遇し、大きな影響を受けている。現代の複雑な世の中において、経済に関する基礎的な知識は不可欠になっている。そこで、現代の経済社会の構造と機能を理解するために、初めて経済学を学ぼうとする学生を念頭に置いて基礎的な経済理論の講義を行う。本講の目的は、学生が現代社会の経済問題を理解するうえで必要な経済学の考え方や基礎理論を習得し、より進んだ経済学の理解と応用に向かうことができるようにすることである。

到達目標

- 1．現代社会の経済問題を理解するうえで必要な経済学の考え方や基礎理論を理解し説明できるようになる。
- 2．より進んだ経済学の理論と応用に向かうことができるようになる。

評価方法

到達目標

- 1．現代社会の経済問題を理解するうえで必要な経済学の考え方や基礎理論を理解し説明できるようになる。
- 2．より進んだ経済学の理論と応用に向かうことができるようになる。

評価方法

到達目標 1、2 を定期テストにより評価する。そのうち到達目標 1 を60％、到達目標 2 を40％評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。

また、授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく

授業計画

- 1週目：経済学とは—われわれの生活と経済学、基本的な経済問題、経済学の基本的な考え方
- 2週目：市場経済と日本経済のあゆみ—産業革命以降現代までの経済の歩みと第2次世界大戦以降の日本経済の歩み
- 3週目：需要と供給—ミクロ経済学とは、価格、需要、供給、需要曲線、供給曲線
- 4週目：価格の決定と市場の調整—需要曲線のシフト、価格メカニズム
- 5週目：家計の行動—日本の家計の実態、家計行動の経済学的見方
- 6週目：企業の行動—企業の種類、株式会社の仕組み、企業行動の経済学的捉え方
- 7週目：市場取引—市場メカニズム、資源配分、自由貿易の利益
- 8週目：市場の限界と政府の役割—所得分配、市場の失敗（独占、外部性、公共財、情報の非対称性）、政府の役割
- 9週目：経済全体の活動を捉える枠組み(1)—マクロ経済学とは、SNA、GDP、
- 10週目：経済全体の活動を捉える枠組み(2)—物価、失業率、景気循環
- 11週目：GDPの決定—総需要、総供給、有効需要、消費、投資、乗数理論
- 12週目：貨幣と金融—マネーストック、マネタリーベース、貨幣供給、家計需要、利子率の決定
- 13週目：マクロ経済政策—財政政策、財政赤字、金融政策、物価の安定、金融システムの安定
- 14週目：グローバル化と経済政策—貿易の利益、国際収支、為替レート、国際マクロ経済学
- 15週目：経済成長—経済成長、潜在GDP、成長方程式、成長理論

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前に資料を配布するので予習をすること。また練習問題（授業中に解説する）があるので基礎的な復習に役立てること。

授業中でもできるだけ取り上げるが、まずは日々の経済ニュースや経済データに接し、それらについて授業で学んだことを応用して考察し、自分の意見を持つことが望ましい。

教科書

資料を配布する。

参考書

塩澤 修平『経済学・入門 第3版』有斐閣、2013年。ISBN 978-4-641-22004-1

伊藤 元重『入門経済学第4版』日本評論社、2015年。ISBN 978-4-535-55817-5

マンキュー『マンキュー入門経済学』（第2版）東洋経済新報社、2014年。ISBN : 9784492314432

その他授業中に随時紹介する。

備考

Google Classroomを資料提示，練習問題解説などに活用する。

リスクコミュニケーション（21253）

前期

Risk communication

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

リスクコミュニケーションの目的は、現代社会に遍在するさまざまなリスクに対処するために社会全体の共有資源をどのように配分するのかについての社会的合意形成を促すことである。

本講義では、人間が生活していく上での社会的なリスクについての取り組み事例を取り上げながら、リスクの社会的受容についてのリスクコミュニケーションの意義と問題点について学習をし、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につける。

※この講義を履修する前に、「危機管理学概論」と「危機管理と社会制度」および「リスクマネジメントの基礎」を修得しておくことが望ましい。

※Google Classroomのクラスコード：cph2bqx

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションと調査学習およびグループ発表を取り入れている。

到達目標

- 1.リスクコミュニケーションの用語について理解できる
- 2.リスクコミュニケーションの基礎的知識を理解し、説明できる

評価方法

- ・学期末試験：30%（到達目標1を評価）
 - ＊但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】
 - ・授業時間外での作成レポートの内容で評価(該当授業回内での提出14回)：42%（到達目標1、2を評価）
 - ＊但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
 - ・平常点〔授業への積極的参加および態度〕(グループ・ディスカッションと発表の内容)：28%（到達目標2を評価）
 - ＊但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
- ★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない

注意事項

- 1)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は[証明書]などを提示の上、事前許可要
- 2)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
 - ＊10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
- 3)授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする
- 4)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
- 5)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
 - ＊特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする
- 6)授業中の飲食禁止
 - ＊教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする
- 7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする
 - ＊但し、【教科書】は著作権があるためアップロードしない

授業計画

- ・第1週目から第8週目までは、高校公民の教科書「公共的な空間に生きる」に対応
- ・第6週目から第12週目までは、高校公民の教科書「持続可能な社会を目指して」に対応

*第6週目から第8週目は、両方に対応している

1週目：オリエンテーション

はじめに

- *子どもを取り巻く環境：PP76-79.

2週目：リスクコミュニケーションって？/リスクコミュニケーションは何のため？

- *共に生きる社会へ：PP80-83.

3週目：言葉に対する誤解

- *平和な世界どうやって：PP116-119.

4週目：リスクコミュニケーションのポイント

- *変化する日本の働き方：PP66-69.

5週目：平時と緊急時のリスクコミュニケーション

- *災害列島に生きる：PP96-99.

6週目：食品と放射性物質

- *地球環境を守るために：PP100-103.

7週目：放射性物質のリスクの大きさ

- *エネルギー政策の未来：PP52-55.

8週目：社会のリスクを読み解く力＝リスクリテラシー/「場」作り・ネットワーク作り/

安全で安心な社会を作るために（1）

- *いのちと科学を考える：PP92-95.

9週目：リスク評価（食生活を中心に）/「ゼロリスク」はなぜない？

- *借金頼みの財政：PP36-39.

10週目：ハザードからリスクへ：食品とリスク評価の歴史/「ハザード」と「リスク」の関係

- *加速する人口減少：PP58-61.

11週目：“ハザード”はどのように決まる？/リスクアナリシス/国ごとのリスク評価

- *社会保障のこれから：PP62-65.

12週目：リスク評価の独立性/リスク評価の要素

- *情報社会の階段の先に：PP88-91.

13週目：リスク評価の手順と限界/動物実験データを元にする場合/

安全側に立って評価される/新しい知見によって変化する

#気候変動リスク

#自然災害リスク

14週目：リスク評価の各手法

#化学物質リスク

#放射線リスク

#感染症リスク

15週目：リスクコミュニケーション（まとめ）/リスクの大きさを伝える

安全で安心な社会をつくるために（2）

授業外学習

学習時間の目安：60時間

・授業計画【1週～12週】：次回の授業に、各自が*マーク（指定したテキスト）の項目を熟読し、テーマを決めた上で教科書以外に各自で必ず資料（図書・雑誌記事、新聞、判例、テレビ番組、Webサイト：出典の記入は必須）を検索（人からの聞き伝えは不可）し、それに対して“どのようなリスクが含まれているか、どの程度のリスクか、そのリスクに対してどう対応するか”を自分の意見を必ず含めたレポート600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること（4.5時間/回）13回

・授業計画【13・14週】：次回の授業に、各自が#マークの項目について、各自で必ず資料（図書・雑誌記事、新聞、判例、テレビ番組、Webサイト：出典の記入は必須）を検索（人からの聞き伝えは不可）し、その中の1件に対してテーマを決めた上で、それに対して“どのようなリスクが含まれているか、どの程度のリスクか、そのリスクに対してどう対応するか”を自分の意見を必ず含めたレポート600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること（1.5時間/回）1回

※上記の発表時にグループメンバー全員のレポートを提出すること《後からの提出は、未提出扱いとする》

教科書

*注意：同じ年度に開講される前期開講「リスク・コミュニケーション」・読替「リスクコミュニケーション」と、後期開講「危機管理と社会制度」の教科書は同じですので、重複して購入しないでください。

書名：2022年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）

監修：日本ニュース時事能力検定協会

発行 : 毎日教育総合研究所／毎日新聞社
発売 : 毎日新聞出版
ISBN : 978-4-620-907543

参考書

リスクコミュニケーション、エネルギーフォーラム、西澤真理子、ISBN9784885554247
正しいリスクの伝え方、エネルギーフォーラム、小島正美、ISBN9784885553875
リスクガヴァナンスの社会心理学、ナカニシヤ出版、広瀬幸雄、ISBN9784779508530
社会生活からみたリスク、岩波書店、山田昌弘・佐藤学_他、ISBN9784000284790

備考

教科書を購入時は、教科書欄の【注意】を確認してください。

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

この講義では、立法・行政・司法といった三権分立の仕組みと、行政と立法、行政と司法との兼ね合いについて学ぶ。具体的な行政法の内容は次の三分野に分かれる。すなわち、（１）「行政組織」の分野、つまり行政組織や公務員の職務に関するもの、（２）「行政作用」の分野、つまり私人に対する財やサービスの給付などに関するもの、（３）「行政救済」の分野である。このうち、特に最後の行政救済の分野では行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法が行政救済三法と呼ばれ、最重要分野となっている。これらの分野を体系的に学ぶ。

「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

- 1) 憲法、民法、行政法の関係について理解する。
- 2) 行政の原則について理解する。
- 3) 行政行為・行政指導などについて理解する。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合20%

分野ごとの小テスト（計 3 回）：評価割合40%

最終試験：評価割合40%

* 合格基準は60点。

注意事項

公務員試験を受験したい学生向きの内容となる。

行政法は民法が基礎になっている部分があるので、民法を履修しておくことが望ましい。

授業計画

- 第 1 回 行政法の進め方について説明する。教科書の内容とプリントの内容との兼ね合い、および国家試験対策としての有用性についても説明する。
- 第 2 回 行政法の基本原則としての三権分立や法治主義について詳しく学ぶ。それにより近代国家には欠くことのできない基本原則が存在し、普段はそれを当たり前のように感じていることを理解出来るようになる。
- 第 3 回 行政組織（1）：行政組織について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計 3 回を予定しており、今回の小テーマとしては国家機関と地方行政組織について学ぶので、中央集権制の中での地方自治について理解出来るようになる。
- 第 4 回 行政組織（2）：行政組織についての 2 回目。今回の小テーマとしてはマイナンバー制度の活用について学ぶので、行政と個人との関わりについて理解出来るようになる。
- 第 5 回 行政組織（3）：行政組織についての 3 回目。今回の小テーマとしては情報公開について学ぶので、情報公開制度と個人情報の管理（プライバシー権）との関わりについて理解出来るようになる。
- 第 6 回 行政組織について的小テスト
- 第 7 回 行政作用（1）：行政作用について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計 3 回を予定しており、今回の小テーマとしては行政行為（行政処分）について学ぶので、公権力の行使を中心とする行政の役割と法治国家としての重要性について理解出来るようになる。
- 第 8 回 行政作用（2）：行政作用についての 2 回目。今回の小テーマとしては行政裁量について学ぶので、厳格な法治主義の弊害と現実的修正について理解出来るようになる。
- 第 9 回 行政作用（3）：行政作用についての 3 回目。今回の小テーマとしては行政指導について学ぶので、ルールなき行政の活用と弊害の歴史について理解出来るようになる。
- 第10回 行政作用について的小テスト
- 第11回 行政救済（1）：行政救済について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計 3 回を予定しており、今回の小テーマとしては行政不服審査法について学ぶので、行政内部での事案処理について理解出来るようになる。
- 第12回 行政救済（2）：行政救済についての 2 回目。今回の小テーマとしては行政事件訴訟法について学ぶので、行政に対する国民の不満を司法の場（裁判所）で処理する手続について理解出来るようになる。
- 第13回 行政救済（3）：行政救済についての 3 回目。今回の小テーマとしては国家賠償法について学ぶので、行政による不法行為の特色について理解出来るようになる。
- 第14回 行政救済について的小テスト

第15回 これまで行った計3回の小テストから抜粋した問題を使って、行政組織・行政作用・行政救済のまとめテストを行い、行政法全体の総まとめとする。自分の理解出来ている箇所と理解不十分な箇所が分かるようになる。

授業外学習

- 第1回 教科書のテーマをプリントで補足しながら授業を進めるので、それに伴う予習と復習の仕方について説明する。行政法の分野は自分でしっかり勉強しないと頭に入らないような専門用語が出てくるので、予習と復習が重要であることを理解する。（標準学習時間120分）
- 第2回 予習：三権分立や法治主義について予め自分で調べることが大切である。復習：基本的な社会の仕組みを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第3回 予習：行政組織について予め自分で調べることが大切である。復習：中央集権と地方分権の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第4回 予習：マイナンバー制度について予め自分で調べることが大切である。復習：行政と個人との関わり方を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第5回 予習：情報公開の必要性について予め自分で調べることが大切である。復習：情報公開制度と個人情報の管理（プライバシー権）の兼ね合いについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第6回 行政組織について的小テストを行うので、必ず予習することが必要となる。復習：行政組織について自分が理解出来ていない箇所を知ることが出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第7回 予習：行政の仕事について予め自分で調べることが大切である。復習：行政行為（行政処分）の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第8回 予習：行政の仕事について予め自分で調べることが大切である。復習：行政行為（行政処分）と行政裁量の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第9回 予習：行政の仕事について予め自分で調べることが大切である。復習：行政指導が多用されてきた経緯を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第10回 行政作用について的小テストを行うので、必ず予習することが必要となる。復習：行政作用について自分が理解出来ていない箇所を知ることが出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第11回 予習：行政救済について予め自分で調べることが大切である。復習：行政不服審査法の特徴と機能について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第12回 予習：行政救済について予め自分で調べることが大切である。復習：行政事件訴訟法の特徴と機能について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第13回 予習：行政救済について予め自分で調べることが大切である。復習：国家賠償法の特徴と機能について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第14回 行政救済について的小テストを行うので、必ず予習することが必要となる。復習：行政救済について自分が理解出来ていない箇所を知ることが出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書とプリントの内容を復習し、まとめテストでこれまでの不足箇所を再確認することが出来る。（標準学習時間120分）

* 標準学習時間の合計：合計60時間

教科書

櫻井＝橋本「行政法（第6版）」弘文堂（ISBN: 978-4-335-35797-8）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

計量経済学においては、各種データの統計学的解析が必須である。
本講義では、できるだけ計算や処理の手順が分かるような形で、統計解析を実践的に学習する。さらに、プログラミング技法にもふれることのできるパッケージソフトを用いて、計量経済学の基礎を学ぶ。

危機管理学科のディプロマポリシー「経済・経営分野に関連する危機管理の知識及び技能を身につけ、一般企業、官公庁などの事業継続計画(BCP)を立案できる。」に基づく科目。

到達目標

- 1 「統計資料や調査報告などの集計データやグラフの内容が理解でき、また簡単なものなら自ら計算したり図表等を作成したりすることができるようになる。」
- 2 「計量経済学の基礎を理解し、資料を参照しながらであれば統計解析パッケージでの分析や簡単なプログラミングができるようになる。」

評価方法

期末の定期試験は行わず、授業に取り組む姿勢と提出された成果物（1～7回は到達目標 1 を評価し50%、8～14回は到達目標 2 を評価し50%）により評価する。

注意事項

- ・授業を欠席する（した）場合は、必ず欠席届を提出すること。
- ・各回に指示する提出物は平常点の評価に用いるので不十分でも必ず提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	データの並べ替えと抽出
第2回	一次元データの整理
第3回	代表値と散らばりの尺度の計算
第4回	二次元データの整理と分析
第5回	推定と検定の基礎
第6回	2つの母集団の同一性の検定
第7回	二次元データにおける2変数間の関係の検定
第8回	統計解析パッケージの基本操作と簡単なプログラミング
第9回	数学的基礎（線形代数、確率統計）
第10回	単回帰分析
第11回	重回帰分析(1)理論
第12回	重回帰分析(2)パッケージでの実践
第13回	時系列分析(1)モデルと分析法
第14回	時系列分析(2) パッケージでの実践

回数	内容
第15回	まとめ

授業外学習

- ・ 授業計画のテーマに沿って予習として教科書や配布資料に目を通しておく。（毎週 2 時間程度）
- ・ 時間内にでき上がらなかった例題を仕上げ、取り組んだ例題の詳細をきちんと理解できるよう復習をする。（毎週 2 時間程度）

教科書

Excel による統計入門 第4版|縄田 和満|朝倉書店|978-4-254-12243-5

参考書

適宜支持する。

備考

情報ネットワーク概論（21301）

前期

Introduction to Information Network

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 村山公保

授業の概要

社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識及び技能を身につけるため、情報ネットワーク技術の基礎について学習する。ネットワーク社会で必要とされるインターネットや組織内の情報ネットワークシステムの仕組みについて学び、情報ネットワークシステム上の様々なサービスを効率よく活用できる教養を身につける。また、情報と職業のかかわりを理解し、情報にかかわる職業人としての資質・能力を身につける。

【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ、Google Forms)に提出する。

到達目標

1. コンピュータとネットワークが社会でどのように利用されているか意識することが増える。
2. ネットワークの通信で使われるアドレスについて知る。
3. インターネットを動かしている代表的なプロトコルを知る。

評価方法

- ・ Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3を評価)。
- ・ 最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの課題への取り組みの総括、グループワークや発表会への取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- ・ 課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- ・ 授業はMacがある5号棟5階5519共同実験室で行う。入室には学生証が必要なので、忘れないこと。
- ・ 他のグループのメンバーに大きな迷惑となるので、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- ・ 授業の内容には、情報処理技術者試験の、ITパスポート試験、基本情報技術者試験で出題される内容を含んでいる。
- ・ 記録に残すため、発表会やグループディスカッション等の授業風景を撮影することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	情報ネットワークの概要と活用事例
第2回	コンピュータと情報機器
第3回	コンピュータと情報機器に関するグループ討論
第4回	コンピュータと情報機器に関するグループワーク
第5回	コンピュータと情報機器に関するグループ発表
第6回	ネットワークの基礎知識
第7回	ネットワークの基礎知識に関するグループ討論
第8回	ネットワークの基礎知識に関するグループワーク
第9回	ネットワークの基礎知識に関するグループ発表
第10回	情報ネットワークの仕組み

回数	内容
第11回	情報ネットワークの仕組みに関するグループ討論
第12回	情報ネットワークの仕組みに関するグループワーク
第13回	情報ネットワークの仕組みに関するグループ発表
第14回	情報と職業の関わりに関する討論会
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにする。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。

教科書

村山公保著、「基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄著、「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

教養ゼミナール I (21302)

前期

Culture seminar I

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	1. 0 単位
担当教員	村山公保

授業の概要

授業の概要

これから4年間の大学生活にスムーズになじめるようになり、専門分野の諸問題を自ら解決できるようになることを目指すため、大学の仕組みや学修の仕方について「高校までとどう違うのか」という視点から学ぶ。

具体的には、危機管理学科で4年間協働学修する学生相互間の理解を深めた上で、危機管理学科の教員の担当や専門分野の理解、オフィスパワーの活用法、高校と大学の違い、学園の建学の理念と大学や学部・学科の理念、大学生の基礎知識と危機管理、大学の試験と評価など、危機管理学科に入学した学生に必要な事項を学ぶ。また今後4年間の瀬戸内圏・倉敷の地での学びが有意義なものになるように時間外の課題として学外グループ活動を課し、発表会を行う。

この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワークを中心に学んでいく。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ、Google Forms)に提出する。

到達目標

1. 学園や大学や学部・学科の理念が理解できる。
2. 高校と大学の違いが理解できる。
3. グループワークの必要性が理解でき、グループワークを行うことに慣れる。
4. 学科教員の担当や専門分野を知り、困った時に相談に行きやすくなる。

評価方法

- ・ Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3、4を評価)。
- ・ 最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの課題への取り組みの総括、グループワークへの取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- ・ 課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- ・ 授業の運営・実施・評価は村山が中心となって行うが、他の教員が補助として入ることがある。また、授業外学習では危機管理学科の全教員がサポートを行う。
- ・ グループワークを行うので、他のメンバーの迷惑とならないように、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- ・ 記録に残すため、発表会等の授業風景を撮影することがある。(個人が特定されないように配慮するが、写りたくない人は事前に連絡をすること)

授業計画

回数	内容
第1回	授業の進め方、Google Classroomの活用、各自の自己紹介作成
第2回	大学の仕組みや学修の仕方について(高校までとどう違うのか)
第3回	協働学習者である学生相互間の理解を深めるための自己紹介

回数	内容
第4回	危機管理学科教員の担当と専門分野、オフィスアワーの活用について(図書館で本を借りて、オフィスアワー等に教員に説明に行く課題の出題)
第5回	はじめての大学生活(高校と大学の違い) (概要)
第6回	はじめての大学生活(高校と大学の違い) (グループワーク)
第7回	はじめての大学生活(高校と大学の違い) (発表、討論)
第8回	学園の建学の理念と大学や学部・学科の理念
第9回	大学生の基礎知識と危機管理 (概要)
第10回	大学生の基礎知識と危機管理 (グループワーク)
第11回	大学生の基礎知識と危機管理 (発表、討論)
第12回	大学の試験と評価
第13回	学外グループ活動の発表会1
第14回	学外グループ活動の発表会2
第15回	まとめ(授業の振り返り)

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにすること。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、グループワークのために授業時間外に5号館5418・5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック 5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

倉敷芸術科学大学「倉敷芸術科学大学で学ぶこと」(28生対象)

その他、必要に応じて紹介する

備考

特になし

会社法（商法含む）（21303）

前期

Commercial Law (Corporation)

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

商法をベースにして会社法について学ぶ。会社法は民法および商法の応用分野にあたるので、民法で学んだ法人や財産権の知識に加えて、商行為や株式会社の組織・運営についても学ぶようにする。特に現代社会における商行為の中心は株式会社であるので、株式の機能や株主の権限・責任について重点的に学び、適切に会社を運営する意味について知識を深めて行くようにする。これにより経済・経営分野の知識を身につけることができる。

到達目標

1. 株式会社の組織および運営について理解し、説明出来る。
2. 株式の機能について理解し、説明出来る。
3. 資金調達について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%（到達目標1~3を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

民法（財産法）を履修していることが望ましい。

授業計画

第1回 会社法の進め方について説明する。教科書の進捗と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 会社の設立について学ぶ。会社法では持分会社と株式会社の2種類について規定があるので、どのような事業を行うかによって事業形態を選択することが出来る。それぞれの会社の形態によって長所/短所があることを理解出来る。関連する時事問題も取り上げる。

第3回 譲渡制限の付いた株式の機能について学ぶ。株式会社の大多数の形態である譲渡制限株式会社について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 株式上場について学ぶ。株式を市場で売買出来るようにすることで資金調達が出来るようになることを理解する。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 約束手形の機能について学ぶ。会社が他社と取引する場合の決済手段である約束手形の振出について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 委員会設置会社の仕組みと機能について学ぶ。取締役と執行役との相関関係について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 ストック・オプション制度について学ぶ。自社株を使った報酬制度について理解し、会社の流動資金と自社株を組み合わせた人事システムについて分かるようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 フランチャイズ契約の特徴について学ぶ。商標権やノウハウなどを組み合わせた事業運営形態について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 資金調達の方法としての銀行融資と社債の発行について学ぶ。間接金融の仕組みと直接金融の利点について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 ファンドの活用について学ぶ。未公開株を使った資金調達の方法や不振企業の立て直しなどを通じた投資の仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 消費者重視のビジネスモデルについて学ぶ。消費者が商品を選ぶまでの過程とその後の固定客化を通じたビジネスモデルについて考えることが出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 コーポレート・ガバナンスの重要性について学ぶ。企業経営における経営倫理や社内統制について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 M & Aによる企業戦略について学ぶ。他社の買収による事業拡大について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 会社の再建について学ぶ。会社更生法と民事再生法との違いを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 会社の運営方法について学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。会社法を学ぶには、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：会社の設立について予め自分で調べることが大切である。復習：持分会社と株式会社ではどういった点が異なるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：株式譲渡について予め自分で調べることが大切である。復習：譲渡制限株式会社の特徴について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：株式の上場について予め自分で調べることが大切である。復習：資金調達方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：約束手形について予め自分で調べることが大切である。復習：約束手形の機能と振出方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：執行役の役割について予め自分で調べることが大切である。復習：委員会設置会社の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：ストック・オプション制度について予め自分で調べることが大切である。復習：キャッシュを使うか自社株を使うかという報酬制度について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：フランチャイズ契約について予め自分で調べることが大切である。復習：商標権やノウハウをうまく組み合わせて使う方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：資金調達について予め自分で調べることが大切である。復習：社債の発行の仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：資金調達について予め自分で調べることが大切である。復習：未公開株を取得したり不振企業の株式を買い取ることでファンドを形成する仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：消費者について予め自分で調べることが大切である。復習：消費者重視のビジネスモデルの根底にある発想を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：コーポレート・ガバナンスについて予め自分で調べることが大切である。復習：経営倫理の必要性や社内統制の重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：企業買収について予め自分で調べることが大切である。復習：M & Aの方法について理解を深めることが出来る。（標準学習時間120分）

第14回 予習：経営不振と会社の再建について予め自分で調べることが大切である。復習：会社更生法と民事再生法の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

教科書

河野正英『（新版）商取引法講義』大学教育出版（ISBN: 978-4-86692-136-5）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

教養ゼミナールⅡ（21351）

後期

Culture seminar Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤村山公保

授業の概要

半年間の大学生活を踏まえて、より専門的に学問を探究する心と習慣を育てながら、「覚える学習」から「考える学修」ができるようになり、専門分野の諸問題を自ら解決できるようになることを目指すため、大学での学びの基本的な技術を体験しながら体得する。

具体的には、学習・研究などの知的活動を行う上で必要となるノートの取り方、テキストの読み方、レポートの書き方、資料の探し方、発表の仕方などの理論と方法を学び、社会に出てからも役立つような学びの基礎となる資質能力を身につける。また今後の瀬戸内圏・倉敷の地での学びが有意義なものになるように、時間外の課題として学外グループ活動を課し、発表会を行う。この授業では「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」であるアクティブラーニングの手法を取り入れ、各項目はグループワークを中心に学んでいく。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、 Google Classroom(Googleドライブ)に提出する。

到達目標

- 1．大学での学習に必要な学びの方法について理解する。
- 2．グループワークの良い点と難しさを体験する。
- 3．自分の考えを、文字にしたり、言葉にする「言語化」の重要性が理解できる。
- 4．自分とは異なる意見や考えに触れることで、自分の視野が広がることを体験する。

評価方法

- ・ Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3、4を評価)。
- ・ 最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの課題への取り組みの総括、グループワークへの取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- ・ 課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- ・ 授業の運営・実施・評価は村山が中心となって行うが、他の教員が補助として入ることがある。また、授業外学習では危機管理学科の全教員がサポートを行う。
- ・ グループワークを行うので、他のメンバーの迷惑とならないように、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。
- ・ 記録に残すため、発表会等の授業風景を撮影することがある。(個人が特定されないように配慮するが、写りたくない人は事前に連絡をすること)

授業計画

回数	内容
第1回	授業の進め方
第2回	ノートの取り方
第3回	テキストの読み方（概要）
第4回	テキストの読み方（グループワーク）
第5回	テキストの読み方（発表、討論）
第6回	レポートの書き方（概要）

回数	内容
第7回	レポートの書き方（グループワーク）
第8回	レポートの書き方（グ発表、討論）
第9回	資料の探し方
第10回	大学図書館の使い方
第11回	ゼミ発表の仕方（概要）
第12回	ゼミ発表の仕方（グループワーク）
第13回	学外グループ活動の発表会1
第14回	学外グループ活動の発表会2
第15回	まとめ（授業の振り返り）

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにすること。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、グループワークのために授業時間外に5号館5418・5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック 5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

倉敷芸術科学大学「倉敷芸術科学大学で学ぶこと」（28生対象）

その他、必要に応じて紹介する

備考

特になし

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 徳田美智

授業の概要

企業の置かれている環境、収益状況、経営戦略、動向などを中心に企業経営を学習する。近年多くの日本企業は海外事業を強化しているので、グローバル展開についても実例で学ぶ。特に、アジアでのビジネス状況の内容を把握するため、ニュースや新聞記事をもとに、企業の動向について分析を行う。又、不祥事も頻発しており、危機管理の重要性が高まっている。危機管理について、企業統制などと共に学習する。

この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

【アクティブラーニング】グループディスカッション、PowerPointによるプレゼンテーションを実施する

【フィードバック】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う

【実務経験のある教員による授業科目】元マツダ株式会社勤務：設計関連システムの企画・運用支援の経験に基づき、情報システムの重要性、情報技術が可能にした企業活動の変化について、経営リスク回避、経営課題解決の観点から授業を行う。

到達目標

- 1．国際経営の事例から、グローバル化の背景、ならびにグローバル化に必要な現地市場への適応あるいは標準化について理解し、説明できるようになる。
- 2．ケース分析をもとに、多様な国際経営活動について理解する。
- 3．企業の海外進出だけではなく、私たちの身近な生活の中にもグローバル化が進んでいることを理解し、グローバル化を視野に入れた企業活動へ貢献できる人材を目指す。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2と3を評価）、事例調査またはグループディスカッション5 0 %（到達目標2と3を評価）。

授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクションーこれからの企業の成長と国際化ー
第2回	国際経営とはー味の素のケースー
第3回	国際経営戦略ートヨタ自動車のケースー
第4回	国際研究開発とイノベーションーネスレのケースー
第5回	国際マーケティングー資生堂のケースー
第6回	グローバル市場調査ーインドのインスタントヌードル市場のケースー
第7回	グローバルな文化環境ーグリコのポッキーのケースー
第8回	グループディスカッションー日本の商品、サービスを海外で提案してみようー
第9回	海外生産ーシーゲート・テクノロジーのケースー
第10回	国際人的資源管理ーシーメンスのケースー
第11回	ダイバーシティと多様な働き方

回数	内容
第12回	ソーシャル・アントレプレナーシップ－社会的価値の創造－
第13回	地球環境問題と企業経営
第14回	社会的責任（SR）の国際化
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 教科書などの復習、ノート整理を行う。（毎週1.5時間程度）
- 2) グローバル化に関連するニュースや新聞記事を毎日チェックし、企業活動の背景や動向を理解する。（毎週2.5時間程度）

教科書

資料は、講義時に適宜配布します。

参考書

吉原秀樹他編著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣ブックス（2013）ISBN：978-4-641-18415-2

小田部正明・栗木契・太田一樹編著『1からのグローバル・マーケティング』碩学舎（2017）ISBN：978-4-502-21851-4

浅川和宏著『グローバル経営入門』日本経済新聞社（2003）ISBN：978-4-532-13260-6

備考

特になし

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 村山公保

授業の概要

社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識及び技能を身につけるため、情報セキュリティについて学ぶ。身の回りにあるコンピュータやその仕組みの概要について理解したうえで、コンピュータシステムの安全な動作を阻害する脅威について理解する。その上で、日常的に利用しているスマートフォンやパソコンを利用する上で、どのような対策や注意点が必要になるか理解する。

【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、 Google Classroom(Googleドライブ、Google Forms)に提出する。

到達目標

- 身の回りにあるコンピュータについて意識することが増える。
- コンピュータシステムの安全な使用を阻害する脅威があることを知る。
- コンピュータを使うときにセキュリティについて意識することが増える。

評価方法

- Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3を評価)。
- 最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの課題への取り組みの総括、グループワークや発表会への取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- 課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- 出席確認やグループワークではGoogle Classroomを積極的に使用するため、スマートフォンやタブレットPC、ノートPC等を持ってくるのが望ましい。
- グループワークを行うので、他のメンバーの迷惑とならないように、欠席をしないこと。止むを得ず欠席した場合には同じグループのメンバーと授業時間外に連絡を取って話し合いをすること。

授業計画

回数	内容
第1回	授業の概要と方針について
第2回	コンピュータとネットワークについて
第3回	コンピュータとネットワークに関するグループワーク
第4回	コンピュータとネットワークに関する個別発表会
第5回	コンピュータとネットワークに関する全体発表会
第6回	情報セキュリティを理解するための基礎知識について
第7回	情報セキュリティを理解するための基礎知識に関するグループワーク
第8回	情報セキュリティを理解するための基礎知識に関する個別発表会
第9回	情報セキュリティを理解するための基礎知識に関する全体発表会
第10回	情報セキュリティの脅威と対策について

回数	内容
第11回	情報セキュリティの脅威と対策に関するグループワーク
第12回	情報セキュリティの脅威と対策に関する個別発表会
第13回	情報セキュリティの脅威と対策に関する全体発表会
第14回	情報セキュリティに関する総合討論会
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにする。

- ・事前に教科書を読み、不明点や疑問点を明確にしておくこと。
- ・個人課題やグループ課題を出題するので、自己学習および復習として活用し、必ずやってくること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。

教科書

村山公保著、「基礎からわかるTCP/IP ネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

参考書

IPA(情報処理推進機構)のホームページ、<https://www.ipa.go.jp>

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

特になし

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

企業や公共団体などさまざまな組織は、環境変化に対して様々な方法で適応する。その一つが経営戦略の策定である。策定した経営戦略をどのように実践していくのか、それぞれの経営戦略の特徴と組織について学習する。さらに、ケース分析を通して、実践課題から経営戦略論についてより理解を深める。この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

【アクティブラーニング】グループ・ディスカッションならびにプレゼンテーションを取り入れている

【フィードバック】】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

- 1．経営戦略論の発展と、変化の激しい環境のもと企業経営における経営戦略の重要性について理解し、説明できるようになる。
- 2．企業経営に関する新聞やニュースに関心をもち、その概要や背景について環境適応に関連付けて説明できるようになる。
- 3．企業の課題解決について、経営戦略の視点から考察できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2、3を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標1~3を評価）
授業回数の3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

経営学概論を事前に受講している事が望ましい。
【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	経営戦略とは（オリエンテーション）
第2回	業界の構造分析
第3回	企業を取り巻く環境と分析手法
第4回	基本戦略
第5回	製品ライフサイクル別戦略
第6回	市場地位別戦略
第7回	経営資源の捉え方（コア・コンピタンス）
第8回	戦略的事業システムの構築
第9回	事業領域（ドメイン定義の考え方）
第10回	成長戦略
第11回	資源展開
第12回	戦略の社会的側面（CSR）
第13回	組織文化

回数	内容
第14回	企業改革
第15回	ふりかえり、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 教科書等の復習、ノート整理を行う。（毎週2.5時間程度）
- 2) 企業経営に関する新聞やニュースを日々チェックし、分析を行なう。（毎週1.5時間程度）

教科書

嶋口充輝、内田和成、黒岩健一郎編著『1からの戦略論<第2版>』碩学舎（2016）ISBN 978-4502167416

参考書

必要に応じ授業中に適宜紹介

備考

特になし

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

観光という事象について経済・経営と関連付けて理解し、特に危機管理の専門的知識をもって諸問題を解決する能力を身につける科目である。日本では2008年に観光庁が設立され、以降「観光立国」を目指し戦略的にその分野では成長を遂げてきた。そして今や「観光（ツーリズム）」は世界的に脚光を浴び21世紀を牽引することが期待されている。古来の意味である「国の光を観る」から「非日常を楽しむ」観光へ変容しているものの、世界中の人々は、生活あるいは経済の中で観光が果たす役割を求めている。この講義では、観光の仕組みや観光に携わる産業を理解し、社会的・経済的な役割を学ぶ。また、近年の観光者の動向についても解説する。授業の中では、観光に関するニュースなどを取り上げながらわかりやすく説明する。

【アクティブラーニング】調査学習（グループ）、課題解決型学習、プレゼンテーションを取り入れている。例年フィールドワークを実施しているが、社会的状況によって中止になる場合がある。（感染症・自然災害など）

【フィードバック】事前調査に関してプレゼンテーションやレポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

到達目標

この講義は、経済・経営分野の知識および技能を身につけることを目的として、以下のように目標を設定している。

- 1、観光学の基礎知識を学び関連用語が使用できる。
- 2、観光に関する事象について関心をもち、観光学について討議できる。
- 3、観光が持つ社会的・経済的影響力を理解し説明できる。
- 4、観光産業の概要や歴史を理解し、社会の発展と関係づける。。
- 5、事前に調査したことをプレゼンテーションにまとめ発表に参加できる。

評価方法

- ・レポート、およびプレゼンテーション 50%（到達目標 1～5を評価）
 - ・定期試験 50%（到達目標 1～5を評価）
- 総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・フィールドワークを予定している。日時は受講者と相談のうえ決定通知する。（感染症や社会的状況などにより中止になる場合がある。）
- ・観光の学びには様々な入り口がある。各自興味のある観光について調べたり、常日頃から観光を理解する態度を養うこと。
- ・観光に関する日々のニュースや時事問題は本講義の理解に役立つことから、常に新聞を講読するなどして広い社会的な知識の習得を心がけること。
- ・正課外の観光関連の活動やイベントに参加することは社会的なマナーを身につけるのに役立ち、関係者とのネットワークを構築することができ修学意欲が高まる。各自が積極的に参加することを期待する。
- ・本講義は「旅行業」国家試験の対策科目ではないが、受験希望者には別途学習の指導が可能である。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 オリエンテーション
第2回	第2回 観光・観光学とは何か
第3回	第3回 観光の発展の歴史
第4回	第4回 観光資源について（グループ発表）
第5回	第5回 観光資源について（グループ発表）
第6回	第6回 観光政策について
第7回	第7回 観光情報について
第8回	第8回 ホスピタリティについて
第9回	第9回 ツーリズムについて（グリーンツーリズム）

回数	内容
第10回	第10回 地域のフィールドワーク（観光資源の観点から）＊研修日は相談のうえ決定する。
第11回	第11回 地域のフィールドワーク（観光資源の観点から）＊研修日は相談のうえ決定する。
第12回	第12回 観光産業（外部講師を招聘する予定です）
第13回	第13回 世界遺産について
第14回	第14回 観光産業（外部講師を招聘する予定です）
第15回	第15回 総括

授業外学習

回数	内容
第1回	第1回 授業計画に示した参考書の序論を事前に読み、本講義の概略をつかんでおくこと。（2時間）
第2回	第2回 観光の定義について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第3回	第3回 観光の歴史（江戸時代）について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第4回	第4回 観光資源の種類（日本）について調べ、グループ発表の準備をする。（2時間）
第5回	第5回 観光資源（日本以外の国々）について調べ、グループ発表の準備をする。（2時間）
第6回	第6回 観光政策について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第7回	第7回 観光情報について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第8回	第8回 ホスピタリティの定義について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第9回	第9回 グリーンツーリズムについて調べる。（事例）講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第10回	第10回 フィールドワークに備えて資料作成。（2時間）
第11回	第11回 フィールドワークに備えて資料作成。（2時間）
第12回	第12回 観光産業の歴史（日本）について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第13回	第13回 世界遺産の概略と問題点について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第14回	第14回 外部講師の授業内容について下調べをする。（2時間）
第15回	第15回 各自で観光概論の総括をする。（2時間）

教科書

指定する教科書は無いが、参考資料などを授業中に随時紹介する。

参考書

「観光学ガイドブックー新しい知的領野への旅立ち」 大橋/昭一著 ナカニシヤ出版（ISBN-10: 4779508266）
「観光学入門 ポスト・マス・ツーリズムの観光学」 岡本信之著 有斐閣アルマ（ISBN-10: 4641121303）

備考

特記なし。

ミクロ経済学（21404）

前期

Microeconomics

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 山中高光

授業の概要

ミクロ経済学の理論とその応用を学ぶ。本講義では需要と供給，消費者行動，生産者行動，市場について解説し，ゲーム理論などを概説する。経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1．ミクロ経済学の基本知識と理論体系を理解できる

評価方法

受講態度：3 0 %（到達目標1を評価）

小テスト：3 0 % （到達目標1を評価）

期末テスト：4 0 %（到達目標1を評価）

注意事項

授業中，無用の私語とスマートフォンなどの使用を禁止する

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	ミクロ経済学とは
第3回	ミクロ経済学の歴史
第4回	需要と供給
第5回	消費者行動
第6回	生産者行動(1)
第7回	生産者行動(2)
第8回	完全競争市場
第9回	不完全競争市場
第10回	市場の失敗
第11回	ゲーム理論について
第12回	不完全情報の経済学
第13回	行動経済学について
第14回	ミクロ経済学理論の基礎から応用へ
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

経済に関わるニュースや話題などをチェックし，授業で学んだ知識などを活用して，経済に対する理解を深める

教科書

講義資料を配布する

参考書

授業中に随時紹介する

備考

特になし

経営危機管理学ゼミナールⅠ（21405）

前期

Business Risk and Crisis Management seminarⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	2年
対象	26～23R
単位数	1. 0単位
担当教員	渡谷真吾 河野正英 ブラダンスジット 村山公保 芦田雅子 山中高光 土屋博之 徳田美智 田原静

授業の概要

ゼミナールは学問の楽しさと厳しさ、研究の楽しさと厳しさを、各自の関心ある領域を踏まえた上で教員がサポートしながら獲得していく場であると共に、社会人として応用できる知識や技能を獲得する場でもある。主体は学生1人1人であることを自覚し主体的に学び考えさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

具体的な内容については同時に履修する学生たちの興味や関心をもとに担当教員が教員決定するが、危機管理学に関する学びや調査、研究を遂行する上での基礎的な知識や手法、技術を学習する。各教員に分かれて輪読、討論、プレゼン等の手法で学びを深めた上で、全体発表会で発表を行う。

また危機管理学へのより深い学びとプレゼンテーションの技法の手本を学ぶために、外部講師による講演を行う。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 危機管理学について積極的に学ぼうとする。
2. 各自で調べたことを意見交換の場で他の人に伝える。
3. 調査したり考えたりしたことを、資料として作成できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢60％（到達目標1、2）、課題やレポート40％（到達目標3）で評価する。

注意事項

- ・受講生はそれぞれ希望する研究室で本講義(経営危機管理学ゼミナールⅠ)を受講すること。
- ・成績評価方法及び授業計画等は一例であり、各研究室(担当教員)により異なる場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	授業方法の説明とグループ分けを行う(全体で実施)
第2回	危機管理学に関連するテーマの設定(各教員ごとに分かれて実施)
第3回	テーマに関する調査(各教員ごとに分かれて実施)
第4回	テーマに関する調査、意見交換(各教員ごとに分かれて実施)
第5回	テーマに関する意見交換、討論(各教員ごとに分かれて実施)
第6回	テーマに関する調査、意見交換、討論(各教員ごとに分かれて実施)
第7回	テーマに関してまとめる(各教員ごとに分かれて実施)
第8回	プレゼンテーションの構成についての検討(各教員ごとに分かれて実施)
第9回	プレゼンテーションの資料作成(各教員ごとに分かれて実施)

回数	内容
第10回	発表練習(各教員ごとに分かれて実施)
第11回	全体発表会 1 (全体で集合して実施)
第12回	全体発表会 2 (全体で集合して実施)
第13回	外部講師による講演、片岡総社市長「大災害は市役所の実力テスト」(全体で集合して実施)
第14回	プレゼンテーションについての講評と省察(各教員ごとに分かれて実施)
第15回	総まとめ(各教員ごとに分かれて実施)

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

- ・普段から「危機管理学」について意識するようにして、「危機管理」に関することに敏感になる習慣をつけること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、資料作成のために授業時間外に5号館5418・5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック 5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

- ・必要に応じて、担当教員が指示する。

備考

特になし

マクロ経済学（21451）

後期

Macroeconomics

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 山中高光

授業の概要

この科目は経済・経営分野の知識を身につけるための科目の一つである。
マクロ経済学の基礎的な理論体系を学ぶ。国民経済の活動水準の測定およびGDPの決定理論、貨幣市場とGDP及び利子率、総需要項目である消費と投資、財市場と資産市場の同時均衡、この同時均衡モデルに基づく財政政策、金融政策の効果、期待を導入したインフレーションと失業の分析、国際収支と為替レートの問題、開放経済下の財政政策と金融政策の効果、経済成長の理論を概説する。学生がマクロ経済学の基本的な考え方を習得し現実の政策への適用を図ることができるようにする。

到達目標

- 1．マクロ経済学の基本的な考え方及び理論を理解し、説明できるようになる。
- 2．現実の経済問題の把握と政策への適用を考察し、提案できるようになる。

評価方法

到達目標

- 1．マクロ経済学の基本的な考え方及び理論を理解し、説明できるようになる。
- 2．現実のマクロ経済問題の把握と政策への適用を考察し、提案できるようになる。

評価方法

到達目標 1、2 を定期テスト 1 0 0 % で評価する。そのうち到達目標 1 を60%、到達目標 2 を40%評価の対象とし、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。
また、授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく。

授業計画

- 1週目：マクロ経済学とは一大不況、世界恐慌、ケインズ、ケインジアン、新古典派、新自由主義、世界金融危機
- 2週目：GDPとは何か（1）—国民経済計算、GDP、三面等価、名目値と実質値、物価
- 3週目：GDPとは何か（2）—日本のGDPの推移、景気循環、戦後日本経済の歩み
- 4週目：消費と貯蓄—ケインズの消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説、流動性制約と消費、日本の家計の消費と貯蓄
- 5週目：投資—設備投資、資本の限界効率、投資理論、在庫投資
- 6週目：貨幣と金融—貨幣の機能、貨幣の種類、決済、金融、銀行、中央銀行
- 7週目：貨幣の需要と供給—貨幣の需要動機、貨幣需要関数、ハイパワードマネー、マネタリーベース、貨幣の供給、利子率の決定、金融政策
- 8週目：GDPの決定理論—有効需要の原理、乗数理論、財市場の均衡、乗数、財政政策
- 9週目：IS—LM分析—財市場と資産市場の同時均衡、IS曲線、IS曲線、財政政策、ケインジアン、マネタリスト、ルールか裁量か、新古典派のマクロ経済学、ニュー・ケインジアン理論、非伝統的金融政策
- 10週目：財政赤字と国債—中立命題、租税、政府支出、日本の財政収支、高齢化
- 11週目：インフレーションとデフレーション—総供給関数、総需要関数、AD-AS分析、インフレーション、デフレーション
- 12週目：失業・失業率、フィリップス曲線、自然失業率仮説、インフレ期待、
- 13週目：国際マクロ経済学（1）—国際収支統計、為替レート、国際通貨制度、為替レートの決定、
- 14週目：国際マクロ経済学（2）—国際マクロ経済学、マンデル=フレミング・モデル
- 15週目：経済成長—経済成長、成長会計、ハロッド=ドーマーモデル、新古典派成長モデル、内生的成長モデル、経済成長と所得分配

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前に資料を配布するので予習をすること。また練習問題（授業中に解説する）があるので基礎的な復習に役立てること。
授業中でもできるだけ取り上げるが、まずは日々の経済ニュースや経済データに接し、それらについて授業で学んだことを応用して考察し、自分の意見を持つことが望ましい。

教科書

福田 慎一・照山 博司『マクロ経済学・入門第5版』有斐閣、2016年。ISBN 978-4-641-22066-9。

参考書

齊藤 誠・岩本 康志・太田 聡一・柴田 章久『マクロ経済学（新版）』有斐閣、2016年。ISBN 978-4-641-05384-7
吉川洋『マクロ経済学第4版』岩波書店、2017年。ISBN: 978-4000266567

備考

Google Classroomを資料提示，練習問題解説などに活用する。

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤ブラダンスジツ

授業の概要

この科目では、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識及び技能を身につける。情報を取り巻く新しいパラダイムに対応し、的確に順応していくことがビジネスや社会生活において重要であることを学ぶ。また、使用者のモラル向上が求められている。本講義では具体的には、ネット社会やケータイ社会における犯罪事例などについての最新情報を調べながら、それらの課題対策について考える。

- 【アクティブラーニングの実施】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。
- 【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- 【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1． 情報社会や情報モラルについて、毎回配布する資料の内容について理解し、日々の体験に応用できる素養（思考力）を身につける。
- 2． 情報社会における諸問題への対応力を深める。
- 3． 情報社会における深刻な課題やその対策について理解を深める。

評価方法

- 講義に取り組む姿勢（小テスト等）20％（到達目標1を評価）
- 課題レポート30％（到達目標2、3を評価）
- プレゼンテーション50％（到達目標1、2、3を評価）

注意事項

- 【遅刻について】遅刻は認めない。ただし、延着証明書などを提出した場合はこの限りではない。
- 【講義中のスマホ・タブレットの使用について】講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・Google Classroomへの登録手続き
第2回	情報社会の特質
第3回	個人情報の流出と保護
第4回	不正アクセス・脆弱性（ぜいじゃくせい）
第5回	情報社会におけるコミュニケーション・迷惑メール防止
第6回	コンピュータ・ウイルスとスパイウェア
第7回	社会的な問題：ネット中毒、ネットオークションとオンライン詐欺など
第8回	グループディスカッション：グループ分け・グループ発表のためテーマ決定
第9回	グループディスカッション：グループ発表のため資料作成
第10回	グループプレゼンテーション（1）
第11回	電子商取引の現状・ネットオークション・ネットショッピングと不当請求
第12回	著作権と知的財産権（音楽や映画の複製）
第13回	情報の共有・発信におけるモラル

回数	内容
第14回	グループプレゼンテーション（2）
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 次回の学習内容について、事前に情報を収集して、理解しておく。
- 定期的にレポート課題を出題するので、インターネットなどを使って、解答を作成し次回提出する。
- グループプレゼンテーションを行うので、そのために情報収集し、それに基づいて資料を作成する。

教科書

使用しない。（適宜資料をPDFで配布、あるいはプロジェクター投影またはダウンロード可能なデータを明示する）

参考書

必要に応じて指示する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

観光という事象について経済・経営と関連付けて理解し、特に危機管理の専門的知識をもって諸問題を解決する能力を身につける科目である。世界観光機関（UNWTO）は、今後も国際観光が成長を続けると予想している。これは、観光という国際サービス貿易が、世界全体の輸出部門の上位に入ることの意味している。観光は産業として大きな経済的効果を生み出し、そこに雇用が生まれ、世界全体のG D Pを押し上げる力を持っている。同時に、観光は正と負の出来事によって大きく左右され、自然災害や感染症などの影響を受けて経済効果がマイナスの方向へ動くことも懸念される。本講義では、観光データの読み方、産業連関表、経済分析ソフトなどを学びながら、観光が地域に波及効果を生み出すことを解説する。また地域のデータを基に現状を把握し、理想的な地域の在り方や施策を作る行程についても理解を深める。

【アクティブラーニング】調査学習（グループ）、課題解決型学習、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】事前調査に関してプレゼンテーションやレポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

到達目標

この講義は、経済・経営分野の知識および技能を身につけることを目的として、以下のように目標を設定している。

- 1、観光白書や観光データを読み解き、さまざまな立場で理解できるようになる。
- 2、観光が持つ社会的・経済的影響力を理解する。
- 3、観光政策と地域振興について理解する。
- 4、経済ソフトを使って、観光経済の効果を分析することができる。

評価方法

- ・レポートおよびプレゼンテーション 50%（到達目標1～4 を評価）
 - ・定期試験50%（到達目標1～4 を評価）
- 総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・前期開講科目「観光概論」を受講していることが望ましい。
- ・観光が特に地域経済に大きな効果を与えるということに着目して、地域の観光について考察し自分の意見をもってください。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 ガイダンス（授業の概要と進め方）
第2回	第2回 観光経済について（基本的理解）
第3回	第3回 観光経済指標（公的なデータと統計）
第4回	第4回 観光調査と観光データ分析（アンケート調査、情報通信技術をテーマとして）
第5回	第5回 観光と産業連関表
第6回	第6回 アクティブラーニング（経済ソフトなどを利用） 1
第7回	第7回 アクティブラーニング（経済ソフトなどを利用） 2
第8回	第8回 アクティブラーニング（グループワークおよび発表）
第9回	第9回 観光とマーケティング
第10回	第10回 国際観光とインバウンド（新しい事例をテーマとして）
第11回	第11回 観光と地域創生
第12回	第12回 ツーリズムと観光経済（フィルムツーリズム、アニメツーリズム）

回数	内容
第13回	第13回 ツーリズムと観光経済（グリーンツーリズム）
第14回	第14回 持続可能な観光開発（SDGsをテーマとして）
第15回	第15回 総括

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・新聞・メディアを通じて、国内外の観光動向について日々理解を深める。
- ・地域、あるいは国家として、観光振興にどのように取り組んでいるかを調べ考察する。
- ・観光のリスクが地域経済に及ぼす影響について理解する。
- ・経済分析ソフトを積極的に利用する。また、それらを駆使してレポートにまとめる。
- ・観光がもつ力を理解し、それによって社会的な課題が解決する糸口を見つける。（アクティブラーニング）

教科書

指定しない。資料は都度紹介する。

参考書

「観光経済学の基礎講義」九州大学出版会、中平千彦他（ISBN-10: 4798502049）

備考

特記なし。

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 村山公保

授業の概要

社会人になっていくという意識を向上させ、職業観を醸成し、キャリアの形成についての見識を広げるため、倉敷内外で活躍されている公務員(一般、警察、自衛隊など)、企業や団体の役員や職員、起業家など、人生経験豊富な講師陣をお招きして講演を行う。また、グループ討議や学外見学に関する課題を出題し、その発表会を行うことで、自らのキャリア形成について主体的に考え、これからの大学生活や社会生活をどのように充実させていくのかを考える土台とする。

本科目は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC 事業)として実施される「くらしき若衆」の認定に必要な選択科目である。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、フィールドワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ、Google Forms)に提出する。

到達目標

1. 社会にある職業について知見が深まり、自身のキャリア形成についての意識が高まる。
2. 工場や施設などの見学や参加型イベントへの興味や関心が以前よりも高まる。
3. 特定の課題の解決や目的の達成ために、グループで話し合ったり、グループで行動したり、グループで助け合ったりすることの大切さが理解できる。

評価方法

- ・Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3を評価)。
- ・最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの講演の内容や講演を聞いて得たこと、学外見学の内容と得たこと、グループワークや発表会への取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- ・課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- ・外部講師に対して失礼にならないような受講マナーが求められる。授業中は私語を慎み、静かにすること。騒がしい学生は退場処分とし、単位不認定とする事がある。
- ・外部講師等の都合により日程や内容が変更になる場合がある。
- ・グループワークを行うので、グループのメンバと連絡を取り合い、お互いに協力しながら、外部施設見学、レポート作成を行うこと。
- ・記録に残すため、講演・発表会等の授業風景を撮影することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	(9/29) 授業の方針説明
第2回	(10/6)：外部講師による講演：「政治の仕事とキャリア(仮題)」片岡聡一様（総社市長）
第3回	(10/13)：外部講師による講演：「日本を取り巻く安全保障について(仮題)」谷坂忠俊様（防衛省 自衛隊岡山地方協力本部長）
第4回	(10/20)：外部講師による講演：「最近の治安情勢と警察の仕事」青笹剛様（岡山県警察本部警務部警務課課長補佐）
第5回	(10/27)：外部講師による講演：「勝組の社会人になるために、学生時代に学ばべき事」小童谷靖則様（株式会社 リョービツアーズ 専務取締役）
第6回	(11/ 3)：外部講師による講演：「地方公務員（倉敷市職員）として働くことについて〜防災・危機管理の現場から〜」大本進様（倉敷市総務局防災危機管理室）
第7回	(11/10) 学外見学で学んだことの発表会（1回目）

回数	内容
第8回	(11/17) 前半の授業を総合して「得たこと、気づき」の発表会
第9回	(11/24)：外部講師による講演：「人生100年時代のキャリア戦略」古山誠様（多文化共創研究所）
第10回	(12/ 1)：外部講師による講演：「危機管理と経営戦略(仮題)」岡荘一郎様（倉敷製帽株式会社 代表取締役会長／公益財団法人倉敷文化振興財団 理事長）
第11回	(12/ 8)：外部講師による講演：「地域の未来のためのドローン活用とビジネス(仮題)」青山知之様（日本交通教育サービス株式会社 代表取締役 社長）
第12回	(12/15)：外部講師による講演：「金融機関から見た世の中の変化とキャリア」徳田幸一様（玉島信用金庫 常勤理事 経営企画部長 兼 SDGs室長）
第13回	(1/12)：外部講師による講演：「起業と会社経営」山本篤憲様（株式会社アリオンシステム 代表取締役社長）
第14回	(1/19) 学外見学で学んだことの発表会(2回目)
第15回	(2//2) 後半の授業を総合して「得たこと、気づき」の発表会

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにする。

・授業内で学んだこと

外部講師の講演を聞いて「得たこと、気づき」をグループ単位で話し合ってまとめる。まとめた内容は授業中に発表する。

授業の前半と後半で、別々にレポートにまとめる。「授業内で学んだこと」の発表は2回行う。

・学外見学で学んだこと

企業見学、工場見学、イベント参加、体験会参加等をグループ単位で行い、レポートにまとめる。まとめた内容は授業中に発表する。

2箇所(2種類)に参加すること。「学外見学で学んだこと」の発表は2回行う。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし

経営危機管理学ゼミナールⅡ (21456)

後期

Business Risk and Crisis Management seminar II

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1. 0 単位
担当教員	 渡谷真吾  河野正英  ブラダンスジット  村山公保  芦田雅子  山中高光  土屋博之  徳田美智  田原静

授業の概要

ゼミナールは学問の楽しさと厳しさ、研究の楽しさと厳しさを、各自の関心ある領域を踏まえた上で教員がサポートしながら獲得していく場であると共に、社会人として応用できる知識や技能を獲得する場でもある。主体は学生1人1人であることを自覚し主体的に学び考えさせる。

専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

具体的な内容については同時に履修する学生たちの興味と関心をもとに担当教員が教員決定するが、危機管理学に関する学びや調査、研究を遂行する上での基礎的な知識や手法、技術を学習する。各教員に分かれて輪読、討論、プレゼン等の手法で学びを深めた上で、全体発表会で発表を行う。

また危機管理学へのより深い学びとプレゼンテーションの技法の手本を学ぶために、外部講師による講演を行う。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 危機管理学について積極的に学ぼうとする。
2. 各自で調べたことを意見交換の場で他の人に伝える。
3. 調査したり考えたりしたことを、資料として作成できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 60%（到達目標 1、2）、課題やレポート 40%（到達目標 3）で評価する。

注意事項

- ・受講生はそれぞれ希望する研究室で本講義(経営危機管理学ゼミナールⅠ)を受講すること。
- ・成績評価方法及び授業計画等は一例であり、各研究室(担当教員)により異なる場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	危機管理基礎ゼミナールの振り返り(各教員ごとに分かれて実施)
第2回	危機管理学に関連するテーマの設定(各教員ごとに分かれて実施)
第3回	テーマに関する調査(各教員ごとに分かれて実施)
第4回	テーマに関する調査、意見交換(各教員ごとに分かれて実施)
第5回	外部講師による講演その1(全体で集まる)
第6回	テーマに関する調査、意見交換、討論(各教員ごとに分かれて実施)
第7回	外部講師による講演「健康づくりに関する講演(仮題)」岡山県健康づくり財団附属病院 院長 西井研治先生 (全体で集まる)
第8回	プレゼンテーションの構成についての検討(各教員ごとに分かれて実施)
第9回	プレゼンテーションの資料作成(各教員ごとに分かれて実施)

回数	内容
第10回	発表練習(各教員ごとに分かれて実施)
第11回	全体発表会 1 (全体で集合して実施)
第12回	全体発表会 2 (全体で集合して実施)
第13回	プレゼンテーションについての講評と省察(各教員ごとに分かれて実施)
第14回	より一歩進んだ学びのための指導 (各教員ごとに分かれて実施)
第15回	総まとめ(各教員ごとに分かれて実施)

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

- ・普段から「危機管理学」について意識するようにして、「危機管理」に関することに敏感になる習慣をつけること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、資料作成のために授業時間外に5号館5418・5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック 5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

- ・必要に応じて、担当教員が指示する。

備考

特になし

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤ブラダンスジツ

授業の概要

この科目では、経済・経営分野の知識を身につける。現代の情報化社会において、企業経営に欠かせない情報の活用とそれを支える情報技術（IT）について学ぶ。経営戦略という観点から修得しておくべき、経営上の課題を分析・解決するための、経営情報論の手法について、事例を交えて概要を把握する。さらに、ITを利用して組織目的や戦略を適切に実現できるように、大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスの基礎知識を得る。特にデータサイエンスの応用例としてマーケティング、品質管理などの様々な分野における実際のデータ活用の事例を紹介する。また、グループプレゼンテーションによって企業経営における情報技術の進展について学修する。

【アクティブラーニングの実施】グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
【フィードバック】】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

企業経営における経営情報システムの役割と、企業組織はどのようにして有効な情報処理活動を行うことができるのか、また行うべきなのかについて、多方面から考察できるようになる。

- 1．情報技術の進展とコンピュータ・ベースの情報システムについて理解し、説明ができる。
- 2．「情報を処理する仕組み」の概念を理解し、説明できる。
- 3．情報技術の進展による企業経営戦略の意識改革について説明できる。

評価方法

- 講義に取り組む姿勢（小テスト等）20％（到達目標1を評価）
- 課題レポート30％（到達目標2、3を評価）
- プレゼンテーション50％（到達目標1、2、3を評価）

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション：情報社会の到来
第2回	経営資源としての情報：企業活動を支える源泉
第3回	企業経営と経営情報システム：顧客情報管理システム
第4回	販売管理・発注管理：コンビニエンスストアの仕組み
第5回	サプライチェーンマネジメント
第6回	企業－消費者間電子商取引：ネットショッピングがもたらした消費行動の変化
第7回	マーケティング：消費者の声を企業活動に活かす仕組み
第8回	グループディスカッション：グループ分け・プレゼンテーションテーマ決定
第9回	グループディスカッション：プレゼンテーション資料作成
第10回	グループワークによるプレゼンテーション
第11回	データサイエンスの社会的役割
第12回	データサイエンスの手法の紹介

回数	内容
第13回	コンピュータを用いたデータ分析の初歩
第14回	データサイエンスの応用事例
第15回	ふりかえり、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 講義資料等の復習、ノート整理を行う。(毎週1.5時間程度)
- 2) 企業経営において、どのように情報システムが関わっているのか、最新IT技術について新聞やニュースでチェックし、より関心を高める。(毎週2.5時間程度)

教科書

使用しない

参考書

- ① 経営情報システム (宮川 公男 (編集), 上田 泰) ISBN-13 978-4502091704
- ② 経営情報システム教科書 (武藤 明則) ISBN-13 978-4495384111
- ③ 教養としてのデータサイエンス (北川 源四郎, 内田 誠一, 川崎 能典, 佐久間 淳, 孝忠 大輔, 竹村 彰通 et al.) ISBN-13 978-4065238097
- ④ データサイエンスのための数学 (椎名 洋, 姫野 哲人, 保科 架風, 清水 昌平) ISBN-13 978-4065169988

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

消防と防災（21502）

前期

Fire fighting and protection against disasters

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 石原一孝

授業の概要

- ・ 現役の消防職員から消防に関する知識・技術等を学ぶ。
- ・ 高い防災意識と知識、技能を有し、日頃から身の回りの備えを行いながら、絶えずそのスキルアップに努める地域防災のリーダーとなるために必要な、知識技能を習得する。
- ・ 消防業務に精通し、過去の火災事例の研究や、消防法令、消防用設備等について理解を深める。いざというときに対応できる火災、救急救助の知識、技術を習得する。
- ・ 地域社会の構成員として活躍できることを目的とする。

到達目標

- 1．日本の消防制度について理解し、消防行政について説明ができる。
- 2．火災予防について理解し、日頃から出火防止の行動ができる。
- 3．防火管理、消防用設備等の基本的な知識を習得し説明ができる。
- 4．応急手当、応急処置の知識を習得し、危険回避行動ができる。
- 5．消防に関する知識を習得し、日頃から危機意識を持った行動ができる。
- 6．災害から身を守り、周囲の人を援護できる行動ができる。
- 7．ロープ結索、三角巾での基本的な結索、止血ができる。

評価方法

・ 授業に取り組む態度や姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 2 0 %（到達目標2、3を評価）、実技 1 0 %（到達目標7を評価）、定期試験 50%（到達目標1～7を評価）として総合的に評価する。ただし、規定授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、受験はできないものとする。授業中の私語、迷惑行為については禁止とし、退出させ欠席扱いとする。スマートフォンやタブレット等、授業に関係のない電子機器の使用、授業中の飲食も禁止とする。これらが認められた場合は退出させ欠席扱いとする。

注意事項

- ・ 行政は、様々な法律に基づいて行われており、必要に応じてその法律を確認すると理解しやすい。
- ・ 消防行政、防災行政について理解することで、課題レポートをまとめやすくなる。
- ・ 過去の火災や災害事例を調査し、その原因や経過を知ることです予防策や対応策が見えてくる。
- ・ ロープ結索、三角巾の取扱い等はある程度の訓練が必要である。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（自己紹介・授業概要の説明等）
第2回	消防における安全管理
第3回	消防法・予防行政の歴史
第4回	消防法・予防行政の歴史
第5回	消防法・予防行政の歴史
第6回	消防法・予防行政の歴史
第7回	火災事例研究
第8回	火災事例研究
第9回	日本の災害①
第10回	日本の災害②
第11回	日本の災害③

回数	内容
第12回	日本の災害④
第13回	救急業務①
第14回	救急業務②
第15回	救急業務③

授業外学習

- ・授業で紹介した法令は、復習して理解する。
- ・ロープ結索、三角巾使用方法の実技習得に課外での訓練が必要である。
- ・過去に発生した大規模な火災や災害について情報収集し、事例研究する。
- ・中間でのまとめとして、課題レポートの提出を2回求める。

以上の授業外学習のため、60時間以上が必要となる。

教科書

教科書としての書籍は斡旋はしない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

授業の中で、必要に応じて参考となる本の紹介をする。

備考

授業で三角巾を使用するため、三角巾を各自購入すること。（第1回授業で説明する）

公務員概論（21503）

前期

Outline of civil service

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 藤岡芳郎

授業の概要

現代の社会における公務員の役割について基本的なことを学び、将来の進路選択対象の一つである公務員について、その具体的な仕事内容について学ぶ。

到達目標

- 1．公務員といっても多様な仕事がある。公務員の一般的な定義から仕事内容について理解し説明できる。
- 2．特に、国家公務員、地方公務員などの仕事について具体的に学習することで多様な仕事について理解し説明できる。
- 3．学生諸君にとって身近な地域活性化、産業支援、生活者支援など多くの事例で具体的に理解する。

評価方法

授業中に出題する理解度テストと課題の評価を70%（到達目標2、3を評価）、授業に取り組む態度など30%（到達目標1を評価）を基準とする。

注意事項

受講生に望むこと：

- 1) 授業中の私語は禁止する。数回注意しても私語を止めず、周囲に支障が出る場合は退出指示をする。
- 2) 普段の生活で公務員の仕事に関心をもつと理解しやすくなる。

授業計画

回数	内容
第1回	公務員とは何か
第2回	公務員の種類と仕事
第3回	公務員の基本的な組織
第4回	具体的事例～地域活性化①公務員が支援する観光資源による活性化の事例
第5回	具体的事例～地域活性化②公務員が支援する観光資源による活性化の事例
第6回	具体的事例～中小企業産業支援①公務員が支援する中小企業の新製品開発の事例
第7回	具体的事例～中小企業産業支援②公務員が支援する中小企業の新製品開発の事例
第8回	具体的事例～地域住民生活サービス①公務員が支援するソーシャルビジネスの事例
第9回	具体的事例～地域住民生活サービス②公務員が支援するソーシャルビジネスの事例
第10回	具体的事例～地域産業支援①公務員が支援する地域ブランドの事例
第11回	具体的事例～地域産業支援②公務員が支援する地域ブランドの事例
第12回	具体的事例～地域商業支援①公務員が支援する商店街の活性化の事例
第13回	具体的事例～地域商業支援②公務員が支援する商店街の活性化の事例
第14回	公務員の魅力
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安は60時間である。毎回の授業内容を確認し、次回へ向けた予習をおこなう。その理解度の把握のために、基本的には初回と最終回を除く毎回理解度テストや課題を出題する。

教科書

特に指定する教科書はありません。

参考書

参考資料は講義中に必要に応じて配布します。

備考

特になし

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 小川正志

授業の概要

東日本大震災発生から11年を経過し、その後も比較的大きな自然災害が頻発している。

防災の基本である、自分の生命は、自分で守るを原点として、大規模災害に遭遇した時、私たちは、自らの安全を確保し、さらに、地域住民と共に皆で力を合わせ、その被害を最小限に食い止める活動を率先して行うことが、危機管理を学ぶものとしての使命である。

この授業では私たちが地震、洪水、火災等の災害と対峙するときに不可欠な機能である自助、共助、公助が連携した防災活動を災害記録や体験等をもとに習得する。

近年ますます地域の防災力の重要性が叫ばれる中、コミュニティ力と防災活動の関連を実例に基づき明確にし、地域の住民が連携して発揮できる自助、共助による地域防災力強化が、災害発生時には、最も必要な機能であることを論ずる。

また、地域防災の中核である消防団の防災活動や自主防災組織などを通じて、地域では不可欠な防災リーダーのあり方を示す。

特に防災リーダーとして能動的に情報収集を行い、意思決定をし、行動を起こす能力を磨くための実践的な授業を展開する。

さらに、公の防災機能については、自治体の取り組み事例等を取り上げ、実践を学び、自助、共助、公助が連携する減災活動についてしっかり習得する。

到達目標

- 1 災害を把握し、防災意識を高め自助、共助、公助の重要性について理解し、説明ができる。
- 2 災害に備え、自らの身を守る方法を身につけ、非常持ち出し品などの備えができる。
- 3 大規模災害に備え、地域コミュニティの一員として共助の活動ができる。
- 4 地域に密着した消防団の活動を理解し、説明ができる。
- 5 共助の必要性を理解し、自主防災組織の結成や活動に参加できる。
- 6 避難所運営の方法等を理解し、災害時に避難所運営に参加できる。

評価方法

・授業に取り組む態度や姿勢 3 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標1, 4を評価）、定期テスト 4 0 %（到達目標1～6を評価）として総合的に評価する。

注意事項

- ・近年の災害について情報収集し、市民に求められる防災活動の検討材料とすること。
- ・避難所運営については、自治体作成の避難所運営マニュアル等を参考にするとわかり易い。
- ・災害ボランティア経験がある人からその経験を聞くとボランティアについて理解し易い。
- ・災害ボランティアとして活動するときは、必ずボランティア保険に加入すること。
- ・市民の自主防災活動などに積極的に参加することで、地域防災について理解し易くなる。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（授業概要等の説明、自己紹介など）
第2回	東日本大震災（宮城県多賀城市の記録及び緊急消防援助隊活動記録等）
第3回	防災と市民の役割―災害対策基本法、自主防災組織、消防団、水防団等
第4回	気象と災害（気象警報、土砂災害等）
第5回	地震災害（地震発生のメカニズム）
第6回	東日本大震災（大震災が残した教訓）
第7回	阪神・淡路大震災（地震の知識と対策～復興の歩み等）
第8回	自然災害（地震・津波・風水害から命を守る）
第9回	防災―身近な危険を考える、けむりの怖さ、避難のポイントー

回数	内容
第10回	災害時のリーダーの在り方
第11回	被災地支援とボランティア 災害NGOに所属しボランティア活動をしている方を外部講師に招き、共に考える。
第12回	被災者の生活と支援
第13回	避難所運営と避難生活
第14回	地域防災力向上のために（地区防災計画、防災士の役割等）
第15回	大災害への備え（災害の備えを振り返る）

授業外学習

- ・ 授業で紹介した法令は、復習し内容を確認する。
- ・ 火災、地震、気象等から身の回りに起こりうる災害について、市民としていかに防災意識を高めていくべきかを検討し、レポートを提出する。
- ・ 東日本大震災や平成30年7月豪雨災害など近年の災害教訓から、発生が危惧される南海トラフ地震の際に期待されるボランティア活動について検討し、レポートを提出する。
- ・ 大学の防災訓練や地域の防災訓練等に参加する。

以上の授業外学習のため、60時間以上が必要となる。

教科書

特に指定しない、必要に応じてプリントを配布する。

参考書

- ・ 防災士教本（一年時に購入）
- ・ 「自治体作成の避難所運営マニュアル」（倉敷市のホームページ等から閲覧可能）
- ・ 「自主防災組織の手引き」総務省消防庁
- ・ その他必要に応じて、授業の中で紹介する。

備考

経営学概論（21551）

前期

Introduction of Business Administration

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 徳田美智

授業の概要

企業経営に関する基礎的な知識を修得し、経営学の幅広い一般的な理解と企業経営の全体的な概要の把握をめざす。この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

経営学とはどのような学問か、またそれがどのように生成・発展してきたのか。その研究対象である企業は社会でどのような役割があり、またいかなる形態があるか。さらに、厳しい競争の中で長期的に維持・発展するため企業の経営者はどのような役割を果たしているのか、講義を通して理解を深める。また、企業の不祥事も頻発しており、危機管理の重要性が高まっているため、企業統制などと共に学習する。

【アクティブラーニング】事例調査を取り入れる

【フィードバック】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

- 1．経営学の歴史と基本的な知識を習得する
- 2．企業活動に関心を高める
- 3．企業活動に関するニュースを見て、その背景や事象が理解できるようになる

評価方法

授業に取り組む姿勢(小テスト等) 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標3を評価）。
授業回数の3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	企業経営の全体像
第2回	経営学とはどのような学問か
第3回	企業と会社の制度的な特徴
第4回	コーポレート・ガバナンスと企業の社会的責任
第5回	経営理念、目的と戦略①（経営理念とビジョン）
第6回	経営理念、目的と戦略②（ドメインと経営戦略の概念）
第7回	企業戦略
第8回	競争戦略と事業システム
第9回	組織構造と組織文化
第10回	経営学の広がり 1（スポーツ経営の意義）
第11回	経営学の広がり 2（地域のスポーツ経営と総合型地域スポーツクラブ）
第12回	経営学の広がり 3（スポーツツーリズム）

回数	内容
第13回	経営学の拡がり4（企業経営と会計情報）
第14回	経営学の拡がり5（公共経営：経営学×行政組織）
第15回	ふりかえり・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- 1）教科書等の復習、ノート整理を行う。（毎週1．5時間程度）
- 2）企業経営に関する新聞やニュースを日々チェックし、さらなる理解と関心を高める。（毎週2．5時間程度）

教科書

藤田誠著『経営学入門』中央経済社（2015）ISBN：978-4502133916

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

特になし

リスクマネジメントの実践（21552）

後期

Practice of risk management

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

リスクマネジメントはリスクを低減化し回避する技術的手法である。一例をあげると、企業が企業価値を維持・増大させるためには、事業遂行上さまざまなリスクを効果的に管理する活動が必要となる。災害対応や金融事業におけるリスク処理だけでなく、環境の変化に対して広範なリスクを管理するためのシステムを形成することが求められることから、この授業で社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につけることを目的とする。

本講義では、このような視点から、企業がリスクに対してどのように対応し、どのようにリスク処理手段を選択するかという取り組み事例を通じて理解を深めることを学習する。

※この講義を履修する前に「危機管理学概論」、「危機管理と社会制度」、「リスクマネジメントの基礎」、「リスクコミュニケーション」を修得しておくことが望ましい

※履修生の知識の修得状況、または時間配分によって『基礎的な経営学』の講義も取り入れる

※Google Classroomのクラスコード：wvbjoun

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションと調査学習およびグループ発表を取り入れている。

到達目標

1. リスクマネジメントに関して、わきまえておくべき個々の事例について説明できる
2. リスクマネジメントを巡る今日的な問題について、自分の言葉で表現できる

評価方法

- ・学期末試験：30%（到達目標1を評価）
 - * 但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】
 - ・授業時間外での作成レポートの内容で評価(該当授業回内での提出14回)：42%（到達目標1、2を評価）
 - * 但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回分は採点しない】
 - ・平常点〔授業への積極的参加および態度〕(グループ・ディスカッションと発表の内容)：28%（到達目標2を評価）
 - * 但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
- ★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない。

注意事項

- 1) 許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要
- 2) 欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
 - * 10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
- 3) 授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする
- 4) 授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
- 5) 授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
 - * 特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする。
- 6) 授業中の飲食禁止

＊教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする。

7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション 危ない！職場でのリスク事例集：DVD
第2回	企業経営の基本 エンタープライズリスクマネジメント
第3回	リスク管理の基本 企業経営におけるリスクマネジメントの領域
第4回	リスクの分類
第5回	不正を許さない職場づくり（若手社員・中堅社員編）：DVD
第6回	リスク調査（リスク・ハザードの洗い出し・発見）
第7回	リスクの分析
第8回	リスク対策の全体像 リスクコントロール対策
第9回	危機管理体制の構築
第10回	リスクファイナンス対策
第11回	最適手法の選択
第12回	対策の実行・指導 結果の検証（評価）と改善
第13回	リスクマネジメントの流れとプロの確認
第14回	“自治体版”職場でのリスクマネジメント：DVD
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

・次の授業までに掲載された企業のリスクマネジメントに関連したビジネス・ニュースの中から、一番興味を持ち、ビジネス・リスクが自分を含む社会に発生すると考えられる1件を選択すること

・選択したビジネス・ニュースに対して、自分を含む社会へのリスクの関係性と考えを含めたレポートを600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること《後からの提出は、未提出扱いとする》
（4.2時間／回）14回

教科書

教科書は、使用しない

参考書

図解 リスクのしくみ、東洋経済新報社、石井至、ISBN:9784492092989

図解 入門ビジネス 最新リスクマネジメントがよ〜くわかる本、秀和システム、東京海上日動リスクコンサルティング、ISBN:9784798032887

リスクマネジメント論トレーニング、創成社、鴻上喜芳、ISBN:9784794424167

備考

年次	2 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 ブラダンスジット

授業の概要

この科目では、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識及び技能を身につける。リレーショナルデータベースシステムの基本的な概念、構造及び機能、問い合わせ言語いわゆる情報検索や検索システムの設計、管理など基本事項について学ぶ。あわせて、企業等が保有するデータの安全管理についても学ぶ。また、企業におけるデータベース管理システムの開発をどのように行われるかPBL学習法を通して学ぶ。

【アクティブラーニングの実施】PBL、グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。
【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1 データベース管理システムの機能を理解し、データ管理の必要性について説明できる。
- 2 SQLを使ってデータベースを操作することができる。
- 3 データベースシステムを一から構築するために必要とする知識を身に付ける。
- 4 データベースシステム開発における概念設計を自ら行うことができる。

評価方法

- 講義に取り組む姿勢（小テスト等）20％（到達目標1を評価）
- 課題レポート30％（到達目標2、3を評価）
- プレゼンテーション50％（到達目標3、4を評価）。

注意事項

論理的思考が要求される。

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス・Google Classroomへ登録手続き
第2回	データベース管理システムの基本的な概念、データベースの必要性・機能など
第3回	リレーショナルモデル・ドメイン、構造記述法など
第4回	データベースシステム設計論
第5回	データベースシステムにおける概念設計
第6回	実体関連図（ERダイアグラム）
第7回	グループディスカッション：PBLのためテーマ決定
第8回	グループワーク：データベースの概念設計実施
第9回	グループワーク：グループプレゼンテーション
第10回	リレーショナルモデルにおける整合性制約・ドメイン，キー制約、参照整合性制約
第11回	リレーショナルデータベース操作言語・SQL
第12回	リレーショナルデータベースに対する複雑な問い合わせ

回数	内容
第13回	SQL・集約機能
第14回	データ漏れ防止・データの安全性、障害時データ保護
第15回	まとめ

授業外学習

回数	内容
第1回	授業計画に示した内容について事前に概略をつかんでおくこと。(4時間)
第2回	データ管理の必要性について考えること。(4時間)
第3回	身の回りに使われているデータベースシステムについて調べること。(4時間)
第4回	自らデータベースシステムを設計するために、テーマを考えること。(4時間)
第5回	グループによるプロジェクト実施のために、グループメンバーを決めること。また、グループメンバー同士でテーマについて議論すること。(4時間)
第6回	データベースプロジェクトの最終案を作成すること。(4時間)
第7回	グループプロジェクトにおけるデータベース設計について概念的な図を作成すること。(4時間)
第8回	作成した概念的図による中間発表用の資料を作成すること。(4時間)
第9回	概念図を改善すること。(4時間)
第10回	概念設計に基づいたデータベースシステムの論理的な構成を考えること。(4時間)
第11回	自ら設計したデータベースに対して単純な問い合わせを考えること。(4時間)
第12回	自ら設計したデータベースに対して複雑な問い合わせを考えること。(4時間)
第13回	大量のデータを集約した形の問い合わせを考えること。(4時間)
第14回	データベースシステムにおける情報漏えいの問題について調べること。(4時間)
第15回	これまでの授業内容についての配布した資料や授業ノートなどをもとに総復習して授業にのぞむこと。(4時間)

教科書

使用しない。（適宜資料をPDFで配布、あるいはプロジェクター投影またはダウンロード可能なデータを明示する）

参考書

必要に応じて指示する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 青野勝廣

授業の概要

日本経済の現状と課題や現在の経済・財政・金融運営の本質を理解し、それが日本経済・市場に与える影響を考察するために、具体的な経済現象を示して、できるだけやさしく経済理論で説明する。経済理論を学ぶことを通じて自分の目で経済現象を理解できる能力を身につけることを目的とする。例をあげると、失業やデフレ（物価の持続的な下落）・インフレ（物価の持続的な上昇）、為替レート（自国と外国の通貨の交換比率）の円安（例えば、1ドルが110円から115円になること）・円高、所得・資産格差、賃金や年金制度の現状、少子高齢化やコロナの世界的大流行による働き方の形態の変化などの具体的な経済現象を説明できる経済理論を学び、自分で考え、自分の目で経済現象を理解できる能力を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1..具体的な経済現象を説明し、それに適用できる経済理論を見つける。
- 2.具体的な経済現象に適用できる経済理論で何が分かり、何が分からないかを自分で考えてみる。
- 3.自分で考えた考え方を担当教員や他の学生と討議できるようになる。
- 4.討議に積極的に参加し、自分の理解と担当教員や他の学生の理解の違いを自覚し、経済現象に対する自分の理解を深める。
- 5.自分で考え、自分の目で経済現象を理解できる能力を高めた上で、経済現象に対する自分の経済学的な理解を言葉で表現できるとともに、レポートで論理的に書くことができるようになる。

- 3.
- 4.
- 5.

評価方法

授業中の小テスト（到達目標1と2を評価）20点、授業中の討議（到達目標3と4を評価）20点、レポート（到達目標5を評価）60点の合計100点のうち、60点以上を合格とする。

注意事項

到達目標の1つは、具体的な経済現象を説明し、それに適用できる経済理論を見つけることですから、むつかしい経済理論を記憶する必要はありません。適用できる経済理論をできる範囲で理解する努力をして下さい。討議に積極的に参加し、分からないことを明らかにし、自分で考え、自分の目で経済現象を理解する能力を身につけるようにして下さい。

授業計画

回数	内容
第1回	経済情勢の学び方 経済現象の理解には、市場の役割、相互依存関係、人間はインセンティブによって動かされるなどが大切であることを具体的事例を使って授業する（以下では、「授業する」を省略する）。
第2回	景気の見方とマクロ経済の諸概念(1) マクロ経済学とGDP（GDPの概念、内容、推移など）（国内総生産）、マクロ経済学における需要と供給（ケインズ経済学と新古典派経済学、需要と供給の役割）について。
第3回	景気の見方とマクロ経済の諸概念(2) 景気動向指数（C.I.: Composite Index）と景気判断（予測）、政府と民間の景気判断などを実際の指標や景気判断。
第4回	世界経済の動向とその影響 条件つき予測としての世界経済、米国経済と欧州・中国経済の課題などについて。
第5回	財政金融政策をめぐる諸問題 アベノミックス（長期政権となった安倍内閣の政策）の評価、日本銀行の異次元金融緩和の歩みと金融政策の新たな枠組みの課題について。
第6回	求められる経済政策の再構築 経済学の理論的裏付けや実証的裏付けのない経済政策の議論、エビデンスに基づいた政策の必要性について具体例をあげて。

回数	内容
第7回	格差問題を考える 格差拡大の要因をめぐる議論、日本での格差拡大の状況について。
第8回	格差是正のための政策 再分配政策—効率性と公平性の実現、所得・資産格差の固定化の是正策などについて。
第9回	財政再建の必要性和可能性 財政再建と社会保障・不況対策の関係の重要性、少子高齢化と公債の負担の問題 財政・社会保障に多きく影響する「2025年問題」などについて。
第10回	少子高齢社会における働き方改革の必要性和方向性 メンバーシップ型雇用（例、終身雇用型）とジョブ型雇用の課題、働き方改革と「機会費用」、女性の経済参画と働き方などについて。
第11回	人口オーナス社会（少子高齢社会）での社会保障—年金・医療・介護 賦課方式中心の現在の年金制度の課題、医療費負担の現状の問題点、介護の問題点—介護費の上昇と介護人材の不足などについて。
第12回	人口オーナス社会の諸問題 達成可能な潜在成長率の低下、貯蓄の低下、賦課方式の社会保障制度の行き詰まりなどについて。
第13回	人口オーナス社会に求められる政策 人口と経済成長の関係、人口の集中・集積はどうあるべきか、少子化政策の基本は何か、という視点から求められる政策を考える。
第14回	日本経済と地域の振興 地域から見た人口変化、少子化と地方創生の動き、地域政策の基本方向などについて。
第15回	終わりに—日本経済の将来を考える スマート・シュリング、コンパクトシティ、コロナの世界的大流行後の働き方改革などについて。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・ 次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味等を調べて理解しておくこと。
- ・ 復習として、小テストを6～8回出題する。
- ・ 最終レポートを提出すること。

教科書

教科書を使用せず、プリントを配布する。

参考書

小峰隆夫『日本経済論講義』日経BP社、2017年。ISBN 978-4-8222-3688-5

小峰隆夫・村田啓子『最新「第6版」日本経済入門』日本評論社、2020年。ISBN978-4-535-55902-8

小林慶一郎・森川正之編著『コロナ危機の経済学』日経BP・日本経済新聞出版本部、2020年。ISBN978-4-532-35861-7

伊藤元重『入門経済学（第4版）』日本評論社、2019年。ISBN-978-4-535-55817-5

備考

特になし。

災害対策概論（21602）

前期

Compendium of Disaster countermeasures

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	五十嵐仁

授業の概要

我が国の自然災害や人的災害においては、行政機関を中止とした災害対応が行われるが、それらの法的根拠を明らかにするために、災害対策基本法を概観するとともに、これまでに発生した大規模災害後における同法の改訂内容とその目的を学ぶとともに、地方公共団体等が行応急対策の財政的な支援の法的根拠である災害救助法の基礎を学ぶ

社会人として活躍するための危機管理に関する知識や技能を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1 災害対策基本法を中心とした災害対策の法体系が理解できる。
- 2 法体系図を作成することにより、法令の相互関係を理解できる。
- 3 政府、地方自治体等の防災組織が理解できる。
- 4 防災基本計画、防災業務計画、防災地域計画など各種災害への対処基本計画の概要を理解できる。
- 5 災害応急対策で実施する内容を理解できる。
- 6 災害時における自衛隊、警察、消防の活動の実態が理解できる。
- 7 東海、東南海、南海トラフ地震対策の概要が理解できる。

評価方法

- 1 定期試験は実施しない。
- 2 レポート1回（80%）、授業に取り組む態度・姿勢（20%）により総合的に評価する。講義への積極的な参加が重要である。
- 3 授業回数の3分の1以上欠席した場合は不合格とする。

注意事項

携帯電話はマナーモードにして鞆の中にしまうこと。講義への積極的な参加が重要。

授業計画

回数	内容
第1回	災害の分類、災害事例、災害による人的・社会的損害
第2回	米国の災害との比較による日本の災害の特徴
第3回	災害の経験などについて簡単に発表
第4回	災害事例からの教訓の整理、教訓から次にすべく対策とは（各災害に共通する視点）
第5回	日本の災害応急対策の長所、短所（脆弱性）
第6回	自然災害（地震、津波、火山噴火）から自分の命を守る方法
第7回	人的災害（テロ）から自分の命を守る方法
第8回	人的災害（火災、事故）から自分の命を守る方法
第9回	災害対策本部とは、災害対策本部運用
第10回	災害における情報収集、集約、整理、信憑性評価と共有
第11回	世界標準の災害初動システムとは（インシデント・コマンド・システム概要）
第12回	防災組織の災害対策：消防庁、気象庁、警察庁、海上保安庁
第13回	防災組織の災害対策：自衛隊、日本赤十字社、放送機関、個人の災害対策
第14回	災害ボランティアの国際比較（日、米、インドネシア）
第15回	全講義の復習、まとめ、振り返り、Qs and As、テストについて

授業外学習

- 1 学習時間の目安：60時間
- 2 本講義は集中講義方式で行うので、開講 1 月前までに参考図書リスト提示する。これらの図書を購入する必要はないが閲覧する機会があれば第1章だけでも予習しておくこと。
- 3 出身地において自然災害等が発生した学生は、災害の状況、災害対策、教訓について発表できるよう準備すること。

教科書

- 1 教科書は指定していません。
- 2 講義資料を毎講義時に配布する。

参考書

考えない病：危機管理の視点からみた日本人の劣化 著者：東祥三 出版社：文芸社
クライシスマネジメント：危機管理の理論と実践 著者：大泉光一 出版社：同文館出版
緊急時総合調整システム：インシデント・コマンド・システム基本ガイド 著者：永田高志ら

備考

年次	1 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 岩井克己

授業の概要

日々の暮らしの中にはさまざまな危険が潜在するが、特に暮らしの中の生活や経済活動でのリスクに焦点をあてた暮らしの安全について理解を深める。社会や経済の変化への対応を学習するとともに、社会保障や安全保障に関する基本的な知識についても学ぶ。特に、国家・自治体の最も基本的な機能は、社会の秩序を維持することによって、社会における自由な経済活動と人々の暮らしの安全を保障することである。本講座は社会の秩序と安全に関わる公務員となるために必要と思われる犯罪学や刑事政策の基礎を身に付けることを目標とする。

【アクティブラーニング】

注目された犯罪事件などを取り上げ事例研究や討議・発表なども行う。

【フィードバック】

レポートのテーマ選定などへの相談、指導を行う。

到達目標

- ①最近の治安情勢と警察・法務など日本の治安維持の仕組みについて理解を深め、最近の国の治安に関する施策についても説明できる。
- ②具体的な犯罪事件などの討議を通じて、刑事法の基礎と犯罪学の概要について学び、刑事政策などについて自分の考えを説明できる。
- ③警察官、刑務官など社会の治安を維持する職業について理解と素養を深め、それに対する自分の適性と可能性について判断することが可能となる。

評価方法

レポート評価：60％（到達目標2を評価）

最終講義直後の試験：30％（到達目標1～3を評価）

講義への参加等の評価：10％（積極的な質問などに対して加点）（到達目標1を評価）

注意事項

- ①オリエンテーションの後、最初の講義において、学生と講師との面談と討議を行います。学生も各自全員、簡単な自己紹介や講義への希望などの説明を行います。
- ②最終日、試験の後、評価対象のレポートのテーマ選定について、個別相談と指導を行います。学生は各自、講義や事前学習中に、自分の関心のあるテーマを選定しておく必要があります。
- ③欠席・遅刻・途中退室・私語は、許可のない限り禁止。

授業計画

1日目

- 1 講義要綱（学生と講師との面談と討議 自己紹介、講義への期待など）
- 2犯罪学総論（犯罪統計など） 犯罪学各論（児童虐待等）
- 3犯罪学各論（児童虐待等）
- 4犯罪学各論（少年非行）
- 5犯罪学各論（交通犯罪）
- 6事例研究（桶川ストーカー事件等）
- 7 犯罪学各論（ストーカー・性犯罪等）

2日目

- 8犯罪学各論（財産犯、街頭・侵入犯罪）
- 9犯罪学各論（詐欺・特殊詐欺）
- 10犯罪学各論（企業犯罪）
- 11犯罪学各論（サイバー犯罪）
- 12事例研究（9・11米国同時テロ）
- 13犯罪学各論（国際テロ）
- 14犯罪学各論（組織犯罪）
- 15事例研究（オウム真理教事件）
- 16犯罪学各論（暴力団犯罪）
- 17犯罪学各論（薬物犯罪）

3日目

- 18刑事政策（刑罰、刑務所、刑務官、被害者対策など）
 - 19事例研究（神戸連続児童殺傷事件）
 - 20刑法総論（構成要件など）
 - 21刑事訴訟法（捜査、逮捕など）
 - 22まとめ（警察官、警察組織、刑務官、矯正組織の特徴など）
- 試験
- 個別面談（レポート指導など）

授業外学習

学習時間の目安：60時間

3回の事例研究課題と受講した講義に関連して、各自でレポートのテーマを選定し、資料を収集して1,000字程度のレポートを作成し提出する。

レポートのテーマについて、最終日に個別相談と指導を行うので、事前にレポートのテーマについて、各自、資料収集し研究しておく必要がある。

教科書

特に指定しないが、講義の際にレジюмеと資料を用意し配布する。

参考書

- 主な参考図書
- 「警察白書」（国家公安委員会・警察庁編、令和4年版等）
 - 「犯罪白書」（法務総合研究所編、令和4年版等）
 - 「犯罪学入門」（渡辺巧著、2009年、成分堂）
 - 「犯罪学ハンドブック」（アンソニー・ウォルシュ著、明石書店、2017年）
 - 「ビギナーズ刑事政策」（守山正、安部哲夫編著、成分堂、平成20年）

備考

「犯罪白書」「警察白書」のバージョンを最新版へ変更

外部から上原美都男講師（元岡山県警本部長、元加計学園理事、元千葉科学大学客員教授）による講話を検討を取り止め

経営リスク認知論（21653）

前期

Management risk cognitive theory

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	田原 静

授業の概要

経営についてのリスク情報の内容と種類，そしてこれらのリスクを人はどのように認知し意思決定を行うのか，代表的なリスク認知のモデルについて解説する。個人から集団，社会へと視点を広げながら，リスク認知と意思決定に影響を与える要因やリスク認知と社会との関係について見て行く。

この科目は，主にリスク認知の分野に関して危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につけることを目的としている。

【アクティブラーニング】

・グループ，または2人1組での調査・ディスカッションを予定している。

【フィードバック】

・課題(プレゼンテーション内容等) に対するフィードバックを含めた指導を行う。

【I C Tを活用した双方向型授業】

本授業では，Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

・講義後，講義内にて配布した資料を提示します。

・参考となる資料，Webサイトへのリンク等を提示します。

・講義中にGoogle formを用いた簡易な意見交換を予定しています。

到達目標

- 1 リスク認知，意思決定についての基礎的な概念・理論を理解し説明できる
- 2 リスク認知と意思決定に影響を与える要因について，理解し説明できる
- 3 リスク認知と社会との関係について理解し説明できる

評価方法

期末試験60%(到達目標1,2,3を評価)，中間テスト30%(到達目標1,2を評価)及び授業態度(10%)によって評価する。

この授業では，定期試験が必須条件です。受験していない場合は評価の対象となりません。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は，講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	リスク認知とは
第3回	認知の基礎：感覚・知覚
第4回	認知の基礎：記憶と忘却
第5回	認知の基礎：概念と知識
第6回	認知の基礎：問題解決
第7回	認知の基礎：無意識の影響
第8回	リスク状況下の意思決定プロセス
第9回	リスク認知と感情・直感
第10回	リスク認知と個人差

回数	内容
第11回	リスク認知と集団・社会
第12回	リスク情報の社会的伝搬
第13回	リスクと時間
第14回	リスクと信頼
第15回	まとめ

授業外学習

- ・ 予習について：次回授業の該当箇所にあたる資料の範囲を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・ 復習について：授業内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・ できれば新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみたい

教科書

教科書としては指定しない。適宜，講義内で資料配布を行う。

参考書

中谷内一也(2012)「リスクの社会心理学－人間の理解と信頼の構築に向けて」有斐閣 978-4641173873

広田すみれ 他(2018)「心理学が描くリスクの世界 第3版：行動的意思決定入門」慶應義塾大学出版会 978-4766423341

服部雅史 他(2015)「基礎から学ぶ認知心理学 -- 人間の認識の不思議」有斐閣 978-4641150270

他，講義中に適宜紹介

備考

経営リスク評価論（21654）

前期

Theory of business risk assessment

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

現代社会には、ハザード（危害の原因となる可能性のあるもの）が存在する。こうした危害要因は完全に取り除くことができないため、危害の深刻さと起こりやすさの程度であるリスクを評価して、将来に備えて対策を講じることが重要となる。本講義では、経営に影響を与える様な企業不祥事を中心に、それぞれのリスクの特性に対応したリスク評価手法と管理措置について学習することで、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につける。

【実務経験のある教員による授業科目】元富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社（当時、富士ゼロックス株式会社）勤務：元の勤務先では、自社の経営品質向上業務に携わっていた。その経験を活かし、経営に影響を与えるような企業不祥事となりうる事象をケースとして、リスク特性に対応したリスク評価手法と管理措置について授業を行う。

※この講義を履修する前に、「危機管理学概論」、「リスクマネジメントの基礎」、「危機管理と社会制度」および「リスクコミュニケーション」を修得しておくことが望ましい。

※Google Classroomのクラスコード：6oynlrl

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションとプレゼンテーションおよびグループ発表を取り入れている。

到達目標

- 1.企業内の各業務での基本的なリスク対応策を作成できる
- 2.経営リスクの芽を発見する力を修得できる

評価方法

- ・学期末試験：30%（到達目標 1、2を評価）
 - ※但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】
 - ・プレゼンテーション資料作成と発表への貢献度に対するグループ内評価(14回)：42%（到達目標1を評価）
 - ※但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
 - ・平常点〔授業への積極的参加および態度〕(グループ・ディスカッションとプレゼンテーションの内容)：28%（到達目標2を評価）
 - ※但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
- ★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない

注意事項

- 1)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]等を提示の上、事前許可要
- 2)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]の提出要
 - ※ 10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
- 3)授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする
- 4)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
- 5)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
 - ※ 特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする
- 6)授業中の飲食禁止
 - ※ 教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする

7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション／【例】リストラ ＊ 配置転換
第2回	リスクマネジメントの意義 ＊ 派遣・契約・パート社員の雇用
第3回	リスクの分類と構造 ＊ 年俸制の導入
第4回	リスクマネジメントの組織整備 ＊ 従業員持株制度の導入
第5回	リスクマネジメントのプロセス ＊ 懲戒解雇
第6回	リスクマネジメント規定書の作成 ＊ 人材の流出
第7回	リスクの発見 ＊ 職場でのいじめ
第8回	リスクの分析・評価 ＊ セクハラ
第9回	リスク対策の概要 ＊ 社内での盗難
第10回	事前対策の実施 ＊ 社員の自己破産
第11回	リスクファイナンスの目的 ＊ 社員の過労死
第12回	事後対策の実施 ＊ 社内スキャンダル（私的事件）
第13回	リスクマネジメントプロセスの分析・評価 ＊ 業務関連の犯罪（横領・窃盗など）
第14回	フィードバックの実施 ＊ 労働争議
第15回	外部専門家の活用

授業外学習

学習時間の目安：60時間

授業内で説明する人事・労務管理に関するリスクに該当する【＊】マークのテーマにおける概要、ケースおよび関連項目に対して、次回の授業での発表準備として各グループ内で①［リスクの着眼点（可能性のあるリスク）］、②［リスクマネジメント（リスクコントロール・リスクファイナンス）］、③［関連法規］、④［事後対策］、⑤［チェック項目］などを可能な限り抽出し、プレゼンテーション作成と発表の役割を決め、発表可能な状態で次回の授業に参加すること（4.2時間／回）14回

＊尚、発表時はプレゼンテーション技法を取り入れて発表すること

教科書

教科書は、使用しない

参考書

企業不祥事の研究、文真堂、井上泉、ISBN9784830948725

不祥事対応ベストプラクティス、商事法務、長島・大野・常松法律事務所、ISBN9784785723118

リスクマネジメント要覧、経済法令研究会、MS&ADインターリスク総研、ISBN9784766824162

企業不祥事インデックス、商事法務、竹内・上谷・笹本_他、ISBN9784785723125

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤 山中高光

授業の概要

この科目は経済・経営分野の知識を身につけるための科目の一つである。

標準的な経済学では、合理的な意思決定をする経済人（ホモ・エコノミクス）を前提としている。すなわち、財の価格や品質などについて完全な情報をもとに、ぶれない好みを持ち、矛盾のない選択をすると想定している。しかし、現実には、我々は限られた情報と能力しかなく、誘惑に弱く、しばしば不合理な選択を行い、後悔したり失敗の憂き目にあう。こうした人間の行動にこれを明らかにするのが経済心理学や行動経済学である。本講では、経済心理学や行動経済学の基礎を学び、実際の経済活動の理解と改善に向けて応用力を養う。

到達目標

1. 経済心理学の基礎的概念を理解できる。
2. 経済心理学の理論を、実際の経済活動の理解と改善に向けて適用できるようになるようになる。

--

評価方法

到達目標

1. 経済心理学の基礎的概念を理解できる。
2. 経済心理学の理論を、実際の経済活動の理解と改善に向けて適用できるようになるようになる。

評価方法

到達目標 1、 2 を定期テストにより評価する。そのうち到達目標 1 を60％、 到達目標 2 を40％評価し、 総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。

また、授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく。

授業計画

- 1週目：経済心理学とは：経済活動は合理的か
- 2週目：限定合理性：人々の合理性には限界がある
- 3週目：ヒューリスティック（1）：簡便な問題解決と合理性
- 4週目：ヒューリスティック（2）：利用可能性および代表性ヒューリスティック、アンカリング
- 5週目：選択と時間：経済学と時間、時間選好率、
- 6週目：現在バイアス：先延ばし行動
- 7週目：不確実性下の選択：期待効用理論
- 8週目：プロスペクト理論：確実性効果、損失回避
- 9週目：アディクション：喫煙行動、パターナリズム
- 10週目：ゲーム理論（1）：囚人のジレンマ、ナッシュ均衡
- 11週目：ゲーム理論（2）：企業の戦略的行動
- 12週目：ナッジ（1）：ひと押し、思わずしたくなるしかけ
- 13週目：ナッジ（2）：身の回りのナッジ、長所と短所
- 14週目：危機管理と経済心理学：経済心理学の成果の危機管理への応用
- 15週目：まとめと展望

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前に資料を配布するので予習をすること。また練習問題（授業中に解説する）があるので基礎的な復習に役立てること。

授業中でもできるだけ取り上げるが、まずは日々の経済ニュースや経済データに接し、それらについて授業で学んだことを応用して考察し、自分の意見を持つことが望ましい。

教科書

資料を配付する。

参考書

授業中や配付資料において適宜支持する。

備考

Google Classroomを資料提示，練習問題解説などに活用する。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 山中高光

授業の概要

この科目は経済・経営分野の知識を身につけるための科目の一つである。

経済社会にとって資源の安定的な調達と適切な利用は重要な課題である。資源を確保したとして野放図に使用することは許されない。資源の使用が、経済社会が存立するための環境を脅かし、人類の存亡にかかわる事態が引き起こしかねないことが懸念されている。

この授業では、自然資源の保全と利用について、その概要と、経済学の基本的な考え方を確認しながら、いくつかの資源について経済学を用いた分析を解説する。

到達目標

- 1．自然資源と経済のかかわりについて、基本的な考え方が理解できる。
- 2．自然資源の分析に関する基本的手法が理解できる。
- 3．自然資源の諸問題を分析できる。

評価方法

評価は、定期試験100%（到達目標 1 ～ 3 を評価）により評価する。成績評価の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。

また、授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく。

授業計画

- 第1回 資源経済学とは：我々が直面している自然資源に関する課題と分析方法の概観
- 第2回 資源と経済：自然と経済、自然資源の分類、経済学、政策と政治
- 第3回 基本的考え方（1）：需要と供給
- 第4回 基本的考え方（2）：静学的効率性と動学的効率性、効率性と世代間効率性：持続可能性、
- 第5回 市場と効率性：市場と静学的な社会的効率性、市場と異時点間の効率性
- 第6回 自然資源に対する公共政策：目的、種類、所有権、インセンティブ、市場の失敗、政府の失敗
- 第7回 自然資源の分析：影響評価、費用便益分析、自然資源の評価（便益、費用）
- 第8回 鉱物経済学：地質学的要因と採掘費用、採掘の経済学、鉱物価格の実際、探査と開発、枯渇性資源と持続可能性、リサイクルの経済学
- 第9回 エネルギー：エネルギー使用:価格と消費、エネルギー市場の政治経済学、クリーンエネルギー、エネルギー自給の経済学
- 第10回 森林の経済学：森林伐採の意思決定、リング王の所有形態、国有林からの木材伐採、日本の林業
- 第11回 海洋資源：漁業をめぐる問題、漁業の経済モデル、漁業管理
- 第12回 農業の経済学：農業の所得支援政策、薬剤抵抗性に関する経済学、単一栽培に関する経済学、土地生産性に関する経済学、日本の農業問題
- 第13回 野生生物管理の経済学：野生生物と人間社会、公共政策と野生生物の市場
- 第14回 生物多様性の保護の経済学：絶滅危惧種、生物多様性の保護の費用対効果、経済的なインセンティブと生息地保護
- 第15回 まとめと復習

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前に資料を配布するので予習をすること。

また練習問題（授業中に解説する）があるので基礎的な復習に役立てること。

授業中でもできるだけ取り上げるが、まずは日々の経済ニュースや経済データに接し、それらについて授業で学んだことを応用して考察し、自分の意見を持つことが望ましい。

教科書

バリー・C. フィールド 著『入門 自然資源経済学』（庄子 康 柘植 隆宏 栗山 浩一 訳）、日本評論社、2016年、ISBN：978-4-535-55798-7

参考書

浅子和美・川西諭・小野哲生 著 「枯渇性資源・環境と持続的成長」『経済研究』 Vol. 53, No. 3, July 2002

有村俊秀, 片山東, 松本茂編著『環境経済学のフロンティア』: 日本評論社, 2017.9, ISBN : 978-4-535-55857-1

一方井誠治著『コア・テキスト 環境経済学』、新世社、2018年、ISBN : 978-4-88384-279-7

時政島・薮田 雅弘・有吉範敏・今泉 博国 編『環境と資源の経済学』、勁草書房、2007年、ISBN 978-4-326-54784-5

また、公的機関のサイト（以下参照）を閲覧し、統計データの利用、政策などの分析を進めてもらいたい。

資源エネルギー庁HP（<https://www.enecho.meti.go.jp/>）

国立研究開発法人国立環境研究所HP（<https://www.nies.go.jp/>）

備考

Google Classroomを資料提示, 練習問題解説などに活用する。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 松尾隆敏

授業の概要

金融論は、経済をお金（貨幣）に注目して捉え直すものである。お金は国民経済の血液に相当するものであり、国民経済の隅々までお金を適切に循環させる金融政策は、きわめて重要な役割を担っている。

本科目では、金融の基礎理論を学ぶ。金融経済の現状等の身近な事例を取り上げ、金融の仕組みや機能、金融機関の役割といった側面に重点を置いて、理論と実際の両面から、金融の総合的な判断力やグローバル化に対応できる能力を培う。

本科目は、専門科目のうち、D P「経済・経営分野の基礎知識を身につける」こと、およびDP「経済・経営分野に関連する危機管理の知識および技能を身につける」ことを目的とする。

【フィードバック】レポートに対する講評・解説を行う。

到達目標

- 1．金融論の理論的体系を理解し、説明できる。
- 2．金融システムとマクロ経済・ミクロ経済の関係性を理解し、説明できる。
- 3．金融市場の機能と限界、規制の意義・必要性を理解し、説明できる。
- 4．金融からみた日本経済の現状や金融関連のトピックス・ニュースについて理解し、説明できる。

評価方法

※到達目標と関連して記入してください。

定期試験：6 0 %（到達目標 1 ～ 4 を評価）

レポート：4 0 %（到達目標 3 ～ 4 を評価）

総合計の 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

私語・遅刻・無断早退・音を鳴らす電子機器使用の禁止。

授業計画

回数	内容
第1回	金融論で何を学ぶか
第2回	貨幣の役割と物価との関係
第3回	金利と債券
第4回	金融政策のための基本モデル
第5回	金融政策の課題と日本銀行
第6回	金融政策の基本手段と新しい展開
第7回	金融システムと金融仲介機関の役割
第8回	銀行以外の金融機関
第9回	金融システムの安定化のための政策
第10回	金融機関の破綻への対応策
第11回	金融市場に関する規制
第12回	間接金融型の金融商品
第13回	直接金融型の金融商品
第14回	ファイナンスの基礎理論

回数	内容
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・各回の講義内容について、予め教科書を読んで予習するとともに、参考書や授業で配布されるレジュメ・資料に基づき必ず復習すること。
- ・レポート課題を 2 回出題する。レポート課題を通じて、金融の現状と問題点について考察を深めること。

教科書

著者名：家森 信義

書名：ベーシックプラス 金融論（第 3 版）

出版社名：中央経済社

I S B N：978-4-502-41591-3

参考書

著者名：島村高嘉・中島真志

書名：金融読本（第 3 1 版）

出版社名：東洋経済新報社

I S B N：978-4-492-10036-3

著者名：金融広報中央委員会

書名：大学生のための人生とお金の知恵

出版社名：金融広報中央委員会

備考

Google Classroomに配布資料等の情報を掲載し、課題提出はGoogle Classroomから行う。

PC・スマートフォンからGoogle Classroomを使用できるよう登録・設定を行うこと。

遠隔授業実施時には、Zoomによるリアルタイム授業を行う場合がある。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

現代スポーツの経済効果およびスポーツビジネスについての基礎知識を習得する。スポーツを経営学的視点から捉える。国内外のスポーツビジネスの事例をもとに現状と課題について学習する。さらに、スポーツの文化性、公共性に配慮した地域スポーツの振興方策や、スポーツ経営学において注目されているスポーツ・スポンサーシップについても知識を習得する。
この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

- 【アクティブラーニング】フィールドワークやグループワークを取り入れる
- 【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。
- 【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。
・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

- 1．プロスポーツ団体やスポーツジムのマネジメントなどスポーツ経営に関わる基礎的な知識を修得することができる。
- 2．スポーツ組織を維持・発展させていくための課題解決能力を修得することができる。
- 3．スポーツクラブがもたらす地域貢献とその経済効果の分析に関する知識を修得することができる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2を評価）、グループディスカッションまたは事例調査 5 0 %（到達目標3を評価）。
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

フィールドワークや事例調査を行うため、自主的かつ積極的な態度や姿勢が求められる。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクションースポーツの現状ー
第2回	スポーツ経営の意義
第3回	スポーツ事業の進め方ースポーツプロダクトとはー
第4回	地域のスポーツ経営と総合型地域スポーツクラブ
第5回	民間スポーツ・フィットネスクラブの経営戦略
第6回	スポーツスポンサーシップ
第7回	プロモーションとITマーケティング①
第8回	プロモーションとITマーケティング②
第9回	スポーツツーリズムについて
第10回	価格戦略
第11回	グループワーク1（プロスポーツが抱える経営課題）
第12回	グループワーク2（発表とディスカッション）

回数	内容
第13回	グループワーク3（スポーツツーリズム）
第14回	グループワーク4（発表とディスカッション）
第15回	ふりかえり・まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 教科書などの復習、ノート整理を行う。（毎週2．5時間程度）
- 2) スポーツに関連するニュースや新聞記事を毎日チェックし、その背景や動向について、経営の視点から理解する。（毎週1．5時間程度）

教科書

資料は、講義時に適宜配布します。

参考書

八代勉他編著『体育・スポーツ経営学講義』大修館書店（2013）ISBN：978-4469-26480-7
 原田宗彦編著『スポーツマーケティング』大修館書店（2015）ISBN：978-4469-26659-7
 原田宗彦他『Jリーグマーケティングの基礎知識』創文企画（2013）ISBN：978-486413042-4

備考

特になし

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 山中高光

授業の概要

この科目は経済・経営分野の知識を身につけるための科目の一つである。
この授業では、財政学の入門として、財政とわれわれの生活のかかわり、市場経済における財政の機能、わが国の日本の予算の仕組みと役割、経費の推移とその背景、税の仕組みとその負担、社会保障、公債の機能と負担、地方財政、財政政策、戦後日本の財政の変遷、日本の財政の課題などについて学ぶ。学生が、国及び地方財政の理論・制度・課題に関する一般的知識を習得し、問題を把握、解決策を考察し、自分の意見を研くことができるようにする。

到達目標

- 1．国及び地方財政の理論・制度・課題に関する一般的知識を習得し、理解し、説明できるようになる。
- 2．財政の諸問題を把握し、解決策を考察し、自分の意見をもつことができるようになる。

評価方法

到達目標

- 1．国及び地方財政の理論・制度・課題に関する一般的知識を習得し、理解し、説明できるようになる。
- 2．財政の諸問題を把握し、解決策を考察し、自分の意見をもつことができるようになる。

評価方法

到達目標 1、2 を定期テストにより評価する。そのうち到達目標 1 を60％、到達目標 2 を40％評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。
授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく。

授業計画

- 1週目：財政学とは何か―政府の役割、資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能
- 2週目：財政制度（1）―日本の財政制度、予算の仕組み、予算の編成
- 3週目：財政制度（2）―予算の執行、決算、財政投融资
- 4週目：財政収支―財政収支、財政赤字、政府のバランスシート、世代会計
- 5週目：公共財（1）―公共財、最適供給、リンダール均衡
- 6週目：公共財（2）―多数決、公共財の供給、費用-便益分析
- 7週目：税（1）―税の種類と基本原則、応能原則、応益原則、税の誘因効果
- 8週目：税（2）―税の転嫁と帰着および超過負、ラムゼイのルール
- 9週目：所得再分配―所得再分配、税と補助金、所得再分配をめぐる諸問題
- 10週目：公債―公債の負担、公債の中立性
- 11週目：社会保障（1）―社会保障、財源調達と所得再分配、社会政策
- 12週目：社会保障（2）―公的年金：制度と目的、経済学的特徴、年金改革
- 13週目：地方財政―地方財政の役割と仕組み、地方財政支出、地方税、国から地方への財源移転、地方債、地方公共団体の「破産」
- 14週目：マクロ経済と財政政策―45度線分析、乗数効果、IS-LM分析と財政政策、ケインズ派の財政政策に対する批判、マイナスの乗数効果
- 15週目：日本の財政の変遷と課題―超高齢化・人口減少、財政の健全化-とまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間
事前に資料を配布するので予習をすること。また練習問題（授業中に解説する）があるので基礎的な復習に役立てること。
授業中でもできるだけ取り上げるが、まずは日々の経済ニュースや経済データに接し、それらについて授業で学んだことを応用して考察し、自分の意見を持つことが望ましい。

教科書

小塩隆士『コア・テキスト 財政学（第2版）』新世社、2016年

参考書

土居 丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002年

持田 信樹『地方財政論』東京大学出版会、2013年
その他, 適宜授業中に指示する。

備考

Google Classroomを資料提示, 練習問題解説などに活用する。

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	 田原 静

授業の概要

一般的には「企業が顧客のニーズを捉え、自社製品の販売を促進するための手法」として捉えられることの多いマーケティング。その理論と実践は、社会や市場、消費者の行動の変化と呼応して時代と共に様々に変遷し、その焦点はかつてのモノ（製品や商品）中心からサービスや顧客との関係性、顧客の価値へと移って来ている。本講義では、主なマーケティングの理論と実践の変遷を学ぶと共に、事例を通じ現代の企業や非営利組織において、実際のマーケティング活動がどのように行われているかを紹介する。

この科目は、主にマーケティングの分野に関して経営分野の知識を身につけることを目的としている。

【アクティブ・ラーニング】

- ・グループごとでのディスカッションとプレゼンテーションを予定している。

【フィードバック】

- ・課題(プレゼンテーション内容等) に対するフィードバックを含めた指導を行う。
- ・講義中にGoogle formを用いた簡易な意見交換を予定している。

【I C Tを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

- ・講義後、講義内にて配布した資料を提示します。
- ・参考となる資料、Webサイトへのリンク等を提示します。

【実務経験のある教員による授業科目】元(株)ミックス勤務：Webプランナー、ディレクターとして様々な企業の広報・販促活動をサポートしてきた経験に基づき、近年重要性が増しているWebマーケティング、Webとリアルの融合といった視点に重点を置き、実例をもとに授業を行う。

到達目標

- 1 マーケティングに関する基本的な概念や理論を理解し説明できる
- 2 マーケティングの事例について、背景にある企業としての戦略やマーケターの意図、消費者の行動に与える影響について理論をベースに検討できる
- 3 マーケティングに関する基本的な概念や理論に依拠しながら、自分なりのアイデアを考え発表できる

評価方法

期末試験の成績60%(到達目標1,2を評価)、グループでの発表内容(30%)(到達目標3を評価)及び授業態度(10%)によって評価する。

この授業では、定期試験が必須条件です。受験していない場合は評価の対象となりません。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は、講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	マーケティング論のなりたち、基本的な概念
第3回	消費者の行動、マーケティング・リサーチ
第4回	マーケティング戦略
第5回	製品・サービス政策
第6回	価格政策

回数	内容
第7回	プロモーション政策
第8回	流通政策
第9回	マーケティング・ミックス
第10回	市場資源のマーケティング(ブランド・関係性マーケティング)
第11回	生産財マーケティング, サービス・マーケティング
第12回	デジタル・マーケティング
第13回	事例分析（発表・ディスカッション）
第14回	事例分析（発表・ディスカッション）
第15回	これまでの講義のまとめ・今後のマーケティング理論の展望について

授業外学習

- ・予習について：次回授業の該当箇所にあたる教科書の範囲を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・復習について：授業内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・できれば新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみて欲しい

教科書

黒岩健一郎・水越康介(2018)「マーケティングをつかむ 新版」有斐閣 978-4641177253

参考書

石井淳蔵・栗木契・嶋口充輝・余田拓郎(2013)「ゼミナール マーケティング入門 第2版」日本経済新聞出版社 978-4-532-13439-6

村松潤一(2015)「価値共創とマーケティング論」同文館出版 978-4-495-64741-4

朝野 熙彦(2016)「マーケティング・サイエンスのトップランナーたち～統計的予測とその実践事例」 978-4489022340

他，講義中に適宜紹介

備考

会計原理（21661）

前期

accounting principle

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 岡野憲治

授業の概要

お金についての基本的な知識を豊富に含む会計原理は、現在の経済社会を生きるために必要です。企業の会計は企業会計です。この授業では、企業会計の仕組みを学習します。企業の具体的な事例も紹介します。企業を会計の知識によって理解することができるようになると、就職活動を有利に進める事が出来ます。さらに、企業などに就職してからも役に立つ会計も学びます。経済・経営分野の知識を身につけることを目的とします。

到達目標

- 1．この授業によって、経済社会を理解できる会計知識を習得します。「会計の知識があれば、企業の具体的な経営の実態が見える」ことを理解できることとなります。
- 2．日本経済新聞の経済関連の記事を読み、それを理解できるようになりたいですね。

評価方法

授業中に真剣に学習に取り組む姿勢の評価30点（到達目標1を評価）、小テストの評価30点（到達目標1を評価）、定期試験の評価40点（到達目標1、2を評価）とし、総合的に評価して、単位を認定します。

注意事項

「真面目さ」という「性格力」を伸ばすために、遅刻と欠席はゼロにしたいですね。授業内容が、やや難解であるという授業アンケート結果に応じて、懇切丁寧な分かりやすい授業を心がけています。「会計」という言葉に馴染みがない学生諸君の参加も歓迎します。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 会計学の基礎を、会計情報の役割などの学習を通じて理解できます。
第2回	第2回 日本の会計制度と社会の関係を理解できます。
第3回	第3回 財務諸表の種類とその内容を説明できるようになります。
第4回	第4回 貸借対照表は、財政状態を表示するものであることが理解できます。
第5回	第5回 損益計算書は、経営成績を表示するものであることが理解できます。
第6回	第6回 商品を仕入れ、販売するデパートなどの商業企業の会計の知識を学習します。
第7回	第7回 モノを作り出す生産設備の会計を学習します。減価償却の内容を理解できます。
第8回	第8回 資産、収益、費用などの会計を理解します。
第9回	第9回 現金、預貯金、有価証券などの金融資産についての知識を習得できます。
第10回	第10回 第5回で学習した損益計算書を深く学習し、経営成績の意義をさらに理解します。
第11回	第11回 負債、資本、純資産などの会計を理解できます。
第12回	第12回 営業活動の会計を学習し、売上代金の回収とか収益などについて理解します。
第13回	第13回 企業の利益構造とか損益分岐点などについて理解できます。
第14回	第14回 企業の経営管理（マネジメント）と会計の関係を学習します。
第15回	第15回 会計を活用する仕事を理解できます。就職活動にも役立ちます。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

教室の授業だけではなく、単位を取得するためには、家庭での予習と復習の時間が必要になります。そのための資料などを提供します。この資料と教科書を活用して授業外の学習をすることにより、単位を取得することが容易になるだけでなく、会計の知識が深まります。

自主的に授業外の学習成果をレポートなどで提出されることは、大歓迎です。

教科書

谷武幸他編『1からの会計 第2版』。発売元 中央経済社。2021年。ISBN：978-4-502-37151-6

参考書

興津裕康・岡野憲治著「簿記原理－改訂第2版」白桃書房。2009年。ISBN 978－4－561－45166－2C3034

備考

楽しく、理解しやすい授業を心がけています。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	 岡野憲治

授業の概要

簿記は、現在の経済社会を生き抜くために必要な知識です。たとえば、家庭の簿記は、家計簿です。
企業の簿記は、株主総会に提出される財務諸表である損益計算書と貸借対照表を作成する基礎となります。
この講義では、簿記の基本的考え方と財務諸表に関する基礎的な知識を学ぶ事が出来ます。さらに、この講義では、企業の経営活動を表す財務諸表を作成するまでの簿記の内容について理解できます。
日本商工会議所の簿記検定試験に合格できるように学びますので、就職活動を有利に進めることが出来ます。

到達目標

- 3つの到達目標を達成することが出来ます。そして就職活動を有利に進めることが出来ます。
- 1 まず、簿記の基礎的な知識と全体の内容を学ぶことが出来ます。
 - 2 次に、新聞などの経済面に出てくる「簿記と会計に関する基礎的な知識」を理解する事が出来ます。
 - 3 そして日本商工会議所の簿記検定試験の3級を受験できる能力を身に付ける事が出来ます。

評価方法

授業内容についての討論と議論などに真剣に取り組む姿勢（到達目標1を評価）、課題レポートの提出（到達目標1、2を評価）、定期試験（到達目標1～3を評価）
などを総合的に判断して、評価します。評価の割合は、それぞれ30%、30%、40%とします。

注意事項

「真面目さ」という「性格力」を伸ばすために、遅刻と欠席はゼロにしたいですね。
私語を交わしたり、スマホを操作したりなどは、控えていただきたいですね。

授業計画

- 授業計画
- 第1回 簿記の基礎である「取引の8要素と勘定記入の原理」を理解する事が出来ます。
- 第2回 資産である現金・預金・有価証券などの取引を理解する事が出来ます。
- 第3回 商品を仕入れて販売するという商品売買取引を理解する事が出来ます。
- 第4回 売掛金と買掛金などの債権と債務の取引を理解することが出来ます。
- 第5回 受取手形と支払手形などの手形取引を理解する事が出来ます。

- 第6回 備品と建物などの固定資産取引と減価償却の内容を理解することが出来ます。
- 第7回 その他の資産といわれる無形固定資産と投資などの取引を理解することが出来ます。
- 第8回 企業の当期純利益の計算方法と決算を理解することが出来ます。
- 第9回 現代の代表的な企業である株式会社の簿記を中心に学習することが出来ます。
- 第10回 企業の資金調達の方法の1つである社債について理解する事が出来ます。

- 第11回 財務諸表の損益計算書の作成方法を学習することが出来ます。
- 第12回 財務諸表の貸借対照表の作成方法を学習することが出来ます。
- 第13回 精算表の内容とその作成方法を学習することが出来ます。
- 第14回 日本商工会議所の簿記検定試験を受験できる準備をすることが出来ます。
- 第15回 日本商工会議所の簿記検定試験の3級の内容を理解することが出来ます。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

簿記の学習には、演習前に教科書をあらかじめ読んでおく予習と問題点などを解決する復習が必要です。
これらの学習に取り組むことによって、簿記の実力をつけることが出来ます。教科書の演習問題を解いてもらいます。
自分で解けない、理解できないことは、教室において、皆で議論することができます。
解答した演習問題を提出することで、授業外学習の証拠として下さい。

教科書

興津裕康・岡野憲治著『簿記原理－改訂第2版』白桃書房。2009年。ISBN 978-4-561-45166-2 C 3034

参考書

谷 武幸 桜井 久勝編著『1からの会計』中央経済社。2016年。ISBN 978-4-502-29980-3 C 3034

備考

楽しく、理解しやすい授業を心がけています。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 高橋良平

授業の概要

現在の社会においては、家計分野においても企業分野においても、リスクの経済的損失を移転（ヘッジ）する保険は欠くことができない。さらに保険は、リスクヘッジ機能だけではなく、金融商品としての機能も持つようになった。本講義では、保険の仕組みを学習した上で、家計分野・企業分野における保険の機能、F P (ファイナンス・プランニング)やリスクマネジメントとの関係を、実例を織り込みながら学習する。

経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

【フィードバック】レポートについては提出物を確認の上、理解度に応じて解説をおこなう

到達目標

- 1．保険の仕組み・保険種目の特徴を説明できる。
- 2．保険とリスク、リスクマネジメントの関係を説明できる。
- 3．保険事業者の経営・マーケティングについて理解できる。
- 4．新聞の保険関連記事の内容が理解できる。

評価方法

定期試験: 70% (到達目標1～3を評価)

レポート: 30% (到達目標2～4を評価)

注意事項

私語・遅刻・無断早退・音を鳴らす電子機器使用の禁止。

授業計画

回数	内容
第1回	保険の仕組みと特徴
第2回	保険の種類
第3回	保険制度の歴史と発展
第4回	保険とリスクマネジメント
第5回	火災保険・地震保険契約
第6回	損害保険契約
第7回	生命保険契約
第8回	第三分野の保険
第9回	保険経営① 保険制度と契約者保護
第10回	保険経営② 新商品開発と販売
第11回	生活保障システムにおける社会保障と社会保険①公的医療保険
第12回	生活保障システムにおける社会保障と社会保険②公的年金
第13回	生活保障システムにおける社会保障と社会保険②企業年金等
第14回	保険会社の企業価値
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計6 0 時間

参考書や授業で配布されるレジュメや資料を良く読んで必ず予習・復習を行ってほしい。

教科書

レジュメを配布

参考書

はじめて学ぶリスクと保険 (有斐閣ブックス) 下和田 功 有斐閣 ISBN-10: 4641184208

保険学 近見 正彦 有斐閣 ISBN-10: 4641184348

保険論 大谷 孝一 成文堂 ISBN-10: 4792342406

備考

Google Classroomに配布資料等の情報を掲載し、課題の提出はGoogleClassroomからおこなう。

PC・スマートフォンからGoogleClassroomを使用できるよう登録・設定をおこなうこと。

事業継続計画（BCP）（21665）

前期

Business continuity planning (BCP)

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 田原 静

授業の概要

従業員の雇用や人々の生活を支える商品・サービスの提供など、様々な形で社会と密接に関わる企業にとって、事業を継続し存続し続けることは社会に対して果たすべき重要な責任の一つである。事業継続計画（BCP）は、企業が災害等、事業継続を危うくする緊急事態に遭遇した際にその損害を最小限に止め、事業の継続や早期復旧を可能とするために予め取り決めておく計画のことである。本講義では、事業継続計画（BCP）に関する基本的な考え方を解説するとともに、企業、地方自治体組織の事業継続計画の策定方法について解説する。

この科目は、一般企業、官公庁などの事業継続計画（BCP）を立案するための知識・技能を身につけることを目的としている。

【アクティブ・ラーニング】

- ・グループごとでの企業BCP策定演習を予定している。
- ・講義中にGoogle formを用いた簡易な意見交換を予定している。

【フィードバック】

- ・課題(演習内容、課題レポート内容等) に対するフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

- ・講義後、講義内にて配布した資料を提示します。
- ・参考となる資料、Webサイトへのリンク等を提示します。

到達目標

- 1 企業の事業継続計画について、基本的な考え方と策定方法を理解する
- 2 地方公共団体の業務継続計画について、基本的な考え方と策定方法を理解する

評価方法

レポートの成績60%(到達目標1,2 を評価)、演習内容30%(到達目標1を評価)及び授業態度10%によって評価する。

この授業では、課題レポートの提出が必須条件です。提出していない場合は評価の対象となりません。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は、講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	BCPの基本・概要
第3回	BCPの基本・概要／生活継続計画(LCP)策定演習1
第4回	生活継続計画(LCP)策定演習2
第5回	企業のBCP策定演習1（BCP策定ステップ・適用範囲 他）
第6回	企業のBCP策定演習2（事業への影響度 他）
第7回	企業のBCP策定演習3（被害の評価 他）
第8回	企業のBCP策定演習4（準備・事前対策の検討 他）
第9回	企業のBCP策定演習5（BCP発動フロー 他）

回数	内容
第10回	防災教育ダイレクトロード(演習)
第11回	BCPからBCMへ
第12回	地方公共団体のBCPについて 概要・事例
第13回	防災教育クロスロード(演習)
第14回	地域継続計画(DCP)について 概要・事例
第15回	まとめ

授業外学習

- ・予習について：次回授業の該当箇所にあたる資料を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・復習について：授業・演習内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・演習が講義時間内に終わらなかった場合，予習・復習の時間を充て，次の講義までには終わらせておくこと
- ・新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみたい

教科書

教科書としては指定しない。適宜，講義内で資料配布を行う

参考書

昆 正和(2012)「実践BCP策定マニュアル」オーム社 978-4274068928

昆 正和(2010)「実践 BCM運用・定着マニュアルー事業継続マネジメント定着のための実践テクニック」オーム社 978-4274068119

藤江俊彦(2009)「災害危機管理読本ー企業・団体の防災対策と事業継続管理」日本コンサルタントグループ 978-4889164428

他，講義中に適宜紹介

備考

コーポレート・ガバナンス論（21666）

後期

Corporate governance theory

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	田原 静

授業の概要

コーポレート・ガバナンス（企業統治）とは、企業がその利害関係者（投資家・消費者・企業周辺住民等）にとって望ましい企業活動を行うために必要とされる社会的な枠組みである。企業の内部統制や不祥事の防止、CSRなど経営の健全性の確保に加え、近年では経営の効率性を促進することもコーポレート・ガバナンスの一環として試みられる等、その理論と実践には大きな発展・変遷が見られる。本講義では株式会社の組織構造、コーポレート・ガバナンスの仕組みについて概説した上で、国内外の企業の事例を紹介する。

この科目は、主にコーポレート・ガバナンスの分野に関して、経済・経営分野および危機管理に関する基礎的な知識を身につけることを目的としている。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義中にGoogle formを用いた簡易な意見交換を予定している。

【フィードバック】

- ・課題(プレゼンテーション内容等) に対するフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

- ・講義後、講義内にて配布した資料を提示します。
- ・参考となる資料、Webサイトへのリンク等を提示します。

到達目標

- 1 企業の構造等，基本となる概念を理解し説明できる
- 2 コーポレート・ガバナンスの基礎知識とその重要性を理解し説明できる
- 3 実社会におけるコーポレート・ガバナンスの変遷を理解し説明できる

評価方法

期末試験60%(到達目標1,2,3を評価)，小レポート30%(2回実施 到達目標1,2,3を評価)及び授業態度10%によって評価する。

この授業では、定期試験が必須条件です。受験していない場合は評価の対象となりません。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は、講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	企業の経営と統治
第3回	企業制度の基本的なしくみ
第4回	資金調達の基本的なしくみ
第5回	企業家と組織
第6回	企業家と社会問題
第7回	会社観の多様性
第8回	多元的な統治
第9回	同族による統治

回数	内容
第10回	非営利組織
第11回	消費者と企業統治
第12回	企業統治としてのCSR
第13回	経営戦略と企業統治 CSRからCSVへ
第14回	良心による統治
第15回	まとめ

授業外学習

- ・ 予習について：次回授業の該当箇所にあたる教科書の範囲を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・ 復習について：授業内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・ 新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみたい

教科書

吉村典久 他(2017)「企業統治 (【ベーシック+】)」中央経済社 978-4502225116

参考書

手塚 貞治(2017)「この1冊ですべてわかるコーポレートガバナンスの基本」日本実業出版社 978-4534054708

加護野 忠男 他(2010)「コーポレート・ガバナンスの経営学 -- 会社統治の新しいパラダイム」有斐閣 978-4641163522

他，講義中に適宜紹介

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 藤岡芳郎

授業の概要

現代の経済や経営をより正確に理解するためには、過去の経験値によってつくられたそれらの理論を身につけるばかりではなく、実務の理解も理論と同様に必須となる。そこで本講では、各分野で活躍される企業経営者や社会人として幅広い経験や知恵を持つ外部講師により特別講義を受ける。また、高いパフォーマンスを生み、それぞれに特徴をもつ企業を取り上げ、おもに経営学の柱となる4つの視点から企業研究を行う。経営分野の知識を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1．さまざまな社会的・経済的環境下でのビジネス活動や企業行動の理論やロジックについて学ぶことによって、経営学やマーケティングの基礎的な知識を習得する。
- 2．公務員や民間企業の中で幅広く適応されているビジネスの理論の基本を身近な企業の事例を中心に理解する。

評価方法

授業中に出現する理解度テスト、課題の評価を70％（到達目標1、2を評価）、授業に取り組む態度など30％（到達目標1を評価）を基準とする。

注意事項

受講生に望むこと：

- 1) 授業中の私語は禁止する。数回注意しても私語を止めず、周囲に支障が出る場合は退出指示をする。
- 2) 日常生活で身近な岡山の企業に関心をもってほしい。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション：講義の進め方を説明する。企業論の全体像について説明する。
第2回	現代企業の諸形態形態：株式会社の組織や運営、公企業と公益事業の違いについて学習する。
第3回	企業と社会について（1）：企業とステークホルダーの関係やCSR(企業の社会的責任)について学習する。
第4回	企業と社会について（2）：企業倫理やリスクマネジメントについて最近の話題になった事例を採用して考える。
第5回	企業と市場との関係について（1）：企業活動の中心となる商品(有形財・グッズ)をとおした市場との関わり合いについて学習する。
第6回	企業と市場との関係について（2）：企業活動の中心となる商品（無形財・サービス）をとおした市場との関わり合いについて学習する。
第7回	経営戦略の理論（1）：経営戦略の中核となるドメインやなどの考え方や環境分析の方法について学習する。
第8回	経営戦略の理論（2）：経営戦略の中核となるドメインやなどの考え方や環境分析の方法について学習する。
第9回	競争戦略の理論：ポーターの3つの基本戦略や市場地位別の戦略について学習する
第10回	サービス産業：サービス業のマネジメントについて説明する。
第11回	企業の組織と運営（1）：企業の基本的な組織と運営の仕方について学習する。
第12回	企業の組織と運営（2）：企業の基本的な組織と運営の仕方について学習する。
第13回	中小企業とベンチャービジネス：企業の創業やスタートアップする企業について学習する。
第14回	イノベーションや注目企業について説明する。
第15回	経営学のまとめと今後の展望について説明する。

授業外学習

学習時間の目安は60時間である。毎回の授業内容を確認し、次回へ向けた予習をおこなう。その理解度の把握のために、基本的には初回と最終回を除く毎

回理解度テストを出題する。

教科書

特に指定する教科書はありません。

参考書

参考資料は講義中に必要に応じて配布します。

備考

企業経営危機論Ⅲ（21668）

前期

Corporate management crisis Ⅲ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	田原 静

授業の概要

企業の経営資源や経営活動の仕組みを理解し，その諸課題について具体的な事例を取り上げながら，様々な事件や事故等をいかに未然に防ぎ，また万が一発生した場合にもその経営に対する影響を最小限に抑えるかなど対策等を学習する。本講義では，特に大規模災害が企業に与える影響について考察する。この科目は，経済・経営分野に関連する危機管理の知識及び技能を身につけることを目的としている。

【アクティブ・ラーニング】

- ・講義中にGoogle formを用いた簡易な意見交換を予定している。

【フィードバック】

- ・課題(レポート課題等) に対するフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】

本授業では，Google Classroom を活用して双方向型授業を展開します。

- ・講義後，講義内にて配布した資料を提示します。
- ・参考となる資料，Webサイトへのリンク等を提示します。

到達目標

- 1 企業の経営資源や経営活動の基本的な仕組みと，大規模災害がそれらに与える影響について理解し説明できる
- 2 実際の事例をもとに，企業が災害に対しどのような備えをしているか，また被害からどのようにリカバリーしているかを調べ，要点をまとめて発表できる
- 3 2の内容について，詳細をレポートに表し読み手に説明できる

評価方法

レポートの成績60%(到達目標1,3を評価)，発表内容30%(到達目標1,2を評価)及び授業態度10%によって評価する。

この授業では，課題レポートの提出が必須条件です。提出していない場合は評価の対象となりません。

注意事項

- ・授業中は私語厳禁
- ・携帯電話・スマートフォンの使用は，講義に関係する事に限る
- ・授業回数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	災害と危機管理
第3回	事業継続マネジメントの考え方とBCP 1
第4回	事業継続マネジメントの考え方とBCP 2
第5回	災害と組織1
第6回	災害と組織2
第7回	災害と流通1
第8回	災害と流通2
第9回	災害と情報1
第10回	災害と情報2

回数	内容
第11回	災害リスク・コミュニケーション
第12回	地域防災と企業
第13回	事例分析（学生による発表・ディスカッション）
第14回	事例分析（学生による発表・ディスカッション）
第15回	まとめ

授業外学習

- ・予習について：次回授業の該当箇所にあたる資料を事前に読み，概要を把握しておくこと(各2時間)
- ・復習について：授業内容のノート整理，復習をしておくこと(各2時間)
- ・できれば新聞やネットのニュースメディアに目を通し，授業内容に関連する内容があれば興味を持って情報収集してみて欲しい

教科書

教科書としては指定しない。適宜，講義内で資料配布を行う

参考書

藤江俊彦(2009)「災害危機管理読本―企業・団体の防災対策と事業継続管理」日本コンサルタントグループ 978-4889164428
 キャスリン・マッキー 他(2011)「『想定外』に備える企業災害対策マニュアル」翔泳社 978-4798124445
 日本財団(2012)「企業と震災―結び目が生んだ25のストーリー」木楽舎 978-4863240551

他，講義中に適宜紹介

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	安達精治

授業の概要

現代の複雑な経営環境においては、確率的なリスク管理を超えて、不測の事態に備える危機管理(クライシス・マネジメント)が重要になってきている。

- クライシスマネジメントの観点で、Globalな世界企業の経営活動の仕組みや経営資源を理解し、国際経営に関する興味と理解を深める。
- 一方で、企業経営上におこる世界的な諸課題について具体的な関係事例を取り上げ、様々な事例や事故等を紹介する。経営危機をいかに未然に防ぎ、また万が一発生した場合にも経営に対する影響を最小限に抑える対策等を学習する。
- 【フィードバック】 企業の経営課題・経営リスク管理の考察を深め、授業内容の各個別テーマをについて、予習レポートの課題を複数回出題。グループにて発表を行い、提出物を確認の上、理解度に応じて解説をおこなう

到達目標

- 1. 国際的な企業経営における経営危機管理（クライシスマネジメント）についての基礎知識の習得。
- 2. 金利・為替・株価変動などによる市場リスク、信用リスク、財務リスクに対するクライシスマネジメントの総合的な観点について理解できる。
- 3. 様々な危機管理対策は日頃の経営管理・市場分析・資金計画・ファイナンス等とはもとより、多様な各種国際データ計数把握について理解できる。 レポート課題を通して企業の経営課題・経営リスク管理の考察が深まる。

評価方法

- 評価 定期試験: 70%(目標 1～3を評価)
- 出席（レポート）: 30%(目標3を評価) にて総合評価し、総合60点以上

注意事項

私語を慎む、無断遅刻の禁止

授業計画

回数	内容
第1回	Crisis Managementの基礎知識概論 Crisisとは何か
第2回	Crisisの洗出手法の基本を学ぶ Missionの重要性とSWOT分析
第3回	Crisis Management下でのSDGsの本質とその実践実例
第4回	Crisisの種類 地政学的リスクの重要性
第5回	現代の世界地政学的リスクから見たCrisis 概要 ①
第6回	地政学的Crisisと関連するデータの見方 ・捉え方
第7回	現代の世界地政学的Crisisから見たCrisis概要 ②
第8回	世界と日本の金融におけるCrisis Managementの関連性
第9回	現代の世界地政学的Crisisから見たRisk 概要 ③
第10回	国際テロ・国際関係Crisisの関係課題
第11回	Crisis Managementと顧客の心理構造を読む実践実例
第12回	信用リスク 流動性リスク リスク・ファイナンス
第13回	保険によるCrisis Managementの限界

回数	内容
第14回	事業成功確率計数(BMO) リスクの計量化
第15回	Crisis Management責任者として一番大切なこと

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

・配布されるレジュメや資料を良く読んで必ず予習・復習を行うこと。

教科書

授業当日にプリントを配付する

参考書

著者名：青井 倫一

書名：企業のリスクマネジメント

出版社名：慶應義塾大学出版会

I S B N：SBN-10: 476641182X

参考書

リスクマネジメント実務ハンドブック

株式会社 損保ジャパン・リスクマネジメント

日本能率協会マネジメントセンター

備考

環境リスクマネジメント（21670）

前期

Environmental Risk Management

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 塩飽敏史

授業の概要

本授業では、学外講師も含めた講義を通して、「水島」という地域で起こった公害をテーマに「環境リスク」とはどのようなものか、「地域社会」に焦点を当て、どう対応していくべきかを理解することを目指します。日本の高度経済成長の陰で発生した公害とはどのようなものか。コンビナートが出来る前の水島の地域社会、公害の概要とそれが水島に与えた影響、水島の地域住民とは誰を指すのか。企業はどのような経過で公害を出し、企業人たちはどのような気持ちで、何に取り組んできたのか。そして、各々の立場の人たちが公害という環境問題を乗り越えた、水島の地域社会の今と未来の姿はどんなものなのかを学びます。

公害患者・企業・行政・地域で生きる人々など、多角的なまなざしから水島の環境と地域を考え、将来学生が「企業人」そして「地域人」となった時に、環境リスクの問題解決に向けた、それぞれの考え方や行動の源となる倫理観を涵養することを目指します。

到達目標

- 1.水島の公害について被害者側から知る
- 2.企業・行政が公害を経験しどのように環境対策をしているかを学ぶ
- 3.現在の水島の問題を知り、過去の歴史とどう結びついているのかを知る
- 4.和解を通し、どのような協力関係を結ぶことが重要であるかを知る
- 5.将来の企業人・地域人として、このような問題を未然に防ぐため必要な倫理や取組を考える

評価方法

※到達目標と関連して記入してください。

評価は、毎回のレポート20%（到達目標 1 ～ 4 を評価）および宿題提出を含む講義への取り組み30%（到達目標 1 ～ 4 を評価）および定期試験50%（到達目標 5 を評価）により評価する。

成績評価の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。

不合格者のうち、合格の見込みがある場合には再試験を行い、その結果により合格とする場合がある。

なお、授業回数の3分の1以上欠席した場合は、試験を受けさせない。

注意事項

毎時間講義の後にその日の講義内容に関して、簡単なレポート（A4 1枚以上）を課す。レポートを含めて総合的な評価を行うので、次回授業開始前に提出すること。

授業計画

回数	内容
第1回	ガイダンス：環境とは何か、環境問題・環境リスクとは何か
第2回	わが国における公害・環境問題の歴史
第3回	水島の地域開発と公害問題
第4回	公害が人の生活に及ぼした影響
第5回	公害を経て水島で生きること
第6回	企業による環境対策1
第7回	現在の人々の暮らし
第8回	行政による環境対策2
第9回	和解について
第10回	和解後の地域再生の取り組み
第11回	公害経験を未来に活かす取り組み
第12回	公害が起こる社会の仕組みの背景

回数	内容
第13回	乗り越えた上に皆で何を作り上げていくか
第14回	ロールプレイング：あなたのまちで公害が起きた
第15回	まとめ

授業外学習

※講義終了後、講義内容についてのレポートを作成する。
 その際、関連する資料、データなどを、HP等を参考に調べる。

教科書

授業当日にプリントを配付する

参考書

著者名：安藤 聡彦 著 林 美帆 著 丹野 春香 著
 書名：公害スタディーズ悶え、哀しみ、闘い、語りつぐ
 出版社名：ころから社
 I S B N：978-4-907239-54-1

その他の参考書は、必要に応じて授業中に紹介する。

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

民法（財産法）および会社法で学んだ知識をさらに深める科目とする。企業を運営するためには資金調達や人事管理が必要となるが、他社との関係では公正な競争を行うことが必要となる。具体的には、財産権の応用分野である知的財産権の仕組みと機能について知り、経済競争法の目的と自由競争原理の重要性について学ぶ。現代社会における株式会社の運営は米国等の影響を強く受け、株主の役割変遷や内部組織の変革を経験するようになってきた。今日の事業運営における重要ポイントとリスクについて講義する。これにより専門分野の諸問題を自ら解決できるようになる。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

- 1. 競争政策について理解し、説明出来る。
- 2. 公正な競争について理解し、説明出来る。
- 3. 知的財産権について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%（到達目標1~3を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

民法（財産法）と会社法を履修していることが望ましい。

授業計画

- 第1回 企業法務の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。
- 第2回 経済法の原則と競争政策について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計6回を予定しており、今回の小テーマとしては資本主義における自由競争について学ぶので、資本主義における自由競争の重要性とこれを維持する政策について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げるので、具体的な社会への適用についても理解出来る。
- 第3回 経済法の原則と競争政策についての2回目。今回の小テーマとしては価格カルテルの禁止について学ぶので、同じ業界ないし近接する業界内での業者間の取り決めについては十分に注意を要することを理解出来る。関連する時事問題も取り上げる。
- 第4回 経済法の原則と競争政策についての3回目。今回の小テーマとしては企業結合の禁止について学ぶので、M&Aをはじめとする企業間の合併について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第5回 経済法の原則と競争政策についての4回目。今回の小テーマとしては景品表示法の規定内容について学ぶので、特に商品の表示内容について規制があることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第6回 経済法の原則と競争政策についての5回目。今回の小テーマとしては不正競争防止法について学ぶので、特に商品名や内容物の原産地表示について規制があることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第7回 経済法の原則と競争政策についての6回目。今回の小テーマとしては独占禁止法と知的財産権との兼ね合いについて学ぶので、企業間の競争を有利に運ぶためには知的財産権の確保が死活的に重要であることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第8回 知的財産権について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計7回を予定しており、今回の小テーマとしては知的財産権の種類（著作権と産業財産権）について学ぶので、知的財産権の種類とその内容・特徴について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第9回 知的財産権についての2回目。今回の小テーマとしては著作権（複製権としての著作権、著作隣接権、著作者人格権）について学ぶので、著作権の中には譲渡可能な権利と譲渡が不可能な権利があることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第10回 知的財産権についての3回目。今回の小テーマとしてはネット社会における著作権の保護について学ぶので、技術的な側面と社会有用性の側面から著作権の保護の問題を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第11回 知的財産権についての4回目。今回の小テーマとしては米国の著作権保護期間の延長（いわゆるディズニー法）問題について学ぶので、法的な側面から著作権の保護の問題を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第12回 知的財産権についての5回目。今回の小テーマとしては特許権の取得とライセンス使用料について学ぶので、特許権の取得までの手続とこれをビジネスに活かす方法を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 知的財産権についての6回目。今回の小テーマとしてはいわゆる国際特許（PCT特許）について学ぶので、国際的に通用する特許権の取得から見る世界情勢を理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 知的財産権についての7回目。今回の小テーマとしては並行輸入と商標権について学ぶので、ブランド戦略に代表される商標権の取得がビジネスに有利に働くが、逆に模倣品対策に失敗すると損失を被ることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 前半では経済法と競争政策について学び、後半では知的財産権について学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

- 第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。企業法務を学ぶには、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）
- 第2回 予習：資本主義について予め自分で調べることが大切である。復習：自由競争の重要性を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第3回 予習：独占禁止法について予め自分で調べることが大切である。復習：なぜ価格カルテルが禁止されるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第4回 予習：独占禁止法について予め自分で調べることが大切である。復習：企業結合の形態と禁止される場合の理由を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第5回 予習：景品表示法について予め自分で調べることが大切である。復習：なぜ商品の表示内容について規制されるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第6回 予習：不正競争防止法について予め自分で調べることが大切である。復習：原産地表示の重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第7回 予習：企業間の技術競争について予め自分で調べることが大切である。復習：外形的には矛盾する独占禁止法と知的財産権法制の法目的の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第8回 予習：知的財産権について予め自分で調べることが大切である。復習：知的財産権の種類と内容を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第9回 予習：著作権について予め自分で調べることが大切である。復習：狭義の著作権、著作隣接権、著作者人格権の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第10回 予習：著作権について予め自分で調べることが大切である。復習：技術的な面からの著作権の保護制度について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第11回 予習：著作権について予め自分で調べることが大切である。復習：法的な面からの著作権保護の是非について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第12回 予習：特許権について予め自分で調べることが大切である。復習：特許権を取得するとライセンス使用料が獲得出来るようになることについて理解する。（標準学習時間120分）
- 第13回 予習：国際特許（PCT特許）について予め自分で調べることが大切である。復習：国際的な技術競争の実態について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第14回 予習：商標権について予め自分で調べることが大切である。復習：いわゆるブランド戦略について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

教科書

河野正英『（新版）商取引法講義』大学教育出版（ISBN: 978-4-86692-136-5）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

ビジネス法（国際法含む）（21672）

後期

Business Law

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 河野正英

授業の概要

民法（財産法）、会社法および企業法務で学んだ知識をさらに深める科目とする。これにより専門分野の諸問題を自ら解決できるようになる。20世紀と異なり、21世紀の経済秩序は環境問題への対処を中心的な命題として技術革新が進んでいる。また、企業の活動範囲が飛躍的に広がり、資金調達や人事の面でも国際的な知識が必要となっている。このビジネス法の講義では法学関連科目の最後の科目として、世界的な経済秩序の潮流と日本経済の将来展望を念頭に置いた講義内容とする。百年単位で生じるような技術イノベーションとそれをいち早く自社に摂り入れるべく熾烈な競争を行う現代の企業の姿について知識を深めることをこの講義の目的とする。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

1. 国際金融について理解し、説明出来る。
2. 自由貿易について理解し、説明出来る。
3. 国際環境問題について理解し、説明出来る。
4. 技術革新（イノベーション）について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1~4を評価）

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%（到達目標1~4を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

- 第1回 ビジネス法の進め方について説明する。教科書の進捗と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。
- 第2回 国際金融と自由貿易について学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計7回を予定しており、今回の小テーマとしては国際金融の歴史について学ぶので、特に近代資本主義の下での金融の役割の変遷について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げるので、具体的な社会への適用についても理解出来る。
- 第3回 国際金融と自由貿易についての2回目。今回の小テーマとしてはブレトンウッズ体制について学ぶので、戦後の国際経済秩序について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第4回 国際金融と自由貿易についての3回目。今回の小テーマとしては金本位制から変動相場制への移行について学ぶので、金本位制が崩れた理由について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第5回 国際金融と自由貿易についての4回目。今回の小テーマとしてはGATT/WTO体制について学ぶので、自由貿易の基本的枠組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第6回 国際金融と自由貿易についての5回目。今回の小テーマとしては銀行業と証券業との差異について学ぶので、預金と投資の違いについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第7回 国際金融と自由貿易についての6回目。今回の小テーマとしては金融商品の開発と金融危機について学ぶので、金融技術の進展と金融変動が生じる理由について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第8回 国際金融と自由貿易についての7回目。今回の小テーマとしてはFTAの進展について学ぶので、自由貿易における地域統合の現状について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第9回 国際環境問題とイノベーションについて学ぶ。この大枠のテーマについての講義は計6回を予定しており、今回の小テーマとしては循環型社会の必要性について学ぶので、自然環境と文明社会との相克について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第10回 国際環境問題とイノベーションについての2回目。今回の小テーマとしては地球温暖化京都会議での合意内容（＝京都議定書として結実）について学ぶので、地球温暖化のメカニズムと温暖化ガスの種類などについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。
- 第11回 国際環境問題とイノベーションについての3回目。今回の小テーマとしては温暖化ガスの排出を削減またはゼロにする発電方式について学ぶので、新エネルギーの利用や21世紀のエネルギー事情について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 国際環境問題とイノベーションについての4回目。今回の小テーマとしては温暖化ガスの排出を削減する省エネ技術について学ぶので、新素材の開発やこれの利用可能性について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 国際環境問題とイノベーションについての5回目。今回の小テーマとしてはEEZ（排他的経済水域）と海洋資源について学ぶので、海底資源の活用について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 国際環境問題とイノベーションについての6回目。今回の小テーマとしてはイノベーションと社会変革について学ぶので、技術革新が社会生活を一変させる可能性があることについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 前半では国際金融と自由貿易について学び、後半では国際環境問題とイノベーションについて学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。社会科学の分野を学ぶ場合には、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：国際金融の歴史について予め自分で調べることが大切である。復習：時事問題も含めて金融がどのような役割を持っているのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第3回 予習：戦後の経済秩序の基本原則について予め自分で調べることが大切である。復習：ブレトンウッズ体制の仕組みを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：金本位制について予め自分で調べることが大切である。復習：金本位制から変動相場制への移行がなぜ起きたのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：戦後の自由貿易の原則について予め自分で調べることが大切である。復習：GATT/WTO体制の基本原則について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：銀行と証券会社の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：銀行業と証券業との差異とそれが生まれた必然について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：金融危機の歴史について予め自分で調べることが大切である。復習：急速に進んでいる金融商品の開発とこれに付随して頻発するようになった金融危機発生のメカニズムを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：FTA（自由貿易圏）とは何かについて予め自分で調べることが大切である。復習：WTOがあるにも拘らず、各地でFTAの締結が推進されるのは何故かについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：循環型社会について予め自分で調べることが大切である。復習：地球温暖化の議論とセットで取り上げられるようになった循環型社会の必要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：京都議定書の内容について予め自分で調べることが大切である。復習：地球温暖化京都会議での合意内容について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：発電方式にはいろいろあるが、今日ではどのような方式が用いられているのかについて予め自分で調べることが大切である。復習：温暖化ガスの排出を削減またはゼロにする発電方式があるが、日本で採用すべき発電方式として優れているのはどの方式なのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：省エネ技術について予め自分で調べることが大切である。復習：温暖化ガスの排出を削減するには省エネ技術が役立つことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：EEZ（排他的経済水域）について予め自分で調べることが大切である。復習：これからはEEZ（排他的経済水域）の調査と海洋資源の開発が死活的に重要となることを理解出来るようにする。（標準学習時間120分）

第14回 予習：技術革新の歴史について予め自分で調べることが大切である。復習：イノベーションが結果的に社会変革を引き起こすことを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

教科書

河野正英『（新版）商取引法講義』大学教育出版（ISBN: 978-4-86692-136-5）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	古川明

授業の概要

石油化学工業などの大規模産業の工場では、時として大きな事故が発生し、企業の存続に関わるだけでなく、場合によっては我が国の経済全体に重大な影響を与える。本講義では、大規模工場における事故防止と安全管理について、危機管理の観点から対処する技術を、過去に発生した重大事故に遭遇した講師本人の、貴重な実体験を踏まえて講述する。

危機管理の知識、技能を身につけることを目的とする。

到達目標

- 1．コンビナートと構成する産業とその概要を理解し、コンビナートが遭遇しうるリスクを説明できる。
- 2．燃烧と爆発の基礎概念を理解すると共に、主たる可燃物の種類と危険性、それらの発災に到るプロセスを説明できる。
- 3．製造設備の主たる発災箇所とその原因を分類し、再発防止策と対応する技術の進歩を学ぶと共に、その概要を説明することができる。
- 4．様々な事故事例について学び、その原因分析手法を理解することにより、事故防止と安全管理の視点に立って、対応策を考えることができる。
- 5．災害や事故が起こった際に、引き続いて起りうる事を予測できる予知能力を高めることによって、幅広い観点から、防災・減災に向けた対応策を立案できる。

評価方法

・評価は、課題への回答・授業に取り組む態度／姿勢（到達目標1、2を評価）、小試験（到達目標3、4を評価）、レポート作成等（到達目標3、4、5を評価）により総合的に行う。評価比率はそれぞれ30％、30％、40％を基準とする。

注意事項

- ・講義終了時に理解度を確認するための講義のまとめ（評価には含まない）と課題（評価に含む）からなる宿題を課すので、必ず解答して次回講義開始前に提出すること。
- ・毎回の宿題には、講義内容に関連する最近のニュースについて記載することも可能。
従って、新聞・テレビ等での工場災害に関するニュースに注意し、必要なら記事の切り抜きや内容のメモをノートにまとめておくといい。
- ・授業中は私語厳禁、携帯電話は鞆の中にしまうこと。
- ・受講態度の悪い学生には教室からの退室を命じ、原則として単位を与えない。

授業計画

- 第1回 国内重大災害の記憶
- 第2回 国内コンビナートの現状と未来
- 第3回 水島コンビナートを知る
- 第4回 国内外の工場における大規模災害とその影響
- 第5回 事例①：水島重油流出事故（1974年）から学んだこと
- 第6回 事例②：宮城県沖地震（1978年）／東日本大地震（2011年）と教訓
- 第7回 事例③：湾岸戦争（1990年）の真実
- 第8回 事例④：ダイヤモンドグレース号原油流出（1997年）
- 第9回 事例⑤：第6明和丸／ブローンアスファルトタンク爆発／苫小牧タンク火災
- 第10回 重大事故と法整備
- 第11回 燃烧・爆発の理論と実際
- 第12回 事故の原因と究明の手法と再発防止策
- 第13回 事故・災害の防止策
- 第14回 リスクマネジメント（1）／工場におけるリスク管理のあり方
- 第15回 リスクマネジメント（2）／情報収集／発信の重要性 & 講義の総括

授業外学習

- 第1回：あらかじめ、国内で起きた工場における重大な事故事例を調査し、3件について、その発生原因をまとめておくこと、また、講義終了後は、復習してノートを整理するとともに、第2回講義に向けて、国内のコンビナートの所在地と概要を調べ、共通点と異なる点をまとめておくこと
- 第2回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第3回講義に向けて、水島コンビナート誕生の歴史と、コンビナートを構成する主要企業を調査し、他のコンビナートと異なる点をまとめておくこと
- 第3回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第4回講義に向けて、国内・国外で発生した大規模災害を調査し、発生要因を分類しておくこと
- 第4回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第5回講義に向けて、水島重油流出事故（1974年）について調べ、その実態を理解すると共に、なぜ、短期間の内に瀬戸内海全域まで油が拡散したのか、その理由を考えておくこと
- 第5回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第6回講義に向けて、宮城県沖地震（1978年）について調べ、水島重油流出事故の教訓がどのように生かされたかについて考えておくこと
- 第6回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第7回講義に向けて、湾岸戦争とペルシャ湾原油流出（1991年）について調べ、日本の緊急援助隊の活動内容を調べておくこと
- 第7回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第8回講義に向けて、ダイヤモンドグレース号座礁・原油流出（1997年）の際に、油が東京湾内でどのように拡散していったかを調べておくこと
- 第8回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第9回講義に向けて、第6明和丸爆発炎上(1985年)、三菱石油水島製油所アスファルトタンク爆発（1990年）、出光苫小牧製油所ナフサタンク全面火災（2005年）について概要を調べ、それぞれが発災に到った要因を考えておくこと
- 第9回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第10回講義に向けて、水島重油流出事故（1974年）発生の結果、関連する法律がどのように変わったのか、その理由を調べておくこと
- 第10回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第11回講義に向けて、燃烧と爆発の違い、様々な可燃物の種類とその特性について、調べておくこと
- 第11回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第12回講義に向けて、事故の原因を明らかにする手法を調べておくこと
- 第12回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第13回講義に向けて、これまでの講義を踏まえて、事故を防ぐためにどうすれば良いかについて考えておくこと
- 第13回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第14回講義に向けて、もしも今、「震度6強」の大地震に襲われたら「どうするか」、[何をすれば良いか]について考えておくこと
- 第14回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、第15回講義に向けて、2018年の真備の水害を振り返り、自分が被災地に住んでいた場合、どういう行動を取っていたか、また、水害のもたらす悲惨な状況を踏まえて、今後、どのように対応すべきかを考えておくこと
- 第15回：講義終了後は復習してノートを整理するとともに、過去の災害や事故のニュースから、事故・災害時の情報収集や発信に触れた記事を読んだ上で、自分の考え方をまとめておくこと

教科書

- ・教科書を使用しないが、講義内容に応じて、適宜、プリント等配布する。

参考書

- ・失敗学実践編（濱口 哲也／平山 貴之）
- ・失敗学と創造学（濱口 哲也）
- ・失敗学のすすめ（畑村 洋太郎）

備考

プロジェクト実習 I（21676）

前期

Project training I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 渡谷真吾  河野正英  ブラダンスジツ  村山公保  芦田雅子  山中高光  土屋博之  徳田美智  田原静

授業の概要

この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導のもと、大学内外で学生同士が協力しあい、合同でプロジェクトを遂行する。例えば、地域貢献活動、オープンキャンパスの体験イベントの立案やスタッフとしての参加などがあげられる。

危機管理学科のディプロマポリシー「地域社会の構成員として活躍できる。」に基づく科目。

到達目標

- 1 グループのメンバー同士で協調して作業を遂行できる
- 2 自ら考え行動する習慣を身につける
- 3 報告、連絡、相談の習慣を身につける

評価方法

- ・プロジェクトごとに担当教員から認定コマ数が伝えられる。
認定コマが10コマ以下の場合は、単位認定されない。
- ・評価は、各プロジェクトに取り組んだ姿勢、報告書の内容、
設定されたコマ数から総合的に判断する。（到達目標 1、2、3）

注意事項

- ・プロジェクトは前年度から実施されるので、この授業の単位を
取得したい場合には、前年度からのプロジェクトに積極的に
参加することが望ましい。
- ・プロジェクトごとに活動をまとめた報告書の提出を義務づける。

授業計画

プロジェクト毎に内容を伝える。1つのプロジェクトで認定されるコマ数が
10コマに満たない場合は、複数のプロジェクトに積極的に参加し、参加した
プロジェクトのコマ数が11コマ以上になるようにすること。

授業外学習

学習時間の目安：30時間

プロジェクト遂行のための準備、レポート作成などについては
プロジェクトごとに指示をするので、積極的に取り組むこと。

教科書

必要な場合は、プロジェクト毎に指示する。

参考書

必要な場合は、プロジェクト毎に指示する。

備考

履修登録はプロジェクト実施後、あるいは当該期にプロジェクトを実施することを確認してから。

プロジェクト実習Ⅱ（21677）

後期

Project training Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 渡谷真吾  河野正英  ブラダンスジツ  村山公保  芦田雅子  山中高光  土屋博之  徳田美智  田原静

授業の概要

この授業は、プロジェクトを立ち上げた教員の指導のもと、大学内外で学生同士が協力しあい、合同でプロジェクトを遂行する。例えば、地域貢献活動、オープンキャンパスの体験イベントの立案やスタッフとしての参加などがあげられる。

危機管理学科のディプロマポリシー「地域社会の構成員として活躍できる。」に基づく科目。

到達目標

- 1 グループのメンバー同士で協調して作業を遂行できる
- 2 自ら考え行動する習慣を身につける
- 3 報告、連絡、相談の習慣を身につける

評価方法

- ・プロジェクトごとに担当教員から認定コマ数が伝えられる。
認定コマが10コマ以下の場合は、単位認定されない。
- ・評価は、各プロジェクトに取り組んだ姿勢、報告書の内容、
設定されたコマ数から総合的に判断する。（到達目標 1、2、3）

注意事項

- ・プロジェクトは前年度から実施されるので、この授業の単位を
取得したい場合には、前年度からのプロジェクトに積極的に
参加することが望ましい。
- ・プロジェクトごとに活動をまとめた報告書の提出を義務づける。

授業計画

プロジェクト毎に内容を伝える。1つのプロジェクトで認定されるコマ数が
10コマに満たない場合は、複数のプロジェクトに積極的に参加し、参加した
プロジェクトのコマ数が11コマ以上になるようにすること。

授業外学習

学習時間の目安：30時間

プロジェクト遂行のための準備、レポート作成などについては
プロジェクトごとに指示をするので、積極的に取り組むこと。

教科書

必要な場合は、プロジェクト毎に指示する。

参考書

必要な場合は、プロジェクト毎に指示する。

備考

履修登録はプロジェクト実施後、あるいは当該期にプロジェクトを実施することを確認してから。

論文作成（21678）

後期

Write a thesis

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	渡谷真吾 河野正英 ブラダンスジツ 村山公保 芦田雅子 土屋博之 徳田美智 田原静

授業の概要

レポートや論文を作成する能力は、専門研究や高度職業人に必要なコミュニケーションを行う基礎となる能力である。この科目では、レポート・論文作成に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、論文作成の実践を行い、3 年次以降のゼミナールや卒業研究などでの発表・論文執筆のために必要となる文章作成能力を養成するとともに、「文章を書く」という機会を多く提供することで自己表現能力を高め、コミュニケーション能力を向上させることも目的とする。

危機管理学科のディプロマポリシー「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 1 レポート及び卒業論文の構成と書き方が理解できる。
- 2 専門分野に関連する自分の考えを文章やプレゼンテーションツールを用いて表現できる。

評価方法

講義時の討論・質疑応答、及びレポート等の提出物により評価する。評価は、レポートなどの提出物50%（到達目標 1、2）、討論・質疑応答50%（到達目標 1、2）の重みで判定する。

注意事項

- ・本科目は経営危機管理学演習Ⅱと同じ研究室配属に従って実施する。そのため、実際の進め方については指導教員の指示に従うこと。
- ・本科目は4 年次における卒業研究の基礎ともなるため、しっかりした目的意識をもって履修すること。

授業計画

回数	内容
第1回	はじめに：講義の進め方について
第2回	論文の構想と構成
第3回	資料と文献の検索と入手
第4回	論文題目の選び方
第5回	研究目的の書き方
第6回	研究結果の書き方
第7回	考察のまとめ方
第8回	結論のまとめ方
第9回	参考論文の引用方法と論文リストの記載法
第10回	謝辞その他の書き方
第11回	論文要旨（アブストラクト・レジメ）のまとめ方
第12回	論文のプレゼンテーション 1：パワーポイントの作成
第13回	論文のプレゼンテーション 2：発表原稿の作成

回数	内容
第14回	論文プレゼンテーション3：発表上の注意点と模擬発表
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・指導教員から提示された参考論文を精読し、論文の構成、内容についてあらかじめ理解しておくこと。
- ・論文に用いられている専門用語の意味等を調べておくこと。
- ・復習として課せられる課題レポート等を必ず提出すること。

教科書

必要に応じて各教員から指示する。

参考書

必要に応じて各教員から指示する。

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 青野勝廣

授業の概要

公務員・民間企業であれ、経済理論を学ぶことを通じて自分の目で経済現象を理解できる能力を身につけることが大切である。経済理論は、大別してマクロ経済学とミクロ経済学があり、その範囲は広い。公務員になるためにも、ミクロ経済学とマクロ経済学の用語と理論を理解するとともに、計算問題を解いたり、図で理解することによって経済理論を定着させる必要である。この授業では、時間の制約もあり、マクロ経済学のうち、GDP（国内総生産）の供給と総需要が一致する点で決まる均衡国内総生産（均衡国民所得）の決定メカニズム、貨幣需要と貨幣供給（マネーサプライ）の一致点で決まる均衡利子率の決定メカニズム、国民所得と利子率の同時均衡点の決定メカニズム（IS－LM分析）とそれが財政・金融政策に及ぼす効果について、受講生の皆さんに理解してもらうように可能な限りていねいに説明し、図や計算問題も加えて、理論の定着をはかることを目的とする。

到達目標

- 1.この授業におけるマクロ経済学の授業の内容を理解し、説明できる。
- 2.理解した内容について、図に示したり、計算問題を解いてみる。
- 3.自分が理解したマクロ経済学の内容や図・計算問題を担当教員や他の学生と討議できるようになる。
- 4.自分の理解と担当教員や他の学生の理解の違いを知り、マクロ経済学に対する自分の理解を深める。
- 5.自分が理解したマクロ経済学の内容や図・計算問題について応用能力を身に付けてレポート課題に答えられる。

評価方法

授業中の小テスト（到達目標1と2を評価）20点、授業中の討議（到達目標3と4を評価）20点、レポート（到達目標5を評価）60点の合計100点のうち、60点以上を合格とする。

注意事項

この授業の目的は、マクロ経済学の用語と理論の理解だけではなく、公務員を目指す人にも、図に示したり、計算問題を解いてみることによって応用能力を付けてもらい、理論の定着をはかることです。そのため、授業中の学習だけでなく、授業外の学習が大切になってきます。

授業計画

- 1． 経済学とはどのような学問か—経済学と公務員およびマクロ経済学
経済現象の理解—市場の役割、相互依存関係、人間を動かすインセンティブの理解。経済学は世の中の経済問題にどのようにかかわってきたか。ミクロとマクロ経済学の違い。公務員に必要な不可欠な経済学の知識について。
- 2． GDP（国内総生産）の概念と財市場
マクロ経済学の見方—ケインズ経済学と新古典派経済学。経済規模を測るもっとも基本的な指標としてのGDPの内容、GDPの分解、GDPと物価、GDPの三面等価、ストックとフロー、ISバランス（貿易収支、財政収支、民間投資および民間貯蓄の関係）などについて。
- 3． 消費、貯蓄および投資の決定要因
需要不足がもたらす不況—価格調整と数量調整、需要の決定要因—消費需要と投資需要の決定要因、所得・需要・生産の相互メカニズムなどについて。
- 4． 均衡国民所得の決定、
デフレ・ギャップとインフレ・ギャップ、総需要が消費需要と投資需要だけのときの均衡国民所得の決定、投資と政府支出を考慮した時の均衡国民所得の決定などについて。
- 5． 乗数理論とその応用
投資乗数（政府支出乗数）の前提と導き方、乗数理論の核心、貿易や税金を考慮したときの均衡国民所得の決定などについて。
- 6． 貨幣需要、貨幣供給（マネーサプライ）および利子率
利子率決定についてのケインズと古典派の相違、貨幣需要、貨幣供給（マネーサプライ）、信用乗数（通貨乗数）、貨幣需要と実質マネーサプライ（実質貨幣供給）の一致点で決定される均衡利子率などについて。
- 7． IS－LM分析
財市場(生産物市場)と貨幣市場の同時均衡、IS曲線・LM曲線の導き方、財市場(生産物市場)と貨幣市場の同時均衡などについて。

8. I S – L M分析と財政・金融政策の効果

I S – L M分析と金融政策の効果（流動性のわなの事例 投資が利子弾力的な事例を含む）、I S – L M分析と財政政策の効果（貨幣供給一定のときの財政政策の効果、貨幣供給が増加するときの財政政策の効果）、財政支出の増加とクラウディング・アウトなどについて。

授業外学習

学習時間の目安：合計30

時間

- ・ 次回の授業内容を確認し、その範囲の専門用語の意味、計算問題等を調べて理解しておくこと。
- ・ 復習として、小テストを6～8回出題する。
- ・ 最終レポートを提出すること。

教科書

教科書を使用せず、プリントを配布する。

参考書

伊藤元重『入門経済学（第4版）』日本評論社、2019年。ISBN978-4-535-55817-5

資格試験研究会編『公務員試験 新スーパー過去問ゼミ 5 マクロ経済学』実務教育出版、2018年。ISBN978-4-7889-6

備考

特になし。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 山中高光

授業の概要

この科目は経済・経営分野の知識を身につけるための科目の一つである。
経済学の体系を復習し、
公務員試験における経済原論の必修問題を解けるようにする。

到達目標

- 1. 経済学の体系を理解できる。
- 2. 公務員試験のため、関連の問題を解答できる。

評価方法

到達目標

- 1. 経済学の体系を理解できる。
- 2. 公務員試験のため、関連の問題を解答できる。。

評価方法

到達目標 1、 2 をレポートにより評価する。そのうち到達目標 1 を40%、 到達目標 2 を60%評価し、 総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

無用の授業中の私語とスマートフォン（携帯電話）などの使用を一切禁止する。
また、授業中に意見を求めたり質問を受け付けたりしていく。

授業計画

- 1週目：経済学とは—われわれの生活と経済学、基本的な経済問題、経済学の基本的な考え方
- 2週目：市場経済と日本経済のあゆみ—産業革命以降現代までの経済の歩みと第2次世界大戦以降の日本経済の歩み
- 3週目：需要と供給—ミクロ経済学とは、価格、需要、供給、需要曲線、供給曲線
- 4週目：価格の決定と市場の調整—需要曲線のシフト、価格メカニズム
- 5週目：家計の行動—日本の家計の実態、家計行動の経済学的見方
- 6週目：企業の行動—企業の種類、株式会社の仕組み、企業行動の経済学的捉え方
- 7週目：市場取引—市場メカニズム、資源配分、自由貿易の利益
- 8週目：市場の限界と政府の役割—所得分配、市場の失敗（独占、外部性、公共財、情報の非対称性）、政府の役割
- 9週目：経済全体の活動を捉える枠組み(1)—マクロ経済学とは、SNA、GDP、
- 10週目：経済全体の活動を捉える枠組み(2)—物価、失業率、景気循環
- 11週目：GDPの決定—総需要、総供給、有効需要、消費、投資、乗数理論
- 12週目：貨幣と金融—マネーストック、マネタリーベース、貨幣供給、家計需要、利子率の決定
- 13週目：マクロ経済政策—財政政策、財政赤字、金融政策、物価の安定、金融システムの安定
- 14週目：グローバル化と経済政策—貿易の利益、国際収支、為替レート、国際マクロ経済学
- 15週目：経済成長—経済成長、潜在GDP、成長方程式、成長理論

授業外学習

学習時間の目安:合計30時間。
各回のテーマ等に関してあらかじめ予習しておくこと。また、毎回の演習終了後は演習した内容について適宜レポートにまとめること。

教科書

資料を配付する。

参考書

適宜指示する。

備考

google classroomを資料配付、解説などに利用する。

簿記論演習（21682）

前期

Bookkeeping theory practice

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 危
単位数	2．0 単位
担当教員	 岡野憲治

授業の概要

簿記の基本的な知識を演習を実施して理解します。演習は、講義による説明と練習問題を解答することから構成されています。それによって、経営成績を表す損益計算書と財政状態を表す貸借対照表などを作成する能力が養われます。

到達目標

- 1．すでに会計原理・会計学、簿記論などを履修している学生には、企業経営と会計情報の関係を深く理解できるように演習を実施します。
- 2．さらに、初めて簿記を学ぶ初学者にも、簿記の基本的な考えを理解できるように、演習を実施いたします。
- 3．簿記の基礎的な知識を学習し、その知識を活用して、就職活動を有利に進めることも目標です。

評価方法

演習などに真剣に取り組む姿勢（到達目標1を評価）、演習レポートの提出（到達目標1、2を評価）、定期試験（到達目標1～3を評価）などを総合的に判断して、評価します。評価の割合は、それぞれ30%、30%、40%とします。

注意事項

遅刻と欠席はゼロにしたいですね。私語とスマホの操作なども控えていきたいですね。

授業計画

- 第1回 簿記の基本的な考えを理解します。企業経営と会計情報の中心である財務諸表の関係を理解できるように指導します。新聞などに出ている会計情報などを学生諸君と議論します。
- 第2回 簿記を計算構造の側面から学習します。財産法と貸借対照表、損益法と損益計算書の関係を、計算例の演習などを利用して理解します。
- 第3回 簿記の基本的な内容は、仕訳帳と総勘定元帳などの帳簿に記入し、帳簿を締め切り、決算をすることです。仕訳の方法と勘定記入の原理を簡単な例示で学習します。
- 第4回 現金・預金取引の仕訳と勘定記入の方法を、演習問題を解くことによって学習します。
- 第5回 有価証券の内容の理解、その取得、売却などの取引の記帳方法を学習します。
- 第6回 商品売買取引とその記帳方法を計算練習などによって学習します。特に商品勘定の3分法による記帳方法を例示などを利用して理解します。
- 第7回 債権である売掛金と債務である買掛金の仕訳を学習します。また、この取引に関連する貸倒損失と貸倒引当金の内容も理解します。
- 第8回 約束手形と為替手形の内容と受取手形勘定および支払手形勘定の記帳方法を学習します。
- 第9回 建物などの有形固定資産の取得と減価償却について学習します。ここでは、減価償却費の計算方法を演習問題を解くことによって理解します。
- 第10回 損益取引の記帳処理を学習します。特に、商品売買取引における売上原価と商品売買益の計算を演習問題を解くことによって学習者の理解を容易にします。
- 第11回 決算について学習します。その内容と基本的な考えを学習します。
- 第12回 決算に必要な残高試算表の構成とその作成方法を演習問題を解くことによって理解します。
- 第13回 決算日に処理する決算整理事項とその仕訳、勘定の記入などを学習します。演習問題を解くことによって理解します。
- 第14回 決算日に作成する損益計算書と貸借対照表を演習問題を解くことによって理解します。
- 第15回 企業経営と簿記によって作成される財務諸表の関係を復習します。

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

簿記の演習には、演習前に教科書をあらかじめ読んでおく予習勉強と解けなかった問題などを解決する復讐が大切です。教科書の演習問題を解きながら、簿記の実力をつけましょう。自分で解けない、理解できない問題は、教室において解決できますので、安心して下さい。

教科書

興津裕康・岡野憲治著『簿記原理 改訂第2版』白桃書房。2009年。ISBN 9 7 8 - 4 - 5 6 1 - 4 5 1 6 6 - 2 C 3034

参考書

谷 武幸・桜井久勝編著『1からの会計』中央経済社。2016年。ISBN 9 7 8 - 4 - 5 0 2 - 2 9 9 8 0 - 3 C 3034

備考

楽しく、理解しやすい授業を心がけています。

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

渡谷担当では、コンピュータやインターネット利用者に求められる知識、統計解析の方法を適切に利用するための知識、調査や実験で得られた様々なデータを効果的に示すための方法や、表計算ソフトウェアをより有効に利用するためのマクロ言語・スクリプト言語の習得などさまざまな分野から、受講者の希望によりテーマを選択する。

危機管理学科のディプロマポリシー「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 1 「文献を読み、内容を整理・説明することができる。」
- 2 「他者の発表する文献の内容を理解し、内容に関する討論に参加できる。」
- 3 「卒業論文作成に必要な文献を収集することができる。」

評価方法

演習中の発表内容60%（到達目標1、3を評価）、演習中の発表に対する討論への参加状況40%（到達目標2を評価）により総合的に評価する。

注意事項

学生自身による文献研究、発表、及び討論を中心に進められるので、事前の準備をしっかり行って演習に望むこと。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション
- 第2～14回：文献の輪読（レジメ作成・発表を含む）と討論
- 第15回：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・与えられた（あるいは自ら選んだ）文献を精読し、発表の準備（レジメ、発表内容の要約など）をしておく。
- ・他者の担当する文献に目を通し、疑問点など討論したい点を見つけておく。
- ・発表時に答えられなかった質問等があれば、次の回までにこたえられるよう準備しておく。

教科書

使用しない。

各自が講読する文献などについては随時指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

専門文献講読 I (21683)

前期

Professional document reading I

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会の特徴を知ることを主眼とする。
書籍を読み込んで現代社会の実相を知り、将来展望が開けるようにしたい。
アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。
専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

1. 自由主義や資本主義の特徴を知る。
2. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
3. 社会制度や法制度、政治制度の特徴を知る。

評価方法

予習・復習の態度およびまとめレポートの出来により評価する。（到達目標1~3を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

前期（専門文献講読 1）
関連する書籍を輪読する。
まとめレポートを作成して発表。

授業外学習

文献講読が主なので、受講者が決まればその都度指導する。
通読する文献はゼミ内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし。

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤ブラダンスジット

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

当ゼミでは、データ管理や情報検索技術に重要とされる理論を学び、またそれらの技術における応用分野に関連する書籍や論文を輪読し、そこで得た知見をもとにゼミ生が各自で課題を設定し、資料収集・分析検討・報告までを行う。

到達目標

1. 自身の関心に従い、課題（研究テーマ）に沿って、文献を収集することができる。
2. 課題（研究テーマ）解決に必要な基礎的・専門的知識を整理・説明できる。
3. 課題（研究テーマ）解決に必要な情報を効率よく収集し、批判的視点も持って考察することができる。
4. 効果的なプレゼンテーション用資料を作成できる。
5. 文献の内容を論理的かつ正確に他者に伝達できる。

評価方法

ゼミへの貢献として課題への取り組み方10%（到達目標 1、 2 を評価）、議論への積極的な参加20%（到達目標3を評価）、レジュメ内容、発表内容20%（到達目標4を評価）、課題（レポート） 50%（到達目標 5 を評価）で総合評価を行う。

注意事項

- ・ 規定授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

- 第 1 週：オリエンテーション
- 第 2 週～第 3 週：文献の収集および文献レビュー指導
- 第 4 週～第 9 週：文献レビュー（レジュメ作成、発表、議論）
- 第 1 0 週 成果発表 1、ディスカッション
- 第 1 1 週 成果発表 2、ディスカッション
- 第 1 2 週～第 1 4 週：文献レビュー（レジュメ作成、発表、議論）
- 第 1 5 週：文献レビューまとめ（レポート提出）

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・ 指導教員から提示された参考論文を精読し、論文の構成、内容についてあらかじめ理解しておくこと。
- ・ 論文に用いられている専門用語の意味等を調べておくこと。
- ・ 復習として課せられる課題レポート等を必ず提出すること。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

専門文献講読Ⅰ（21683）

前期

Professional document readingⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	村山公保

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

村山公保担当では、主として情報ネットワーク技術を取り上げる。

【ICTを活用した双方向型授業】学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、 Google Classroom(Google ドライブ)に提出する。

到達目標

- 1．情報ネットワーク技術に関連する文献を読み、内容を体系的に説明することができる。
- 2．他のゼミ生の発表を聞き、内容を理解できる。また理解できない点については質問ができる。

評価方法

演習中の発表内容40%（到達目標 1 を評価）、演習中の発表に対する討論への参加状況30%（到達目標 2 を評価）、レポート30%（到達目標 1 を評価）の重みで判定する。

注意事項

学生自身による文献研究、発表、及び討論を中心に進められるので、事前の準備をしっかりと行って講義に望むこと。

授業計画

- 第 1 回 ：オリエンテーション
- 第 2 ～ 1 4 回：情報ネットワーク技術に関する文献の輪読（文献研究、レジュメ作成と発表）と討論と課題への取組。
- 第 1 5 回 ：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・発表担当者は与えられた文献を精読し、発表の準備（レジュメ、発表内容の要約など）を行うこと。
- ・発表担当者でない場合も文献を精読し、疑問点など討論したい点についてまとめておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、荻田幸雄著、「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて紹介する。

備考

なし

専門文献講読Ⅰ（21683）

前期

Professional document readingⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、観光全般の問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。
専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

- 1、観光学の基礎知識を基に、基本的な文献や専門書を読み理解する。
- 2、自分が得た学びを、プレゼンテーションやレジュメにまとめて他者に伝える。

評価方法

この講義は、経済・経営など専門分野の諸問題を解決する能力を身につけることを目的として以下のように目標を設定している。

- ・課題および提出物 50%（到達目標 1, 2 を評価）
- ・プレゼンテーション50%（到達目標 1, 2 を評価）

注意事項

- ・受講態度を重視するので、理由なく欠席することには厳しく対処する。
- ・提出物は期限を守ること。
- ・ゼミ生同士でお互いの研究に興味をもち、情報共有をする。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 オリエンテーション
第2回	第2回 観光危機管理の共通資料および参考文献の講読とまとめ
第3回	第3回 観光危機管理の共通資料および参考文献の講読とまとめ
第4回	第4回 観光危機管理の共通資料および参考文献の講読とまとめ
第5回	第5回 観光危機管理の共通資料および参考文献の講読とまとめ
第6回	第6回 観光危機管理の共通資料および参考文献の講読とまとめ
第7回	第7回 各自の選んだ文献の講読とまとめ
第8回	第8回 各自の選んだ文献の講読とまとめ
第9回	第9回 各自の選んだ文献の講読とまとめ
第10回	第10回 各自の選んだ文献の講読とまとめ
第11回	第11回 各自の選んだ文献の講読とまとめ
第12回	第12回 プレゼンテーション（レジュメとスライド使用）
第13回	第13回 プレゼンテーション（レジュメとスライド使用）
第14回	第14回 プレゼンテーション（レジュメとスライド使用）
第15回	第15回 総括

授業外学習

- ・2回目～6回目：毎回講読する共通の資料および参考文献を読み、各自で参考資料を集める。

- ・ 7回目~11回目：毎回講読する各自が選んだ文献を読みつつ、前回の講評を基に深く読み解く。
- ・ 12回目~14回目：プレゼンテーションの準備とレジュメ作成

教科書

その都度共通の資料および文献を指定する。

参考書

「危機管理論と観光」D.グレーサー（くんぶる社）2008年（ISBN-10: 4875511981）

「観光危機管理ハンドブックー観光客と観光ビジネスを災害から守るー」高松正人（朝倉書店）2018年（ISBN-10: 4254500297）

備考

特記なし。

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 山中高光

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Iに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

文献講読の実践を行い、内容を読解し、講読した文献に対する意見を持つ。

読解した文献や参考資料をもとに資料を作成し、発表・報告することができる。

報告を基にした議論ができ、それを通して文献などをより深く理解できる。

評価方法

授業態度（60％）、課題レポート（40％）を基準として総合的に評価する

注意事項

学生間の議論を軸に展開するので、まず教科書の読解と考察が不可欠である。それをもとに自分の意見を明らかにし、他者への敬意を払いつつ、お互いに高めあうことができるようにすること。

授業計画

授業では報告者が事前に準備した報告資料を基に発表を行い、それを基にした議論を行う。こうした授業を通して各自の問題意識を高めそれを基にしたレポートを作成していく、まとめとしてレポート報告会を行う。

- 1週目：オリエンテーション
- 2週～14週目：読解（報告・発表）、議論
- 15週目：レポート報告会

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前の予習が必須であり、事前に教科書の読解と考察を各自行うこと、

また、関連する統計データ、論評、経済時事にも留意することが必要である。

授業における報告議論を通して得た知見・疑問を確認し、分析そして解決に努めること。

教科書

『年次経済白書（経済財政白書）』最新版（内閣府ホームページからダウンロード）及び各種白書報告書など。

参考書

上記「教科書」の中での参考文献参考資料。

備考

専門文献講読Ⅰ（21683）

前期

Professional document readingⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

当科目[専門文献講読Ⅰ・専門文献講読Ⅱ]は、卒業論文作成における専門文献講読であり、履修生主体で運営する。

そのことから、一方的に話を聞く講義とは異なり、時間外学習で専門文献（卒業論文の参考文献）を熟読し、プレゼンテーションツールで内容をまとめ、演習時間内（毎回）での発表を通して、個々の履修生が主体的に発言・考察・行動する相互学習により、卒業論文作成の場を提供する。

※Google Classroomのクラスコード：bkbwehu

到達目標

[専門文献講読Ⅰ]および[専門文献講読Ⅱ]を引き続き履修することで、次の内容が習得できる。

1. 専門文献の読解力と、第三者への伝達能力
2. 専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎能力

評価方法

（履修生が4～5人の場合の点数であり、増減時は点数を変更する）

演習内での発表・質疑応答、および出席状況などからの評価とする

（到達目標 1、2を評価）

・専門書のプレゼンテーション発表は、1人当たり2回目以降の各回で15分以上の発表（発表内容の重複は不可）5点（15分以下は0点）、発表内容への質問（同じ内容の質問は不可）1点、質問への回答1点の加点積み上げ方式とする

＊発表は各回、輪番制とし当番が発表できない場合は次の履修生が行い、欠席時を埋める発表はなし

《規定授業時間数の3分の1》以上を欠席（【注意事項】にある欠席扱い含む）した場合は単位を認定しない

注意事項

このゼミナールに参加する履修生は、次の内容を留意および準備すること

《運営上の注意事項》

1)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要

＊10分以上の[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする

2)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要

＊[証明書]がない場合の途中退出は欠席扱いとする

3) 業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする

4)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止

＊特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする

5)連絡は、LINEを媒体とする（端末不所持の場合はメール）

《課題への取り組み上の注意事項》

1)卒業論文作成における参照・参考文献（論文）を順次プレゼンテーションで発表

2)書籍購入費を含む交通費などの実費は各履修生の負担とする

授業計画

第1回：オリエンテーション

第2回～第15回：専門文献の紹介（プレゼンテーションでの発表と質疑応答）

授業外学習

学習時間の目安：60時間

履修生は、[経営危機管理学演習]の夏休み課題で選出した参考文献を熟読し、プレゼンテーションツールを使用して、演習時間内での発表に備えること

- ・発表（授業時間）時の発表用プレゼンテーションツールのデータは、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする
- * データ格納されたUSBの持参でも可

教科書

教科書は、使用しない。

参考書

演習に利用する専門書などは、各履修生が用意する。

備考

専門文献講読Ⅰ（21683）

前期

Professional document readingⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

文献講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

当ゼミでは、経営、マーケティングに関連する書籍や論文を輪読し、そこで得られた知見をもとに各ゼミ生が設定した課題に基づき、資料収集・分析検討・報告を行う。

到達目標

- 自身の関心に従い、研究テーマに沿って、文献を収集することができる。
- 研究テーマに関連する課題解決に必要な基礎的・専門的知識を整理・説明できる。
- 研究テーマに関連する課題解決に必要な情報を効率よく収集研究テーマに関連する課題解決にし、批判的視点も持って考察することができる。
- 効果的なプレゼンテーション用資料を作成できる。
- 文献の内容を論理的かつ正確に他者に伝達できる。

評価方法

ゼミへの貢献として課題への取り組み方10%（到達目標1、2を評価）、議論への積極的な参加20%（到達目標3を評価）、レジュメ内容、発表内容20%（到達目標4を評価）、課題（レポート）50%（到達目標5を評価）で総合評価を行う。

注意事項

- ・規定授業時間数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

- 第1週：オリエンテーション
- 第2週～第3週：文献の収集および文献レビュー指導
- 第4週～第9週：文献レビュー（レジュメ作成、発表、議論）
- 第10週 成果発表1、ディスカッション
- 第11週 成果発表2、ディスカッション
- 第12週～第14週：文献レビュー（レジュメ作成、発表、議論）
- 第15週：文献レビューまとめ（レポート提出）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・指導教員から提示された参考論文を精読し、論文の構成、内容についてあらかじめ理解しておくこと。
- ・論文に用いられている専門用語の意味等を調べておくこと。
- ・復習として課せられる課題レポート等を必ず提出すること。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

専門文献講読Ⅰ（21683）

前期

Professional document readingⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	田原 静

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

- 1 文献購読および他者への解説に必要なスキル(文献検索，入手，批判的読み方，要約，レジメ作成)を身に着ける
- 2 卒業研究で扱う分野における基礎的な文献を読み，内容を理解できる
- 3 他者が作成した文献レジメの内容を理解し，疑問点を上げ議論できる

評価方法

ゼミ中での発表40%(到達目標1,2を評価)，発表レジメ40%(到達目標1,2を評価)，質問・議論での発言20%(到達目標3を評価)によって評価する。

注意事項

学生自身による発表，討論を中心に進められるため，準備をしっかり行ってから臨んで欲しい。

授業計画

1週：オリエンテーション

2週：文献の検索，入手方法について解説

3週：批判的読み方，文献の要約，レジメ作成について解説

3～15週：

共通文献(あるテーマについて，全員で共通の文献を読む)，各自ごと文献(自身の興味，卒業研究でのテーマに応じて各自が探して来た文献)の輪読（レジメ作成、発表、討論）

授業外学習

- ・週ごとの発表担当となった者は，その事前準備(レジメ，発表内容要約等)を行うこと
- ・自身が発表担当でない場合も，事前に該当の章をよく読み，疑問点など皆で議論したい点についてまとめておくこと。

教科書

ゼミ内で指示。

参考書

ゼミ内で適宜紹介する。

備考

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Ⅱに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

渡谷担当では、コンピュータやインターネット利用者に求められる知識、統計解析の方法を適切に利用するための知識、調査や実験で得られた様々なデータを効果的に示すための方法や、表計算ソフトウェアをより有効に利用するためのマクロ言語・スクリプト言語の習得などさまざまな分野から、受講者の希望によりテーマを選択する。

危機管理学科のディプロマポリシー「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 「文献を読み、内容を体整理・説明することができる。」
- 「他者の発表する文献の内容を理解し、その内容に関する討論に参加できる。」
- 卒業論文作成に必要な基本的スキルを身につけることが出来る。

評価方法

演習中の発表内容60%（到達目標1、3を評価）、演習中の発表に対する討論への参加状況40%（到達目標2を評価）により総合的に評価する。

注意事項

学生自身による文献研究、発表、及び討論を中心に進められるので、事前の準備をしっかりと行って演習に望むこと。

授業計画

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2～14回: 文献の輪読（レジメ作成・発表を含む）と討論
- 第15回 : まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- 与えられた（あるいは自ら選んだ）文献を精読し、発表の準備（レジメ、発表内容の要約など）をしておく。
- 他社の担当する文献にも目を通し、疑問点など討論したい点をチェックしておく。
- 発表時に答えられなかった質問等があれば、次回までに答えられるよう準備しておく。
- 卒業論文に反映させることができる文献を収集して発表する文献とする。

教科書

使用しない。

各自が講読する文献などについては随時指示する。

参考書

適宜指示する、

備考

専門文献講読Ⅱ（21684）

後期

Professional document reading I

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会の特徴を知ることが主眼とする。
書籍を読み込んで現代社会の実相を知り、将来展望が開けるようにしたい。
アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。
専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

1. 自由主義や資本主義の特徴を知る。
2. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
3. 社会制度や法制度、政治制度の特徴を知る。

評価方法

予習・復習の態度およびまとめレポートの出来により評価する。（到達目標1~3を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

後期（専門文献購読Ⅱ）
関連する書籍を輪読する。
まとめレポートを作成して発表。

授業外学習

文献購読が主なので、受講者が決まればその都度指導する。
通読する文献はゼミ内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし。

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2． 0 単位
担当教員	👤ブラダンスジット

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Ⅰに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

当ゼミでは、データ管理や情報検索技術に重要とされる理論を学び、またそれらの技術における応用分野に関連する書籍や論文を輪読し、そこで得た知見をもとにゼミ生が各自で課題を設定し、資料収集・分析検討・報告までを行う。

到達目標

1. 自身の関心に従い、課題（研究テーマ）に沿って、文献を収集することができる。
2. 課題（研究テーマ）解決に必要な基礎的・専門的知識を整理・説明できる。
3. 課題（研究テーマ）解決に必要な情報を効率よく収集し、批判的視点も持って考察することができる。
4. 効果的なプレゼンテーション用資料を作成できる。
5. 文献の内容を論理的かつ正確に他者に伝達できる。

評価方法

ゼミへの貢献として課題への取り組み方10%（到達目標 1、 2 を評価）、議論への積極的な参加20%（到達目標3を評価）、レジュメ内容、発表内容20%（到達目標4を評価）、課題（レポート） 50%（到達目標 5 を評価）で総合評価を行う。

注意事項

- ・ 規定授業時間数の 3 分の 1 以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

- 第 1 週：オリエンテーション
- 第 2 週～第 3 週：文献の収集および文献レビュー指導
- 第 4 週～第 9 週：文献レビュー、調査分析手法
- 第 1 0 週 成果発表 1、ディスカッション
- 第 1 1 週 成果発表 2、ディスカッション
- 第 1 2 週～第 1 4 週：文献レビュー
- 第 1 5 週：文献レビューまとめ（レポート提出）

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- ・ 指導教員から提示された参考論文を精読し、論文の構成、内容についてあらかじめ理解しておくこと。
- ・ 論文に用いられている専門用語の意味等を調べておくこと。
- ・ 復習として課せられる課題レポート等を必ず提出すること。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

専門文献講読Ⅱ（21684）

後期

Professional document reading I

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

村山公保担当では、主として情報ネットワーク技術を取り上げる。

到達目標

- 1．情報ネットワーク技術に関連する文献を読み、内容を体系的に説明することができる。
- 2．他のゼミ生の発表を聞き、内容を理解できる。また理解できない点については質問ができる。

評価方法

演習中の発表内容40％（到達目標 1 を評価）、演習中の発表に対する討論への参加状況30％（到達目標 2 を評価）、レポート30％（到達目標 1 を評価）の重みで判定する。

注意事項

学生自身による文献研究、発表、及び討論を中心に進められるので、事前の準備をしっかりと行って講義に望むこと。

授業計画

- 第 1 回 ：オリエンテーション
- 第 2 ～ 1 4 回：情報ネットワーク技術に関する文献の輪読（文献研究、レジュメ作成と発表）と討論と課題への取組。
- 第 1 5 回 ：まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・発表担当者は与えられた文献を精読し、発表の準備（レジュメ、発表内容の要約など）を行うこと。
- ・発表担当者でない場合も文献を精読し、疑問点など討論したい点についてまとめておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄著、「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて紹介する。

備考

なし

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、観光全般の問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Ⅱに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

この講義は、経済・経営など専門分野の諸問題を解決する能力を身につけることを目的として以下のように目標を設定している。

- 1、前期の「専門文献講読Ⅰ」を基に、より専門性の高い文献を読み理解する。
- 2、自分が得た学びを、プレゼンテーションやレジュメにまとめて他者に伝える。

評価方法

- ・課題および提出物 50%（到達目標 1，2 を評価）
- ・プレゼンテーション50%（到達目標 1，2 を評価）

注意事項

- ・受講態度を重視するので、理由なく欠席することには厳しく対処する。
- ・提出物は期限を守ること。
- ・ゼミ生同士でお互いの研究に興味をもち、情報共有をする。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 オリエンテーション
第2回	第2回 各自の選んだ文献の講読とまとめ（卒業研究をテーマとして）
第3回	第3回 各自の選んだ文献の講読とまとめ（卒業研究をテーマとして）
第4回	第4回 各自の選んだ文献の講読とまとめ（卒業研究をテーマとして）
第5回	第5回 各自の選んだ文献の講読とまとめ（卒業研究をテーマとして）
第6回	第6回 各自の選んだ文献の講読とまとめ（卒業研究をテーマとして）
第7回	第7回 グループワーク
第8回	第8回 グループワーク
第9回	第9回 グループワーク
第10回	第10回 プレゼンテーション一回目（レジュメとスライド使用）
第11回	第11回 プレゼンテーション一回目（レジュメとスライド使用）
第12回	第12回 総括一回目（講評および改善）
第13回	第13回 プレゼンテーション二回目（レジュメとスライド使用）
第14回	第14回 プレゼンテーション二回目（レジュメとスライド使用）
第15回	第15回 総括二回目（講評）

授業外学習

- ・2回目～6回目：毎回講読する共通の資料および参考文献を読み、各自で参考資料を集める。

- ・ 7回目~11回目：毎回講読する各自が選んだ文献を読みつつ、前回の講評を基に深く読み解く。
- ・ 12回目~14回目：プレゼンテーションの準備とレジュメ作成

教科書

その都度共通の資料および文献を指定する。

参考書

「危機管理論と観光」D.グレーサー（くんぷる社）2008年（ISBN-10: 4875511981）

「観光危機管理ハンドブックー観光客と観光ビジネスを災害から守るー」高松正人（朝倉書店）2018年（ISBN-10: 4254500297）

備考

特記なし。

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 山中高光

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Ⅰに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

文献講読の実践を行い、内容を読解し、講読した文献に対する意見を持つ。

読解した文献や参考資料をもとに資料を作成し、発表・報告することができる。

報告を基にした議論ができ、それを通して文献などをより深く理解できる。

評価方法

授業態度（60％）、課題レポート（40％）を基準として総合的に評価する

注意事項

学生間の議論を軸に展開するので、まず教科書の読解と考察が不可欠である。それをもとに自分の意見を明らかにし、他者への敬意を払いつつ、お互いに高めあうことができるようにすること。

授業計画

授業では報告者が事前に準備した報告資料を基に発表を行い、それを基にした議論を行う。こうした授業を通して各自の問題意識を高めそれを基にしたレポートを作成していく、まとめとしてレポート報告会を行う。

- 1週目：オリエンテーション
- 2週～14週目：読解（報告・発表）、議論
- 15週目：レポート報告会

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

事前の予習が必須であり、事前に教科書の読解と考察を各自行うこと、

また、関連する統計データ、論評、経済時事にも留意することが必要である。

授業における報告と議論を通して得た知見・疑問を確認し、分析そして解決に努めること。

教科書

各自が選んだ各種白書報告書及び論文。

参考書

上記「教科書」の中の参考文献参考資料

備考

Google Classroomを資料提示などに活用する。

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	2．0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Ⅱに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

当科目[専門文献講読Ⅰ・専門文献講読Ⅱ]は、卒業論文作成における専門文献講読であり、履修生主体で運営する。

そのことから、一方的に話を聞く講義とは異なり、時間外学習で専門文献（卒業論文の参考文献）を熟読し、プレゼンテーションツールで内容をまとめ、演習時間内（毎回）での発表を通して、個々の履修生が主体的に発言・考察・行動する相互学習により、卒業論文作成の場を提供する。

※Google Classroomのクラスコード：x2npdydh

到達目標

[専門文献講読Ⅰ]および[専門文献講読Ⅱ]を引き続き履修することで、次の内容が習得できる。

- 1.専門文献の読解力と、第三者への伝達能力
- 2.専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎能力

評価方法

（履修生が4～5人の場合の点数であり、増減時は点数を変更する）

演習内での発表・質疑応答、および出席状況などからの評価とする

（到達目標 1、2を評価）

- ・専門書のプレゼンテーション発表は、1人当たり2回目以降の各回で15分以上の発表（発表内容の重複は不可）5点（15分以下は0点）、発表内容への質問（同じ内容の質問は不可）1点、質問への回答1点の加点積み上げ方式とする
- * 発表は各回、輪番制とし当番が発表できない場合は次の履修生が行い、欠席時を埋める発表はなし
- 《規定授業時間数の3分の1》以上を欠席（【注意事項】にある欠席扱い含む）した場合は単位を認定しない

注意事項

このゼミナールに参加する履修生は、次の内容を留意および準備すること

- 《運営上の注意事項》
- 1)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
 - * 10分以上の[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
 - 2)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要
 - * [証明書]がない場合の途中退出は欠席扱いとする
 - 3)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
 - 4)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
 - * 特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする
 - 5)連絡は、LINEを媒体とする（端末不所持の場合はメール）

- 《課題への取り組み上の注意事項》
- 1)卒業論文作成における参照・参考文献（論文）を順次プレゼンテーションで発表
 - 2)書籍購入費を含む交通費などの実費は各履修生の負担とする

授業計画

第1回： オリエンテーション

第2回～第15回：専門文献の紹介（プレゼンテーションでの発表と質疑応答）

授業外学習

学習時間の目安：60時間

履修生は、[経営危機管理学演習]の夏休み課題で選出した参考文献を熟読し、プレゼンテーションツールを使用して、演習時間内での発表に備えること

- ・発表（授業時間）時の発表用プレゼンテーションツールは、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする
- *データ格納されたUSBの持参でも可

教科書

教科書は、使用しない。

参考書

演習に利用する専門書などは、各履修生が用意する。

備考

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、専門文献講読Ⅰに引き続き、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

当ゼミでは、経営に関連する書籍や論文を輪読し、そこで得られた知見をもとに各ゼミ生が設定した課題に基づき、資料収集・分析検討・報告を行う。

到達目標

- 1. 自身の関心に従い、課題（研究テーマ）に沿って、文献を収集することができる。
- 2. 課題（研究テーマ）解決に必要な基礎的・専門的知識を整理・説明できる。
- 3. 課題（研究テーマ）解決に必要な情報を効率よく収集し、批判的視点も持って考察することができる。
- 4. 効果的なプレゼンテーション用資料を作成できる。
- 5. 文献の内容を論理的かつ正確に他者に伝達できる。

評価方法

ゼミへの貢献として課題への取り組み方30%（到達目標1、2を評価）、レジュメ内容、発表内容20%（到達目標3、4を評価）、課題（レポート）50%（到達目標5を評価）で総合評価を行う。

注意事項

- ・規定授業時間数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

- 第1週：オリエンテーション
- 第2週～第3週：文献の収集および文献レビュー指導
- 第4週～第9週：文献レビュー、調査分析手法
- 第10週 成果発表1、ディスカッション
- 第11週 成果発表2、ディスカッション
- 第12週～第14週：文献レビュー
- 第15週：文献レビューまとめ（レポート提出）

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- ・指導教員から提示された参考論文を精読し、論文の構成、内容についてあらかじめ理解しておくこと。
- ・論文に用いられている専門用語の意味等を調べておくこと。
- ・復習として課せられる課題レポート等を必ず提出すること。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特になし

年次	4年
対象	25～23R
単位数	2.0単位
担当教員	田原 静

授業の概要

文献を講読し、その内容を理解し他者に伝達する力を身に着けることは、専門研究や高度職業人に必要な情報収集、課題分析、問題解決を行う基礎となる能力である。この科目では、文献講読に関する基本的な内容に関する講義・演習を行うとともに、文献講読の実践を行い、内容を理解できる読解力と、その内容を他者に伝達する資料作成・発表の能力を養成することを目的とする。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

- 1 文献購読および他者への解説に必要なスキル(文献検索，入手，批判的読み方，要約，レジメ作成)を身に着ける
- 2 卒業研究で扱う分野におけるより専門的な文献を読み，内容を理解できる
- 3 他者が作成した文献レジメの内容を理解し，疑問点を上げ議論できる

評価方法

ゼミ中での発表40%(到達目標1,2を評価)，発表レジメ40%(到達目標1,2を評価)，質問・議論での発言20%(到達目標3を評価)によって評価する。

注意事項

学生自身による発表，討論を中心に進められるため，準備をしっかり行ってから臨んで欲しい。

授業計画

1週：オリエンテーション

2週：文献の検索，入手方法について解説

3週：批判的読み方，文献の要約，レジメ作成について解説

3～15週：

共通文献(あるテーマについて，全員で共通の文献を読む)，各自ごと文献(自身の興味，卒業研究でのテーマに応じて各自が探して来た文献)の輪読（レジメ作成、発表、討論）

授業外学習

- ・週ごとの発表担当となった者は，その事前準備(レジメ，発表内容要約等)を行うこと
- ・自身が発表担当でない場合も，事前に該当の章をよく読み，疑問点など皆で議論したい点についてまとめておくこと。

教科書

ゼミ内で指示。

参考書

ゼミ内で適宜紹介する。

備考

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

渡谷担当では、コンピュータやインターネット利用者に求められる知識、統計解析の方法を適切に利用するための知識、調査や実験で得られた様々なデータを効果的に示すための方法や、表計算ソフトウェアをより有効に利用するためのマクロ言語・スクリプト言語の習得などさまざまな分野から、受講者の希望により学習内容・卒業研究のテーマを選択して、卒業研究にまとめる。

危機管理学科のディプロマポリシー「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 「各自の興味のある分野で情報収集し、研究課題を絞り込んで卒業研究のテーマを決められる。」
- 「設定したテーマで研究に取り組み、卒業論文としてまとめることができる。」
- 「卒業研究の内容をプレゼンテーションとして発表することができる。」
- 「発表に対する質疑応答に対応することができる。」

評価方法

卒業研究テーマ設定までの過程と卒業研究概要30%（到達目標 1 を評価）、卒業論文の作成過程と完成した卒業論文50%（到達目標 1、2 を評価）、卒業研究の発表と質疑応答20%（到達目標 3、4 を評価）により総合的に評価する。

注意事項

各自の研究なので、主体的・計画的に取り組むこと。

授業計画

- 第1週： オリエンテーション
- 第2～13週： 研究テーマ設定に向けた情報収集とテーマの絞り込み
- 第14～15週：テーマの設定と卒業研究概要の作成
- 第16週： 後期オリエンテーション
- 第17～20週：テーマに沿った資料収集・分析
- 第21～25週：論文構成などの確認および個別指導
- 第26週： 卒業論文の仮提出
- 第27～29週：個別指導による仮提出論文の改善・修正
- 第30週： 卒業論文の完成および提出

授業外学習

授業外学習時間の目安：合計120時間

・発表・討論に向けての準備、卒業論文の作成とプレゼンテーションの準備等。詳細はゼミ生と教員で相談して決める。

教科書

必要に応じて個別に指示する。

参考書

必要に応じて個別に指示する。

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。
アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。
専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

到達目標

1. 自由競争原理について理解し、説明出来る。
2. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
3. 後半には卒業論文を完成させる。

評価方法

ゼミの予習・復習の態度およびまとめレポート+卒業論文の出来により評価する。（到達目標1~3を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

前期
関連する書籍を輪読する。
まとめレポートを作成して発表。

後期
卒業論文の作成と発表。

授業外学習

卒業研究（ゼミナール形式）なので、受講者が決まればその都度指導する。
テーマ等はゼミ内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

ゼミ内で指示する。

参考書

ゼミ内で指示する。

備考

特になし。

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	👤ブラダンスジット

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみいだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

【アクティブラーニング】問題解決学習、調査学習、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】学生が作成した論文や、学生が行ったプレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．現代社会における情報分野の専門的な知識の必要性について意識する。
- 2．自主的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。
- 3．自分がわからないことについて、自分で調べる姿勢を身につける。
- 4．卒業研究発表会予稿集用原稿の提出、卒業研究発表会で研究内容を報告するとともに、卒業論文を提出することができる。

評価方法

- 課題に取り組む姿勢（30％）（到達目標1を評価）
- 予稿集用原稿・プレゼン資料・卒業研究発表会での発表（30％）（到達目標2、3、4を評価）
- 卒業論文（40％）（到達目標1、2、3、4を評価）

注意事項

受講している授業がない時間帯は研究室で研究活動を行う。

授業計画

- 研究領域の決定
- 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する
- 研究課題（テーマ）の決定と研究計画書の作成、および研究の実施
- 研究を進める上での倫理的な配慮について学ぶため、適時、倫理審査に必要な書類の準備、審査
- 研究の実施・データ分析
- 卒業論文の作成の作成・提出（12月下旬）
- 卒業論文の概要の作成・提出（1月下旬）
- 卒業研究の発表（2月中旬）

授業外学習

学習時間の目安：時間内、時間外、合わせて合計360時間

- ・授業外でやらなければならないことについては適宜指示をするが、自らやるべきことについて考え、自ら行動するという主体性が大切である。
- ・各自の学習や、グループワーク等のために、時間外にゼミ室を利用することができる。
- ・グループで行う必要が有るものについては協調性を持って取り組む姿勢が大切である。
- ・授業時間外に何をしたらよいかわからない場合には、相談すること。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する。

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	👤 村山公保

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために、自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。

また、自分の能力を引き出すために、3年生への指導も行う。他人への指導を通して、知識の整理、知識伝達の練習を行うとともに、人間的な成長も目指す。学内だけではなく、学外における活動が含まれる場合もある。

【アクティブラーニング】発見学習、問題解決学習、調査学習、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】学生が作成した論文や、学生が行ったプレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 自主的に課題に取り組むことが増える。
2. 自分がわからないことについて、自分で調べる姿勢が身につく。
3. 行き詰まったり、困ったりした時に、他人に相談したり、協力を求めることができる。
4. 自分が知っていることについて、他人に教えたり、指導することができる。

評価方法

・課題に取り組む姿勢60%(到達目標の1、2、3、4を評価)、予稿集用原稿・プレゼン資料・卒業研究発表会での発表20%(到達目標の2、4を評価)、卒業論文20%(到達目標の2、4を評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・受講者の知識レベル、技術レベル、興味の内容によって、内容を変更することがある。
- ・正規時間以外に活動を行うことがある。(休日、春休み、夏休み、冬休みを含む)
- ・学内だけでは得られない学びのためにイベントへの参加等、学外実習を行うことがある。
- ・授業の内容には情報処理技術者試験で出題される内容を含んでいる。
- ・自分で努力することも大切だが、行き詰まったら、プライドを捨てて、人を頼ることの大切さも理解してほしい。

授業計画

情報技術に関する実践的な能力を養うため、役に立つソフトウェアやハードウェア、デジタルデータ等を作品として作成する。適宜、報告書の作成とレビューを行い、書類作成能力とプレゼンテーション能力を養う。また「他人を指導する能力」を身につけるため、下級生への指導、輪読会、勉強会を開催したり、「情報技能向上のための活動を習慣づける」ため、プログラミングや小論文などの演習問題、「日ようびこども大学」「おもしろ体験で～」「倉敷藤花戦のインターネット中継」など、学内外のイベント活動に取り組む。

授業外学習

学習時間の目安：時間内、時間外、合わせて合計360時間

卒業研究は各自が能動的に活動することが重要であり、授業外学習なしには成り立たない。このことを念頭に置き、都合がつく限り積極的にゼミ室に出入りして研究活動を行うこと。

- ・自らやるべきことについて考え、自ら行動するという主体性が大切である。
- ・各自の学習や、グループワーク等のために、時間外にゼミ室を利用することができる。
- ・グループで行う必要が有るものについては協調性を持って取り組む姿勢が大切である。
- ・授業時間外に何をしたらよいかわからない場合には、相談すること。

教科書

参考書

村山 公保著、「基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティング入門第2版」、オーム社、2015、978-4-274-06689-4
村山 公保著、「Cプログラミング入門以前第2版」、マイナビ出版、2019、978-4-8399-6863-2
村山 公保著、「基礎からわかるTCP/IPネットワーク実験プログラミング第2版」、オーム社、2004、978-4-274-06584-2

備考

なし

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみいだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

観光分野の専門知識を活かし、経済・経営問題を考察しながら、関連するリスクと危機に関する諸問題をみいだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。

到達目標

この講義は、経済・経営など専門分野の諸問題を解決する能力を身につけることを目的として以下のように目標を設定している。

- 1、観光学を基盤として、研究テーマにリスクと危機管理の視点から問題意識をもつ。
- 2、基礎知識と実社会のデータや有り様を基に、諸問題を解決する論点を見出す。
- 3、論文作成に必要な調査について、自ら計画し実行することができる。
- 4、自主的な研究態度を養い、自らの到達目標を高く掲げ自己啓発に努める。
- 5、ゼミ生同士で協力して、お互いの卒業研究をサーベイし討議できる。
- 6、研究分野において学術的な貢献を試みる。

評価方法

- ・提出物50%（到達目標 1～4 を評価）
- ・ゼミ発表、学外発表50%（到達目標 5～6 を評価）

注意事項

- ・大学が実施する人権倫理セミナーには必ず出席すること。

授業計画

- 1回目：3年次の研究テーマについて（発表）、一年間のスケジュール作成（提出）
- 2回目：卒業研究のテーマと構想（提出）
- 3回目：「序論について」プレゼンテーションと質疑応答（毎回レジュメまたは資料提出）、講評
- 4回目～11回目：「本論について」プレゼンテーションと質疑応答（毎回レジュメまたは資料提出）、講評
- 12回目～13回目：「結論について」プレゼンテーションと質疑応答（毎回レジュメまたは資料提出）、講評
- 14回目～15回目：前期総括発表（一人15分間で発表、レジュメ提出）、講評
- 16回目～20回目：経過報告（プレゼンテーション）レジュメまたは資料提出、講評
- 26回目～30回目：提出準備

* 上記はあくまでも計画であり、各自で年間のスケジュールを作成し提出すること。

授業外学習

- ・参考文献や専門書をより多く講読する。
- ・参考・引用のために資料やデータを集め、リストアップおよびレジュメとして記録する。
- ・海外の観光をテーマとして扱う場合は、その国の公式なデータを収集しリストアップする。
- ・必要ならば、アンケート調査やインタビューについて自発的に取り組む。同時に、そのための人権や倫理について正しく理解する。また、アンケート調査の手法について、理解を深める。
- ・学会、セミナー、シンポジウムなどに積極的に参加する。

教科書

指定なし。資料は都度紹介する。

参考書

参考文献、専門書は各自の研究テーマに沿ったものを担当教員から推薦する。

備考

特記なし。

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	 山中高光

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみいだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

到達目標

経済経営に関連した危機及びリスクなどについて、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、論文を作成し報告と議論ができる。

卒業論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習研究できる能力を身に付ける。

評価方法

卒業研究への取り組み、論文内容等によって総合的に評価する。

注意事項

提出期限厳守のこと。

授業計画

1週目：オリエンテーション

4～7月：卒業研究テーマの設定、研究・分析方法の検討、研究計画策定、関連基礎知識の習得、関連研究の調査・資料収集、資料・文献の読み込み・報告、アウトライン作成

夏休中：草稿作成

10月： 中間発表、追加調査・資料収集、

11～12月：論文執筆、草稿の発表、論文修正・改善、

1～2月：卒業論文・要旨の作成、卒業論文提出および卒業研究発表

授業外学習

学習時間:240時間

経済経営に関連した危機及びリスクなどについて基礎的及び専門知識を復習する。

各自の問題意識を明示し、関連する文献講読を行う。

参考文献資料を収集し分析する。

個別に研究（過程）の報告を行い、指導を受ける。

教科書

指定しない。

参考書

各自の研究に応じて適宜示す。

備考

Google Classroomを資料提示などに活用する。

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題を探求し、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

この演習は、“ビジネス・リスク”に特化したゼミ形式で行う。【学生主体で運営する】

3年次の経営危機管理学演習および論文作成にて修得した知識を、社会からの要請や当該分野の到達段階を考慮した上で、さらに発展させた履修生個々の独自（オリジナリティー）の視点から研究テーマ（課題）を設定し、それにもとづいた調査・分析などを通して、設定した研究テーマを深掘させながら、オリジナリティーのある成果を卒業論文（以下、論文）としてまとめる。

論文の作成過程では、専門的知識や技術の獲得を図るとともに、課題解決の方法を学ぶ。また、自らの考えや研究成果を論理的に記述し、口頭発表する能力の習得も目指す。

並行して開講されている専門文献購読において購読した専門書からの修得内容も論文に取り込むことで成果の底上げをしていく。

スケジュールとして、研究テーマおよび概略（600字）の提出は、5月27日を目処とする。

後期は、12月16日を目処に作成した論文を提出し、要旨は2023年1月20日を目処として作成・提出する。もし、論文に修正が有る場合は、要旨提出と同じに修正した論文を提出する。

* 上記スケジュールは予定であり、学科スケジュールにより変更になる場合がある。

※Google Classroomのクラスコード：p3mqje7

到達目標

1. 課題（研究テーマ）の重要性を広い視野から説明できる
2. 課題（研究テーマ）解決に必要な基礎的・専門的知識を整理・説明できる
3. 研究遂行上の問題を解決するための計画を立案できる
4. 課題（研究テーマ）解決に必要な情報を効率よく収集し、考察することができる
5. 効果的なプレゼンテーション用資料を作成できる
6. 研究成果を日本語で、論理的かつ正確に記述できる
7. 研究活動を継続的に遂行できる

評価方法

（履修生が4～5人の場合の点数であり、増減時は点数を変更する）

（到達目標 1、2、3、4、5、6、7を評価）

・授業時間内の発表・質疑・応答での評価：1週4コマ、年間120（2022年発表108、2023年発表4）回く【卒業論文発表会】（仮称）出席を8回分の補講扱いとする>

・毎週1200字以上の新規部分での論文を作成し、その内容を各回15分以上の発表（発表内容の重複は不可）で0.5点（15分以下は0点）、発表内容への質問とアドバイス（同じ内容の質問・アドバイスは不可）0.2点、質問への回答0.2点の加算方式

【小数点以下は最終で合計した後で四捨五入（100点満点）】

注意事項

このゼミナールに参加する履修生は、次の内容を留意および準備すること

《運営上の注意事項》

1)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要

* 10分以上の[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする

2)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要

* [証明書]がない場合の途中退出は欠席扱いとする

3)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合<教員判断>によって、退出させ欠席扱いとする

4)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止

*特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする

5)連絡は、L I N Eを媒体とする（端末不所持の場合はメール）

6)《規定授業時間数の3分の1》以上を欠席（欠席扱い含む）した場合は単位を認定しない

7)発表は各回、輪番制とし当番が発表できない、あるいは発表時間が短い（15分未満）場合は次の履修生が行い、欠席時を埋める発表はなし

8)授業回数（90分／回）は、週4回（8単位）

授業計画

第1回 オリエンテーション

第1週～第28週 卒業研究（卒業論文）の発表
（プレゼンテーションでの発表と質疑応答）

第29週～第30週 【卒業論文発表会】（仮称）への参加と発表

授業外学習

時間外学習時間の目安：120時間

卒業論文・発表資料の作成は授業時間外で資料収集や執筆作業を行う。

授業時間内では、授業時間外で作成した論文（途中経過も含む）および、まとめたパワーポイントを発表し、履修生が相互に議論する。

*発表（授業時間）の際、それまで執筆した論文および発表用パワーポイントのデータを“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

*履修生は、他の履修生の論文を随時確認（熟読）し、内容（発表含む）に対する質問やコメントおよび正誤（誤字・脱字含む）チェックを行う

*履修生は、4年次対象の“キャリア支援行事（就職ガイダンス・セミナーなど）”には他の履修授業と重ならない限り必ず出席する

*履修生は、毎年2月中旬に開催予定の【卒業論文発表会】（仮称）で必ず発表する（発表しないと、合格判定されない）

教科書

教科書は、使用しない。

参考書

新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）、講談社（新書）、小笠原 喜康、ISBN_9784062880213

卒業論文執筆に使用する文献（参考文献含む）などは、各履修生が用意する

備考

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみいだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

到達目標

1. 自身の関心に従い、課題（研究テーマ）の設定ができる。
2. 課題（研究テーマ）解決に必要な基礎的・専門的知識を整理・説明できる。
3. 研究遂行上の問題を解決するための計画を立案できる。
4. 課題（研究テーマ）解決に必要な情報を効率よく収集し、考察することができる。
5. 効果的なプレゼンテーション用資料を作成できる。
6. 研究成果を日本語で、論理的かつ正確に記述できる。
7. 研究活動を継続的に遂行できる。

評価方法

ゼミへの貢献40%（到達目標2、5を評価）、卒業論文作成60%（到達目標1、3、4、6、7を評価）
ゼミへの貢献40%は、中間発表・レジュメ内容、課題への取り組み方、発表内容・議論への積極的な参加で総合評価を行う

注意事項

- ・規定授業時間数の3分の1以上欠席した場合は単位を認定しない

授業計画

第1週：オリエンテーション
第2週～第3週：研究テーマの設定、文献の収集および論文構成指導
第4週～第9週：文献レビュー、調査分析手法、論文作成スケジュール作成
第10週～第16週：個別指導
第17週～第18週：中間発表
第19週～第20週：論文構成等の指導および個別指導
第21週～第25週：個別指導
第26週：卒業論文の完成及び仮提出
第27週～第29週：個別指導
第30週：卒業論文の完成及び提出

授業外学習

時間外学習時間の目安：120時間

卒業論文の作成は、研究計画に基づき、授業時間外で作業する。
授業時間内でレポート・論文の書き方をマスターし、授業時間外で資料収集や執筆作業を行い、進捗状況を発表内容にまとめ、授業時間内にて発表する。ゼミ生が相互に議論する。
＊発表（授業時間）の際、それまで執筆した論文および発表用プレゼンテーションツールの写し（コピー）を教員と他のゼミ生分、用意すること
＊ゼミ生が相互に相手の論文を随時確認（熟読）し、内容（発表含む）に対する質問やコメントおよび正誤（誤字・脱字含む）チェックを行うこと
＊ゼミ生は、毎年2月中旬に開催する【卒業論文発表会】で発表すること

教科書

教科書は、使用しない。

参考書

卒業論文執筆に使用する文献（参考文献含む）は、各ゼミ生がテーマにあわせて用意する。

備考

特になし

卒業研究（21685）

通年

Graduation study

危機管理学部 危機管理学科

年次	4 年
対象	25 ～ 23 R
単位数	8．0 単位
担当教員	 田原 静

授業の概要

卒業研究は、各教員のゼミに分かれ、経済・経営問題を中心に、関連する災害防止、国際、法律分野を含めたリスクと危機に関する諸問題をみいだし、問題点を洗い出す。基礎知識を広く渉猟するとともに、それをもとに専門分野に踏み込んで、どんな解決策が考えられるのかをまとめる。その場合、いくつかの前提条件を考慮しながらの考察を進める。自主性と計画性を重視したねばり強い勉学態度を涵養していく。たとえば、一例を示すと、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を中心テーマとし、専門知識や経営戦略の視点で取り組む各自の研究を多様な視点から考察し、卒業論文を作成する。論文作成と発表を通して、自主的、継続的、計画的に学習できる能力を身に付けさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために学生が主体的に学び、論文を完成させる。

到達目標

- 1 自ら研究課題を設定して研究にあたり、期限内に卒業論文としてまとめることができる
- 2 研究内容をプレゼンテーションし聞き手に説明することができる
- 3 質疑応答に対応することができる

評価方法

ゼミ中での発表40%(到達目標1,2を評価)、最終レポート40%(到達目標1,2を評価)、態度20%によって評価する。

注意事項

- ・自身の研究であるので、主体的に取り組むこと。
- ・締め切りがあるものなので、スケジュール管理に気を配ること

授業計画

- 1週：オリエンテーション
- 2週～29週：各自の課題に沿って研究を進める。期日までに卒業論文を提出する。
ゼミ各員の進行状況を見ながら、中間発表や発表演習を行う
- 30週目：卒業研究発表会で発表し質疑応答を行う

授業外学習

- ・研究については、各自主体的に取り組むこと
- ・発表担当となった場合は、その事前準備(レジメ、発表内容要約等)を行うこと

教科書

なし

参考書

ゼミ内で適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	28 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 ブラダンスジツ

授業の概要

この科目では、経済・経営分野の知識を身につける。現代の情報化社会において、企業経営に欠かせない情報の活用とそれを支える情報技術（I T）について学ぶ。経営戦略という観点から修得しておくべき、経営上の課題を分析・解決するための、経営情報論の手法について、事例を交えて概要を把握する。さらに、I Tを利用して組織目的や戦略を適切に実現できるように、大学生が身につけておくべきリテラシーとしてのデータサイエンスの基礎知識を得る。特にデータサイエンスの応用例としてマーケティング、品質管理などの様々な分野における実際のデータ活用の事例を紹介する。また、グループプレゼンテーションによって企業経営における情報技術の進展について学修する。

【アクティブラーニングの実施】グループディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション
【フィードバック】】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
【I C Tを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

企業経営における経営情報システムの役割と、企業組織はどのようにして有効な情報処理活動を行うことができるのか、また行うべきなのかについて、多方面から考察できるようになる。

- 1．情報技術の進展とコンピュータ・ベースの情報システムについて理解し、説明ができる。
- 2．「情報を処理する仕組み」の概念を理解し、説明できる。
- 3．情報技術の進展による企業経営戦略の意識改革について説明できる。

評価方法

- 講義に取り組む姿勢（小テスト等）2 0 %（到達目標 1 を評価）
- 課題レポート3 0 %（到達目標 2、3 を評価）
- プレゼンテーション5 0 %（到達目標 1、2、3 を評価）

注意事項

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクション：情報社会の到来
第2回	経営資源としての情報：企業活動を支える源泉
第3回	企業経営と経営情報システム：顧客情報管理システム
第4回	販売管理・発注管理：コンビニエンスストアの仕組み
第5回	サプライチェーンマネジメント
第6回	企業－消費者間電子商取引：ネットショッピングがもたらした消費行動の変化
第7回	マーケティング：消費者の声を企業活動に活かす仕組み
第8回	グループディスカッション：グループ分け・プレゼンテーションテーマ決定
第9回	グループディスカッション：プレゼンテーション資料作成
第10回	グループワークによるプレゼンテーション
第11回	データサイエンスの社会的役割
第12回	データサイエンスの手法の紹介

回数	内容
第13回	コンピュータを用いたデータ分析の初歩
第14回	データサイエンスの応用事例
第15回	ふりかえり、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 講義資料等の復習、ノート整理を行う。(毎週1.5時間程度)
- 2) 企業経営において、どのように情報システムが関わっているのか、最新IT技術について新聞やニュースでチェックし、より関心を高める。(毎週2.5時間程度)

教科書

使用しない

参考書

- ① 経営情報システム (宮川 公男 (編集), 上田 泰) ISBN-13 978-4502091704
- ② 経営情報システム教科書 (武藤 明則) ISBN-13 978-4495384111
- ③ 教養としてのデータサイエンス (北川 源四郎, 内田 誠一, 川崎 能典, 佐久間 淳, 孝忠 大輔, 竹村 彰通 et al.) ISBN-13 978-4065238097
- ④ データサイエンスのための数学 (椎名 洋, 姫野 哲人, 保科 架風, 清水 昌平) ISBN-13 978-4065169988

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	1 年
対象	28 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 小西誠詞

授業の概要

新型コロナウイルス感染症が世界中で蔓延し社会・経済活動等が停滞しているが、「社会の安全・安心」が確立されていてこそ経済等の成長が望める。このように、「地域の安全・安心」が保たれていることは、すべての「社会・経済活動の基盤」であり、その大きな部分を警察活動が担っている。本講義では、警察組織の使命・役割、実態、部門別活動状況、課題等について説明し、その重要性等について理解を深め、社会に貢献する人材の育成を図るとともに、受講生の将来の職業選択の一助になれば幸いである。

到達目標

- 1.警察の存在が社会、経済等に与える影響を理解できる。
- 2.警察の役割、制度、関係法令、職務権限等が理解できる。
- 3.犯罪情勢等に対して警察がとるべき対策について理解できる。
- 4.部門別警察行政の傾向等が理解できる。
- 5.警察官募集、採用状況等が理解できる。

評価方法

授業に取り組む態度 2 0 %、概ね前半の講義終了時点で試験 3 0 %（到達目標 1，2 を評価）、講義終了時点で試験 5 0 %（到達目標 3，4 を評価）を基準とする。

注意事項

授業中の私語は禁止する。数回注意しても私語をやめず、講義に支障が出る場合は退出を指示する。
日常生活の中で、警察に関係する事件・事故の報道等に関心を持つこと。

授業計画

- 第 1 回 オリエンテーション及び警察の制度
- 第 2 回 犯罪情勢の推移と犯罪に強い社会を実現するための行動計画等
- 第 3 回 国際的な警察行政
- 第 4 回 警察行政と報道
- 第 5 回 警察法、警察官職務執行法
- 第 6 回 刑事訴訟法
- 第 7 回 警察官の倫理、裁量、職務倫理
- 第 8 回 生活安全警察
- 第 9 回 地域警察、刑事警察
- 第 1 0 回 犯罪鑑識と科学捜査
- 第 1 1 回 組織犯罪対策（暴力団等）
- 第 1 2 回 組織犯罪対策（薬物、銃器、特殊詐欺）
- 第 1 3 回 交通警察、警備警察
- 第 1 4 回 総務・警務警察
- 第 1 5 回 警察官の魅力と採用試験等の状況
- 第 1 6 回 まとめ

授業外学習

学習時間の目安は 6 0 時間である

教科書

指定する教科書はありません。

参考書

講義中に必要に応じて配布します。

備考

特になし

リスクマネジメント（21688）

後期

Risk Management

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

私たちが生活する現代社会には、さまざまなリスクが存在している。企業・家庭・官公庁などが関係しているリスクがあり、その立場が異なればリスクそのものの質・量・程度は異なってくる。

本講義では、前半でリスクの概念やリスクマネジメントに関する基礎的な内容について体系的に学習し、後半では現代企業におけるビジネスリスクにおけるマネジメントを中心に学習することで、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につける。

※この講義を履修する前に、「危機管理学概論」を修得しておくことが望ましい。

※Google Classroomのクラスコード：sv3b7r3

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションと調査学習およびグループ発表を取り入れている。

到達目標

- 1.リスクマネジメントを取り巻く用語について理解できる
- 2.リスクマネジメントの意味と手法を理解し説明できる

評価方法

・学期末試験：30%（到達目標1を評価）

※但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】

・授業時間外での作成レポートの内容で評価(該当授業回内での提出14回)：42%（到達目標1、2を評価）

※但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回分は採点しない】

・平常点〔授業への積極的参加および態度〕(グループ・ディスカッションと発表の内容)：28%（到達目標2を評価）

※但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】

★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない。

注意事項

1)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は[証明書]などを提示の上、事前許可要

2)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要

＊10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする

3)授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする

4)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする

5)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止

＊特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする

6)授業中の飲食禁止

＊教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする

7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

授業計画

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	オリエンテーション リスクとは？ リスクマネジメントの目的
第2回	リスクから損失へのメカニズムを知る
第3回	リスクマネジメントと保険の関係
第4回	リスクマネジメントは前向きな行動
第5回	リスクマネジメントは意思決定システムである
第6回	リスクマネジメント経営とは
第7回	リスクマネジメントの発展の歴史
第8回	日本社会の大きな流れ（自己責任社会の到来）
第9回	社会構造の変化 社会の価値観の変化によるハザード（マーケットの変化）
第10回	組織内の意思決定のズレ
第11回	信じていたものの転換
第12回	コンプライアンス経営の必要性
第13回	グローバルスタンダード・ルールへの転換とそのハザード その他の大きなハザード
第14回	近年の重要リスク
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：60時間

・次の授業までに掲載されたリスクに関連したニュース（時事）の中から、自分に一番影響がある（リスクが発生する）と考えられる1件を選択すること
※但し、“新型コロナウイルス（COVID-19）”関連のニュースは除く

・選択したニュース（時事）に対して、自分へのリスクの関係性と考えを含めたレポートを600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること
※発表時にグループメンバー全員のレポートを提出すること《後からの提出は、未提出扱いとする》
（4.2時間／回） 14回

教科書

教科書は、使用しない

参考書

図解 リスクのしくみ、東洋経済新報社、石井至、ISBN:9784492092989

図解 入門ビジネス 最新リスクマネジメントがよ〜くわかる本、秀和システム、東京海上日動リスクコンサルティング、ISBN:9784798032887

リスクマネジメント論トレーニング、創成社、鴻上喜芳、ISBN:9784794424167

備考

民法（財産法）（21689）

後期

Civil Law (Property Law)

危機管理学部 危機管理学科

年次	1 年
対象	28 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

民法は私法分野の最も基礎となる法律であり、学習の手順としては民法の内容を理解した上で、会社法を学ぶことになる。この講義で理解することは、契約をはじめとした社会の仕組み、法人設立の意義や物権・債権の区別を中心とする財産権の性質、時効、担保、不法行為などの基礎的な事項である。これにより経済・経営分野の知識を身につけることができる。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうち最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

1. 物権や債権について理解し、説明出来る。
2. 契約について理解し、説明出来る。
3. 不法行為について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1~4を評価）

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%（到達目標1~4を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

特になし。

授業計画

第1回 民法の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 民法は私法・民事法の分野に属しているが、法人や財産権についての基本原則を提供しており、商事法を学ぶための必須基本分野ともなっている。私法分野の基礎としての民法の枠組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第3回 権利主体について学ぶ。法人が「人」であることを理解出来るようになる。会社が法人の一形態であることも学ぶ。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 財産権の種類について学ぶ。物権と債権の違いを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 所有権と占有権について学ぶ。物権の代表としての所有権の取得について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 担保物権について学ぶ。物権を物的保証として提供する仕組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 売買契約の特徴について学ぶ。合意による債権取得の仕組みについて理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 貸借契約の仕組みについて学ぶ。貸借によって占有を相手方に移すが所有は移らないという仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 不法行為について学ぶ。合意はないにも拘らず相手方に債権が発生する仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 債務不履行について学ぶ。契約違反とは債務を履行しないこと、すなわち債務不履行であることを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 融資と担保について学ぶ。商法・会社法への橋渡しとして、銀行による融資（民法上は金銭消費貸借契約）の仕組みと担保の設定方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 物的担保と人的担保について学ぶ。実務上発達している種々の担保設定方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 強制執行について学ぶ。債務不履行が生じている場合の強制執行の方法について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 少額訴訟について学ぶ。簡易かつ迅速な方法で勝訴判決を得られる少額訴訟の手続について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 民法について知ることと商事法の基礎について学ぶことが出来た。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。民法を学ぶ場合には、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）

第2回 予習：民事法と刑事法の違いについて予め自分で調べることが大切である。復習：民法の基本構造を理解出来るようになる。（標準学習時間120

分)

第3回 予習：法人について予め自分で調べることが大切である。復習：権利主体とは法的に何を意味しているのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第4回 予習：財産権の種類について予め自分で調べることが大切である。復習：物権と債権の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第5回 予習：物権について予め自分で調べることが大切である。復習：所有権の性質を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第6回 予習：担保物権について予め自分で調べることが大切である。復習：質権や抵当権について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第7回 予習：債権について予め自分で調べることが大切である。復習：売買契約の際に債権がどのように発生し、それらが互いにどういう相関関係になるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第8回 予習：賃貸借や消費貸借について予め自分で調べることが大切である。復習：売買契約と貸借契約との違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第9回 予習：事故が発生した際の責任の所在について予め自分で調べることが大切である。復習：不法行為の形態と債権の発生するメカニズムを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第10回 予習：契約違反について予め自分で調べることが大切である。復習：債務不履行とは債権/債務関係がどうなることを言うのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第11回 予習：銀行融資と担保権設定について予め自分で調べることが大切である。復習：金銭消費貸借契約の際には担保設定することが通常であることを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第12回 予習：担保権の設定について予め自分で調べることが大切である。復習：実務上で発達してきた種々の担保設定方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第13回 予習：強制執行について予め自分で調べることが大切である。復習：強制執行の仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第14回 予習：少額訴訟について予め自分で調べることが大切である。復習：判決での勝訴の獲得とその後の強制執行の手続について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

教科書

河野正英『（新版）商取引法講義』大学教育出版（ISBN: 978-4-86692-136-5）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

リスク・コミュニケーション（21690）

前期

Risk Communication

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

リスク・コミュニケーションの目的は、現代社会に遍在するさまざまなリスクに対処するために社会全体の共有資源をどのように配分するのかについての社会的合意形成を促すことである。

本講義では、人間が生活していく上での社会的なリスクについての取り組み事例を取り上げながら、リスクの社会的受容についてのリスク・コミュニケーションの意義と問題点について学習をし、社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につける。

※この講義を履修する前に、「危機管理学概論」と「リスクマネジメント」を修得しておくことが望ましい。

※Google Classroomのクラスコード：cph2bqx

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションと調査学習およびグループ発表を取り入れている。

到達目標

- 1.リスク・コミュニケーションの用語について理解できる
- 2.リスク・コミュニケーションの基礎的知識を理解し、説明できる

評価方法

- ・学期末試験：30%（到達目標1を評価）
 - * 但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】
 - ・授業時間外での作成レポートの内容で評価(該当授業回内での提出14回)：42%（到達目標1、2を評価）
 - * 但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
 - ・平常点〔授業への積極的参加および態度〕(グループ・ディスカッションと発表の内容)：28%（到達目標2を評価）
 - * 但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
- ★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない

注意事項

- 1)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は[証明書]などを提示の上、事前許可要
- 2)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
 - * 10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
- 3)授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席で未確認の場合は欠席扱いとする
- 4)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
- 5)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
 - * 特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする
- 6)授業中の飲食禁止
 - * 教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする
- 7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする
 - * 但し、【教科書】は著作権があるためアップロードしない

授業計画

- ・第1週目から第8週目までは、高校公民の教科書「公共的な空間に生きる」に対応
 - ・第6週目から第12週目までは、高校公民の教科書「持続可能な社会を目指して」に対応
- *第6週目から第8週目は、両方に対応している

1週目：オリエンテーション

はじめに

- *子どもを取り巻く環境：PP76-79.

2週目：リスクコミュニケーションって？/リスクコミュニケーションは何のため？

- *共に生きる社会へ：PP80-83.

3週目：言葉に対する誤解

- *平和な世界どうやって：PP116-119.

4週目：リスクコミュニケーションのポイント

- *変化する日本の働き方：PP66-69.

5週目：平時と緊急時のリスクコミュニケーション

- *災害列島に生きる：PP96-99.

6週目：食品と放射性物質

- *地球環境を守るために：PP100-103.

7週目：放射性物質のリスクの大きさ

- *エネルギー政策の未来：PP52-55.

8週目：社会のリスクを読み解く力＝リスクリテラシー/「場」作り・ネットワーク作り/

安全で安心な社会を作るために（1）

- *いのちと科学を考える：PP92-95.

9週目：リスク評価（食生活を中心に）/「ゼロリスク」はなぜない？

- *借金頼みの財政：PP36-39.

10週目：ハザードからリスクへ：食品とリスク評価の歴史/「ハザード」と「リスク」の関係

- *加速する人口減少：PP58-61.

11週目：“ハザード”はどのように決まる？/リスクアナリシス/国ごとのリスク評価

- *社会保障のこれから：PP62-65.

12週目：リスク評価の独立性/リスク評価の要素

- *情報社会の階段の先に：PP88-91.

13週目：リスク評価の手順と限界/動物実験データを元にする場合/

安全側に立って評価される/新しい知見によって変化する

#気候変動リスク

#自然災害リスク

14週目：リスク評価の各手法

#化学物質リスク

#放射線リスク

#感染症リスク

15週目：リスクコミュニケーション（まとめ）/リスクの大きさを伝える

安全で安心な社会をつくるために（2）

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・授業計画【1週～12週】：次回の授業に、各自が*マーク（指定したテキスト）の項目を熟読し、テーマを決めた上で教科書以外に各自で必ず資料（図書・雑誌記事、新聞、判例、テレビ番組、Webサイト：出典の記入は必須）を検索（人からの聞き伝えは不可）し、それに対して“どのようなリスクが含

まれているか、どの程度のリスクか、そのリスクに対してどう対応するか”を自分の意見を必ず含めたレポート600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること（4.5時間／回）13回

・授業計画【13・14週】：次回の授業に、各自が#マークの項目について、各自で必ず資料（図書・雑誌記事、新聞、判例、テレビ番組、Webサイト：出典の記入は必須）を検索（人からの聞き伝えは不可）し、その中の1件に対してテーマを決めた上で、それに対して“どのようなリスクが含まれているか、どの程度のリスクか、そのリスクに対してどう対応するか”を自分の意見を必ず含めたレポート600字以上（テーマは必須で字数に含まない）で作成・持参し、授業内でのグループ・ディスカッションおよび発表可能な状態で授業に参加すること（1.5時間／回）1回

※上記の発表時にグループメンバー全員のレポートを提出すること《後からの提出は、未提出扱いとする》

教科書

＊注意：同じ年度に開講される前期開講「リスク・コミュニケーション」・読替「リスクコミュニケーション」と、後期開講「危機管理と社会制度」の教科書は同じですので、重複して購入しないでください。

書名　：2022年度版　ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編（1・2・準2級対応）

監修　：日本ニュース時事能力検定協会

発行　：毎日教育総合研究所／毎日新聞社

発売　：毎日新聞出版

ISBN　：978-4-620-907543

参考書

リスクコミュニケーション、エネルギーフォーラム、西澤真理子、ISBN9784885554247

正しいリスクの伝え方、エネルギーフォーラム、小島正美、ISBN9784885553875

リスクガバナンスの社会心理学、ナカニシヤ出版、広瀬幸雄、ISBN9784779508530

社会生活からみたリスク、岩波書店、山田昌弘・佐藤学_他、ISBN9784000284790

備考

教科書を購入時は、教科書欄の【注意】を確認してください。

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 徳田美智

授業の概要

経営の知識をリーダーシップ研究の多様なアプローチについて学習し、リーダーシップの基本的な知識を習得する。リーダーの具体的行動とフォロワーとの相互関係について考え、マネジメントに求められる効果的なリーダーシップスタイルとは何かを学ぶ。
それぞれが「自分の持ち味を活かしたリーダーシップ」と「理想的なリーダーシップ」について、考えを深めるきっかけとする。
この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

【アクティブラーニング】

- ・グループ・ディスカッションやケース分析を取り入れている

【フィードバック】

- ・課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】 本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。

- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

到達目標

- 1．リーダーシップ研究の基本的な知識を理解し、説明できるようになる。
- 2．リーダーの具体的行動とフォロワーとの相互関係について考え、マネジメントに求められる効果的なリーダーシップスタイルについて説明できるようになる。
- 3．理想的なリーダーシップについて、企業や組織活動の視点から考察できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2、3を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標1~3を評価）
授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

経営学概論を事前に受講している事が望ましい。

【講義中のスマホ・タブレットの使用について】

講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	イントロダクションーリーダーとリーダーシップー
第2回	リーダーシップとは
第3回	モチベーションー何によって動機づけられるのかー
第4回	組織コミットメントーコミットメントの意義ー
第5回	キャリア・マネジメント 1ー個人主導への変化とはー
第6回	キャリア・マネジメント 2ーキャリアデザインー
第7回	組織ストレスーストレスとその対処方法ー
第8回	チーム・マネジメントーチームの成功に向けてー
第9回	組織学習ー誰がどのように学習するのかー
第10回	組織変革ー変化への対応ー

回数	内容
第11回	組織文化－リーダーと組織文化の形成－
第12回	組織的公正－制度設計への課題－
第13回	ダイバーシティ・マネジメント
第14回	プロフェッショナル・マネジメント
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

- 1) 配布資料に基づき、復習・ノート整理を行う。（毎週2.5時間程度）
- 2) 授業で紹介する文献や資料を読み、講義への理解をより高める。（毎週1.5時間程度）

教科書

資料は、講義時に適宜配布します。

参考書

服部泰宏著『組織行動論の考え方・使い方』有斐閣（2020）ISBN 978-4641165663

開本浩矢著『組織行動論』中央経済社（2019）ISBN978-4502295614

必要に応じ授業中に適宜紹介

備考

特になし

プログラミング基礎 (21692)

後期

Computer Programming Basics

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	👤 村山公保

授業の概要

社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識及び技能を身につけるため、プログラミングの基礎について学ぶ。具体的にはシステム開発ではプログラム言語を用いてプログラミングが行われていることを理解したうえで、コンパイラとインタプリタの違いと特徴、変数と演算の概念を理解し、順序制御、選択制御、繰り返し処理、配列、関数を使ったプログラミングの基礎について学ぶ。

具体的には、STEAM教育を取り入れ、センサーやアクチュエータを使い、目に見える形で物理現象を体験できる電子工作的なプログラミングを行う。機材としてはドローン(DJI製Tello EDU)やマイコンボード(Arduino Uno)を使用し、ハードウェアとソフトウェアの関係、入力と出力が体感しながらプログラミングを体験する。

また、学ぶことと社会との関連をイメージできるようになるために、「実社会でのドローンの活用」について、外部講師による講演を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ、Google Forms)に提出する。

到達目標

1. 情報処理の基本的な知識を身につける。
1. 身の回りにある機器の仕組みについて意識が高まる。
2. プログラムとはどのようなものかイメージができるようになる。

評価方法

レポート課題50%(到達目標の1、2、3、4を評価)、および、定期試験50%(到達目標の1)の重みで判定する。

注意事項

- ・パソコンがある教室を使用する。
- ・授業の内容には情報処理技術者試験で出題される内容を含んでいる。

授業計画

回数	内容
第1回	使用する設備や器材の紹介
第2回	外部講師による講演「ドローンの活用事例」
第3回	ドローンを使ったプログラミング体験
第4回	ドローンを使ったプログラミング応用
第5回	プログラムを観察しよう
第6回	プログラムの作り方
第7回	データの表現方法
第8回	プログラミングを学ぶために必要なコンピュータの知識
第9回	コンピュータは計算機
第10回	変数とメモリ
第11回	処理の流れ
第12回	関数
第13回	ソフトウェア開発の基礎

回数	内容
第14回	プログラミングの応用
第15回	さらに深く学ぶために

授業外学習

学習時間の目安：時間内、時間外合わせて合計60時間

- ・教科書や参考書、配布資料をよく読み、わからないところをまとめてくる。
- ・授業時間内に終わらなかったことをやってくる。
- ・課題に取り組む。

教科書

村山 公保著、「Cプログラミング入門以前 第2版」、マイナビ出版、2019、978-4-839-96863-2

参考書

村山公保著、「Arduinoによるコンピュータプログラミング入門」、筑波技術大学、2015、http://www.ntut-braille-net.org/finished_list/finished-116.php

備考

参考書の「Arduinoによるコンピュータプログラミング入門」については、PDF、または印刷物を配布する予定

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 石原一孝

授業の概要

- ・ 現役の消防職員から消防に関する知識・技術等を学ぶ。
- ・ 高い防災意識と知識、技能を有し、日頃から身の回りの備えを行いながら、絶えずそのスキルアップに努める地域防災のリーダーとなるために必要な、知識技能を習得する。
- ・ 消防業務に精通し、過去の火災事例の研究や、消防法令、消防用設備等について理解を深める。いざというときに対応できる火災、救急救助の知識、技術を習得する。
- ・ 地域社会の構成員として活躍できることを目的とする。

到達目標

- 1．日本の消防制度について理解し、消防行政について説明ができる。
- 2．火災予防について理解し、日頃から出火防止の行動ができる。
- 3．防火管理、消防用設備等の基本的な知識を習得し説明ができる。
- 4．応急手当、応急処置の知識を習得し、危険回避行動ができる。
- 5．消防に関する知識を習得し、日頃から危機意識を持った行動ができる。
- 6．災害から身を守り、周囲の人を援護できる行動ができる。
- 7．ロープ結索、三角巾での基本的な結索、止血ができる。

評価方法

・ 授業に取り組む態度や姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 2 0 %（到達目標2、3を評価）、実技 1 0 %（到達目標7を評価）、定期試験 50%（到達目標1～7を評価）として総合的に評価する。ただし、規定授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、受験はできないものとする。授業中の私語、迷惑行為については禁止とし、退出させ欠席扱いとする。スマートフォンやタブレット等、授業に関係のない電子機器の使用、授業中の飲食も禁止とする。これらが認められた場合は退出させ欠席扱いとする。

注意事項

- ・ 行政は、様々な法律に基づいて行われており、必要に応じてその法律を確認すると理解しやすい。
- ・ 消防行政、防災行政について理解することで、課題レポートをまとめやすくなる。
- ・ 過去の火災や災害事例を調査し、その原因や経過を知ることです予防策や対応策が見えてくる。
- ・ ロープ結索、三角巾の取扱い等はある程度の訓練が必要である。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション（自己紹介・授業概要の説明等）
第2回	消防における安全管理
第3回	消防法・予防行政の歴史
第4回	消防法・予防行政の歴史
第5回	消防法・予防行政の歴史
第6回	消防法・予防行政の歴史
第7回	火災事例研究
第8回	火災事例研究
第9回	日本の災害①
第10回	日本の災害②
第11回	日本の災害③

回数	内容
第12回	日本の災害④
第13回	救急業務①
第14回	救急業務②
第15回	救急業務③

授業外学習

- ・授業で紹介した法令は、復習して理解する。
- ・ロープ結索、三角巾使用方法の実技習得に課外での訓練が必要である。
- ・過去に発生した大規模な火災や災害について情報収集し、事例研究する。
- ・中間でのまとめとして、課題レポートの提出を2回求める。

以上の授業外学習のため、60時間以上が必要となる。

教科書

教科書としての書籍は斡旋はしない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書

授業の中で、必要に応じて参考となる本の紹介をする。

備考

授業で三角巾を使用するため、三角巾を各自で購入すること。（第1回授業で説明する）

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 岩井克己

授業の概要

日々の暮らしの中にはさまざまな危険が潜在するが、特に暮らしの中の生活や経済活動でのリスクに焦点をあてた暮らしの安全について理解を深める。社会や経済の変化への対応を学習するとともに、社会保障や安全保障に関する基本的な知識についても学ぶ。特に、国家・自治体の最も基本的な機能は、社会の秩序を維持することによって、社会における自由な経済活動と人々の暮らしの安全を保障することである。本講座は社会の秩序と安全に関わる公務員となるために必要と思われる犯罪学や刑事政策の基礎を身に付けることを目標とする。

【アクティブラーニング】

注目された犯罪事件などを取り上げ事例研究や討議・発表なども行う。

【フィードバック】

レポートのテーマ選定などへの相談、指導を行う。

到達目標

- ①最近の治安情勢と警察・法務など日本の治安維持の仕組みについて理解を深め、最近の国の治安に関する施策についても説明できる。
- ②具体的な犯罪事件などの討議を通じて、刑事法の基礎と犯罪学の概要について学び、刑事政策などについて自分の考えを説明できる。
- ③警察官、刑務官など社会の治安を維持する職業について理解と素養を深め、それに対する自分の適性と可能性について判断することが可能となる。

評価方法

レポート評価：60％（到達目標2を評価）

最終講義直後の試験：30％（到達目標1～3を評価）

講義への参加等の評価：10％（積極的な質問などに対して加点）（到達目標1を評価）

注意事項

- ①オリエンテーションの後、最初の講義において、学生と講師との面談と討議を行います。学生も各自全員、簡単な自己紹介や講義への希望などの説明を行います。
- ②最終日、試験の後、評価対象のレポートのテーマ選定について、個別相談と指導を行います。学生は各自、講義や事前学習中に、自分の関心のあるテーマを選定しておく必要があります。
- ③欠席・遅刻・途中退室・私語は、許可のない限り禁止。

授業計画

授業計画

1日目

- 1 講義要綱（学生と講師との面談と討議 自己紹介、講義への期待など）
- 2犯罪学総論（犯罪統計など） 犯罪学各論（児童虐待等）
- 3犯罪学各論（児童虐待等）
- 4犯罪学各論（少年非行）
- 5犯罪学各論（交通犯罪）
- 6事例研究（桶川ストーカー事件等）
- 7 犯罪学各論（ストーカー・性犯罪等）

2日目

- 8犯罪学各論（財産犯、街頭・侵入犯罪）
- 9犯罪学各論（詐欺・特殊詐欺）
- 10犯罪学各論（企業犯罪）
- 11犯罪学各論（サイバー犯罪）
- 12事例研究（9・11米国同時テロ）
- 13犯罪学各論（国際テロ）
- 14犯罪学各論（組織犯罪）
- 15事例研究（オウム真理教事件）
- 16犯罪学各論（暴力団犯罪）
- 17犯罪学各論（薬物犯罪）

3日目

18刑事政策（刑罰、刑務所、刑務官、被害者対策など）

19事例研究（神戸連続児童殺傷事件）

20刑法総論（構成要件など）

21刑事訴訟法（捜査、逮捕など）

22まとめ（警察官、警察組織、刑務官、矯正組織の特徴など）

試験

個別面談（レポート指導など）

授業外学習

学習時間の目安：60時間

3回の事例研究課題と受講した講義に関連して、各自でレポートのテーマを選定し、資料を収集して1,000字程度のレポートを作成し提出する。

レポートのテーマについて、最終日に個別相談と指導を行うので、事前にレポートのテーマについて、各自、資料収集し研究しておく必要がある。

教科書

特に指定しないが、講義の際にレジュメと資料を用意し配布する。

参考書

主な参考図書

「警察白書」（国家公安委員会・警察庁編、令和4年版等）

「犯罪白書」（法務総合研究所編、令和4年版等）

「犯罪学入門」（渡辺巧著、2009年、成分堂）

「犯罪学ハンドブック」（アンソニー・ウォルシュ著、明石書店、2017年）

「ビギナーズ刑事政策」（守山正、安部哲夫編著、成分堂、平成20年）

備考

「犯罪白書」「警察白書」のバージョンを最新版へ変更

外部から上原美都男講師（元岡山県警本部長、元加計学園理事、元千葉科学大学客員教授）による講話を検討を取り止め

キャリア研究（21695）

後期

Career Research

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	村山公保

授業の概要

社会人になっていくという意識を向上させ、職業観を醸成し、キャリアの形成についての見識を広げるため、倉敷内外で活躍されている公務員(一般、警察、自衛隊など)、企業や団体の役員や職員、起業家など、人生経験豊富な講師陣をお招きして講演を行う。また、グループ討議や学外見学に関する課題を出題し、その発表会を行うことで、自らのキャリア形成について主体的に考え、これからの大学生活や社会生活をどのように充実させていくのかを考える土台とする。

本科目は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(COC 事業)として実施される「くらしき若衆」 の認定に必要な選択科目である。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、フィールドワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】授業に関する学生相互の意見交換等を目的とし、Google Classroom のアンケート機能を活用する。また、学生間での情報共有ができるようにするため、課題は Google Classroom を通じて提示し、Google Classroom(Googleドライブ、Google Forms)に提出する。

到達目標

1. 社会にある職業について知見が深まり、自身のキャリア形成についての意識が高まる。
2. 工場や施設などの見学や参加型イベントへの興味や関心が以前よりも高まる。
3. 特定の課題の解決や目的の達成ために、グループで話し合ったり、グループで行動したり、グループで助け合ったりすることの大切さが理解できる。

評価方法

- ・ Classroomで出題・提出させる最終レポート100%の重みで判定する(到達目標の1、2、3を評価)。
- ・ 最終レポートは「授業の振り返り」として実施する。内容は「それぞれの講演の内容や講演を聞いて得たこと、学外見学の内容と得たこと、グループワークや発表会への取り組みの総括、授業を通して成長した点」について論述するものとする。日頃の学修成果を総括し、授業の振り返りのためのレポートとなっているため、初回の授業から楽しみながら気合を入れて継続的に授業、課題、授業外学習に取り組むこと。
- ・ 課題等の提出物が未提出の場合や品質が低い場合、プレゼンテーション等の課題を行っていないか品質が低い場合には、減点の対象となる。

注意事項

- ・ 外部講師に対して失礼にならないような受講マナーが求められる。授業中は私語を慎み、静かにすること。騒がしい学生は退場処分とし、単位不認定とする事がある。
- ・ 外部講師等の都合により日程や内容が変更になる場合がある。
- ・ グループワークを行うので、グループのメンバと連絡を取り合い、お互いに協力しながら、外部施設見学、レポート作成を行うこと。
- ・ 記録に残すため、講演・発表会等の授業風景を撮影することがある。

授業計画

回数	内容
第1回	(9/29) 授業の方針説明
第2回	(10/6)：外部講師による講演：「政治の仕事とキャリア(仮題)」片岡聡一様（総社市長）
第3回	(10/13)：外部講師による講演：「日本を取り巻く安全保障について (仮題)」谷坂忠俊様（防衛省 自衛隊岡山地方協力本部長）
第4回	(10/20)：外部講師による講演：「最近の治安情勢と警察の仕事」青笹剛様（岡山県警察本部警務部警務課課長補佐）
第5回	(10/27)：外部講師による講演：「勝組の社会人になるために、学生時代に学ばべき事」小童谷靖則様（株式会社 リョービツアーズ 専務取締役）
第6回	(11/ 3)：外部講師による講演：「地方公務員（倉敷市職員）として働くことについて〜防災・危機管理の現場から〜」大本進様（倉敷市総務局防災危機管理室）
第7回	(11/10) 学外見学で学んだことの発表会（1回目）

回数	内容
第8回	(11/17) 前半の授業を総合して「得たこと、気づき」の発表会
第9回	(11/24)：外部講師による講演：「人生100年時代のキャリア戦略」古山誠様（多文化共創研究所）
第10回	(12/ 1)：外部講師による講演：「危機管理と経営戦略(仮題)」岡荘一郎様（倉敷製帽株式会社 代表取締役会長／公益財団法人倉敷文化振興財団 理事長）
第11回	(12/ 8)：外部講師による講演：「地域の未来のためのドローン活用とビジネス(仮題)」青山知之様（日本交通教育サービス株式会社 代表取締役 社長）
第12回	(12/15)：外部講師による講演：「金融機関から見た世の中の変化とキャリア」徳田幸一様（玉島信用金庫 常勤理事 経営企画部長 兼 SDGs室長）
第13回	(1/12)：外部講師による講演：「起業と会社経営」山本篤憲様（株式会社アリオンシステム 代表取締役社長）
第14回	(1/19) 学外見学で学んだことの発表会(2回目)
第15回	(2//2) 後半の授業を総合して「得たこと、気づき」の発表会

授業外学習

学習時間の目安：合計60時間

時間外に自己の能力を高める訓練をすることが大切である。その成果を記録し、最終レポートでアピールできるようにする。

・授業内で学んだこと

外部講師の講演を聞いて「得たこと、気づき」をグループ単位で話し合ってまとめる。まとめた内容は授業中に発表する。

授業の前半と後半で、別々にレポートにまとめる。「授業内で学んだこと」の発表は2回行う。

・学外見学で学んだこと

企業見学、工場見学、イベント参加、体験会参加等をグループ単位で行い、レポートにまとめる。まとめた内容は授業中に発表する。

2箇所(2種類)に参加すること。「学外見学で学んだこと」の発表は2回行う。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

適宜指示する。

備考

特になし

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	👤 徳田美智

授業の概要

株式会社制度が成立・発展した歴史的経緯を踏まえつつ、制度の特徴や現代的課題について理解する。企業に関する知識をさらに高めるため、ケース分析を通して、企業が直面する課題について経営戦略論について理解を深める。
この科目は、経済・経営分野の知識を身につけることを目的とする。

- 【アクティブラーニング】グループ・ディスカッションならびにプレゼンテーションを取り入れている
- 【フィードバック】課題（小テスト、レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- 【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroom を活用して双方向型授業を展開する。
- ・授業時間外での授業や課題に関する質問は、Google Classroom のストリーム機能を活用し、質問できるようにする。

【実務経験のある教員による授業科目】元 マツダ株式会社勤務：設計関連システムの企画・運用支援の経験に基づき、情報システムの重要性、情報技術が可能にした企業活動の変化と特性について、経営リスク回避、経営課題解決の観点から授業を行う。

到達目標

- 1．株式会社制度の特徴や現代的課題について説明できる。
- 2．日本企業の経済・経営・財務データを読み解き、活用できる。
- 3．企業の成長過程とそこで抱える経営課題について説明できること。企業の課題解決について、経営戦略の視点から考察できるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 2 0 %（到達目標1を評価）、課題レポート 3 0 %（到達目標2、3を評価）、定期試験 5 0 %（到達目標1~3を評価）
授業回数の3分の1以上欠席した場合は、単位を認定しない。

注意事項

経営学概論を事前に受講している事が望ましい。
【講義中のスマホ・タブレットの使用について】
講義に関連するトピックの検索などは、使用OKです。私用の電話やメール、SNS、動画の視聴など講義以外の目的での使用は禁じます。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	日本における会社の種類と発展
第3回	企業とステークホルダー
第4回	CSRと経営環境
第5回	企業倫理とリスクマネジメント
第6回	新たな価値を追求する企業 1（社会的企業）
第7回	新たな価値を追求する企業 2（NPO企業）
第8回	新たな価値を追求する企業 2（長寿企業のビジネスモデル）
第9回	日本の中小企業の現状と課題
第10回	業界の構造分析
第11回	企業を取り巻く環境と分析手法
第12回	経営資源の捉え方（コア・コンピタンス）

回数	内容
第13回	経営戦略の理論と実際 1（競争戦略）
第14回	経営戦略の理論と実際 2（M&A、戦略的提携）
第15回	ふりかえり、まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 6 0 時間

- 1）配布資料に基づき、復習・ノート整理を行う。（毎週 2． 5 時間程度）
- 2）企業経営に関する新聞やニュースを日々チェックし、分析を行なう。（毎週 1． 5 時間程度）

教科書

資料は、講義時に適宜配布します。

参考書

佐久間信夫編著『よくわかる企業論<第 2 版>』ミネルヴァ書房（2018）ISBN 978-4623076505

嶋口充輝、内田和成、黒岩健一郎編著『1からの戦略論<第2版>』碩学舎（2016）ISBN 978-4502167416

必要に応じ授業中に適宜紹介

備考

特になし

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

世界的に年々交流人口は増加しており、それらを視野に入れた観光産業・観光ビジネスは今後ますます多種多様になっていくと考えられる。観光ビジネスは、目に見えない「おもてなし」も含めて想像以上の広がりを見せている。本講義では最新の情報を交えながら解説する。また、日本政府が観光立国を掲げている近年、都市から離れた地域が存続していくためには、観光による活性化、すなわち経済学的な観点からも観光ビジネスの必要性がある。このような政府戦略や地域創生の概念も学びの対象とする。この授業の中心は、あくまでも稼ぐための観光である。観光産業の企業からも講師を迎えて講義を展開する。地域社会が抱える経営・経済活動の問題に危機管理の知識をもちつつ、専門分野の諸課題を自ら解決し持続的な発展に寄与できる人材の養成を目標とする。

【アクティブラーニング】調査学習（グループ）、課題解決型学習、プレゼンテーションを取り入れている。例年フィールドワークを実施しているが、社会的状況によって不可能になる場合がある。（感染症・自然災害など）

【フィードバック】事前調査に関してプレゼンテーションやレポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

到達目標

この講義は、経済・経営分野の知識および技能を身につけることを目的として、以下のように目標を設定している。

- 観光ビジネスについて学び、それらが地域経済にどのように影響するのかを考察することにより、企業や社会の持続的な発展に寄与できる。
- 観光政策と地域振興について理解し説明できる。
- 観光とマーケティングについて理解し、危機管理の知識をもって諸問題を解決できる。
- 観光産業の変遷を学び、観光と将来への展望について考察することにより、企業や社会の持続的な発展に寄与できる。

評価方法

- レポート、およびプレゼンテーション 50%（到達目標 1～4 を評価）
- 定期試験 50%（到達目標 1～4 を評価）

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- 1年次開講の「観光概論」の履修が望ましい。
- 各自興味のある観光産業について調べたり、さまざまな角度から観光ビジネスを理解する態度を養うこと。
- 観光に関する日々のニュースや時事問題は観光に繋がっていることが多く、そこから課題を抽出し観光の力で解決する方策を考察すること。(PBL、アクティブラーニング)
- 政府や自治体のホームページからどのような観光戦略を打ち出しているかを読み、観光の力を深く理解すること。
- 観光ビジネスの対象となる市場について考察すること。
- 本講義は「旅行業」国家試験の対策科目ではないが、受験希望者には別途学習の指導が可能である。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 オリエンテーション（授業概要と進め方）
第2回	第2回 観光ビジネスについて（基本構造）
第3回	第3回 観光ビジネスについて（市場）
第4回	第4回 観光ビジネス（旅行業）について。外部講師を招聘する予定です。（日時が変更になる場合があります。）
第5回	第5回 観光ビジネスとマーケティングについて
第6回	第6回 地域の観光ビジネス
第7回	第7回 観光政策と地域振興について
第8回	第8回 観光資源と活用について

回数	内容
第9回	第9回 観光ビジネス（宿泊業）について。外部講師を招聘する予定です。
第10回	第10回 観光ビジネス（テーマパーク、その他）について
第11回	第11回 観光ビジネス（交通運輸業）について
第12回	第12回 新しい観光ビジネスについて（ビッグデータを活用して）
第13回	第13回 都市観光と農村観光について
第14回	第14回 観光と環境問題について
第15回	第15回 総括

授業外学習

回数	内容
第1回	第1回 授業計画に示した参考書の序論を事前に読み、本講義の概略をつかんでおくこと。（2時間）
第2回	第2回 観光ビジネスの概要について調べる。（2時間）
第3回	第3回 観光の市場について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第4回	第4回 旅行業について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第5回	第5回 地域の観光産業あるいは観光ビジネスについて調べる。（2時間）
第6回	第6回 地域の観光産業あるいは観光ビジネスについて調べる。（2時間）
第7回	第7回 観光振興について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第8回	第8回 地域の観光資源について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第9回	第9回 宿泊業について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第10回	第10回 テーマパークについて調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第11回	第11回 交通運輸業について調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第12回	第12回 先進的な観光ビジネスについて調べる。講義中に提出用紙を配布します。（2時間）
第13回	第13回 都市観光、農村観光について調べる（2時間）
第14回	第14回 観光がもたらす環境問題について調べる（2時間）
第15回	第15回 各自で観光ビジネスの総括をする。（2時間）

教科書

指定しない。資料は都度紹介する。

参考書

「観光ビジネスの基礎」木谷 直俊 創成社（ISBN-10: 4794424183）
「地域引力を生み出す 観光ブランドの教科書」岩崎 邦彦（ISBN-13 : 978-4532323073）

備考

特記なし。

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	2．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

商法をベースにして会社法について学ぶ。会社法は民法および商法の応用分野にあたるので、民法で学んだ法人や財産権の知識に加えて、商行為や株式会社の組織・運営についても学ぶようにする。特に現代社会における商行為の中心は株式会社であるので、株式の機能や株主の権限・責任について重点的に学び、適切に会社を運営する意味について知識を深めて行くようにする。これにより経済・経営分野の知識を身につけることができる。

アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。このうちで最も重視するのがライティングで、自分の考えを分かりやすく文章にまとめる力を養いたい。

到達目標

1. 株式会社の組織および運営について理解し、説明出来る。
2. 株式の機能について理解し、説明出来る。
3. 資金調達について理解し、説明出来る。

評価方法

予習・復習と授業へのフィードバック：評価割合30%（到達目標1~3を評価）

時事問題への感度（毎回の感想）：評価割合30%

論述：評価割合40%（到達目標1~3を評価）

*合格基準は60点。

注意事項

民法（財産法）を履修していることが望ましい。

授業計画

第1回 会社法の進め方について説明する。教科書の進度と時事問題の取り上げ方、その割合について説明する。

第2回 会社の設立について学ぶ。会社法では持分会社と株式会社の2種類について規定があるので、どのような事業を行うかによって事業形態を選択することが出来る。それぞれの会社の形態によって長所/短所があることを理解出来る。関連する時事問題も取り上げる。

第3回 譲渡制限の付いた株式の機能について学ぶ。株式会社の大多数の形態である譲渡制限株式会社について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第4回 株式上場について学ぶ。株式を市場で売買出来るようにすることで資金調達が出来るようになることを理解する。関連する時事問題も取り上げる。

第5回 約束手形の機能について学ぶ。会社が他社と取引する場合の決済手段である約束手形の振出について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第6回 委員会設置会社の仕組みと機能について学ぶ。取締役と執行役との相関関係について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第7回 ストック・オプション制度について学ぶ。自社株を使った報酬制度について理解し、会社の流動資金と自社株を組み合わせた人事システムについて分かるようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第8回 フランチャイズ契約の特徴について学ぶ。商標権やノウハウなどを組み合わせた事業運営形態について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第9回 資金調達の方法としての銀行融資と社債の発行について学ぶ。間接金融の仕組みと直接金融の利点について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第10回 ファンドの活用について学ぶ。未公開株を使った資金調達の方法や不振企業の立て直しなどを通じた投資の仕組みを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第11回 消費者重視のビジネスモデルについて学ぶ。消費者が商品を選ぶまでの過程とその後の固定客化を通じたビジネスモデルについて考えることが出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第12回 コーポレート・ガバナンスの重要性について学ぶ。企業経営における経営倫理や社内統制について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第13回 M & Aによる企業戦略について学ぶ。他社の買収による事業拡大について理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第14回 会社の再建について学ぶ。会社更生法と民事再生法との違いを理解出来るようになる。関連する時事問題も取り上げる。

第15回 会社の運営方法について学んだ。時事問題を毎回取り上げているので、最終回にこれを整理して理解を深める。

授業外学習

- 第1回 教科書のテーマだけでなく、時事問題も多く取り上げて補足する。会社法を学ぶには、世の中の動きに敏感になることが大切であると理解する。（標準学習時間120分）
- 第2回 予習：会社の設立について予め自分で調べることが大切である。復習：持分会社と株式会社ではどういった点が異なるのかを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第3回 予習：株式譲渡について予め自分で調べることが大切である。復習：譲渡制限株式会社の特徴について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第4回 予習：株式の上場について予め自分で調べることが大切である。復習：資金調達方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第5回 予習：約束手形について予め自分で調べることが大切である。復習：約束手形の機能と振出方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第6回 予習：執行役の役割について予め自分で調べることが大切である。復習：委員会設置会社の特徴を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第7回 予習：ストック・オプション制度について予め自分で調べることが大切である。復習：キャッシュを使うか自社株を使うかという報酬制度について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第8回 予習：フランチャイズ契約について予め自分で調べることが大切である。復習：商標権やノウハウをうまく組み合わせて使う方法について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第9回 予習：資金調達について予め自分で調べることが大切である。復習：社債の発行の仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第10回 予習：資金調達について予め自分で調べることが大切である。復習：未公開株を取得したり不振企業の株式を買い取ることでファンドを形成する仕組みについて理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第11回 予習：消費者について予め自分で調べることが大切である。復習：消費者重視のビジネスモデルの根底にある発想を理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第12回 予習：コーポレート・ガバナンスについて予め自分で調べることが大切である。復習：経営倫理の必要性や社内統制の重要性について理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第13回 予習：企業買収について予め自分で調べることが大切である。復習：M & Aの方法について理解を深めることが出来る。（標準学習時間120分）
- 第14回 予習：経営不振と会社の再建について予め自分で調べることが大切である。復習：会社更生法と民事再生法の違いを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）
- 第15回 予習：これまでのまとめノートを作るようにをする。復習：教科書のテーマをおさらいし、時事問題との繋がりを理解出来るようになる。（標準学習時間120分）

教科書

河野正英『（新版）商取引法講義』大学教育出版（ISBN: 978-4-86692-136-5）

参考書

必要な場合には、授業内で指示する。

備考

特になし。

危機管理基礎ゼミナール I (21699)

回数	内容
第10回	発表練習(各教員ごとに分かれて実施)
第11回	全体発表会 1 (全体で集合して実施)
第12回	全体発表会 2 (全体で集合して実施)
第13回	外部講師による講演、片岡総社市長「大災害は市役所の実力テスト」(全体で集合して実施)
第14回	プレゼンテーションについての講評と省察(各教員ごとに分かれて実施)
第15回	総まとめ(各教員ごとに分かれて実施)

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

- ・普段から「危機管理学」について意識するようにして、「危機管理」に関することに敏感になる習慣をつけること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、資料作成のために授業時間外に5号館5418・5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック 5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

- ・必要に応じて、担当教員が指示する。

備考

特になし

危機管理基礎ゼミナールⅡ (21700)

後期

Risk and Crisis Management, Basic Seminar II

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 27 R
単位数	1. 0 単位
担当教員	 渡谷真吾  河野正英  ブラダンスジット  村山公保  芦田雅子  山中高光  土屋博之  徳田美智  田原静

授業の概要

ゼミナールは学問の楽しさと厳しさ、研究の楽しさと厳しさを、各自の関心ある領域を踏まえた上で教員がサポートしながら獲得していく場であると共に、社会人として応用できる知識や技能を獲得する場でもある。主体は学生1人1人であることを自覚し主体的に学び考えさせる。専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

具体的な内容については同時に履修する学生たちの興味や関心をもとに担当教員が教員決定するが、危機管理学に関する学びや調査、研究を遂行する上での基礎的な知識や手法、技術を学習する。各教員に分かれて輪読、討論、プレゼン等の手法で学びを深めた上で、全体発表会で発表を行う。

また危機管理学へのより深い学びとプレゼンテーションの技法の手本を学ぶために、外部講師による講演を行う。

【アクティブラーニング】グループ・ワーク、問題解決学習とプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 危機管理学について積極的に学ぼうとする。
2. 各自で調べたことを意見交換の場で他の人に伝える。
3. 調査したり考えたりしたことを、資料として作成できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢 60%（到達目標 1、2）、課題やレポート 40%（到達目標 3）で評価する。

注意事項

- ・受講生はそれぞれ希望する研究室で本講義(経営危機管理学ゼミナールⅠ)を受講すること。
- ・成績評価方法及び授業計画等は一例であり、各研究室(担当教員)により異なる場合がある。

授業計画

回数	内容
第1回	危機管理基礎ゼミナールの振り返り(各教員ごとに分かれて実施)
第2回	危機管理学に関連するテーマの設定(各教員ごとに分かれて実施)
第3回	テーマに関する調査(各教員ごとに分かれて実施)
第4回	テーマに関する調査、意見交換(各教員ごとに分かれて実施)
第5回	テーマに関する調査、意見交換、討論(各教員ごとに分かれて実施)
第6回	テーマに関してまとめる(各教員ごとに分かれて実施)
第7回	外部講師による講演「健康づくりに関する講演(仮題)」岡山県健康づくり財団附属病院 院長 西井研治先生 (全体で集まる)
第8回	プレゼンテーションの構成についての検討(各教員ごとに分かれて実施)

回数	内容
第9回	プレゼンテーションの資料作成(各教員ごとに分かれて実施)
第10回	発表練習(各教員ごとに分かれて実施)
第11回	全体発表会 1 (全体で集合して実施)
第12回	全体発表会 2 (全体で集合して実施)
第13回	プレゼンテーションについての講評と省察(各教員ごとに分かれて実施)
第14回	より一歩進んだ学びのための指導 (各教員ごとに分かれて実施)
第15回	総まとめ(各教員ごとに分かれて実施)

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

- ・普段から「危機管理学」について意識するようにして、「危機管理」に関することに敏感になる習慣をつけること。
- ・授業時間内に作業が終わらなかった場合は、授業時間外に作業をして、終わらせてくること。
- ・能動的な学び、および、資料作成のために授業時間外に5号館5418・5519共同実験室のパソコンを使用できる。

教科書

世界思想社編集部編、『大学生 学びのハンドブック 5訂版』、世界思想社、2021、ISBN978-4-7907-1749-2

参考書

必要に応じて、担当教員が指示する。

備考

特になし

経営危機管理学演習Ⅰ（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practiceⅠ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1．0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

渡谷担当では、コンピュータやインターネット利用者に求められる知識、統計解析の方法を適切に利用するための知識、調査や実験で得られた様々なデータを効果的に示すための方法や、表計算ソフトウェアをより有効に利用するためのマクロ言語・スクリプト言語の習得などさまざまな分野から、受講者の希望により選択して学習する。

危機管理学科のディプロマポリシー「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 「書物を注意深く読むことができるようになる。」
- 「問題を見ついたり、その解決策を討論等を通じて検討することができるようになる。」

評価方法

輪読、討論等の演習への参加状況 6 0 %（到達目標 1、2 を評価）、レポート等の課題 4 0 %（到達目標 2 を評価）によって総合的に評価する。

注意事項

電子メールによって連絡を行なうことがあるので、掲示と同様に毎日電子メールを確認する習慣にしておくこと。

授業計画

- オリエンテーション
- ～13.輪読等による基礎知識の習得、討論等の演習
- 14.15.まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

発表、討論に向けての準備等、詳細は受講学生・教員で相談して決める。

教科書

必要に応じて案内する。

参考書

適宜案内する。

備考

経営危機管理学演習 I（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practice I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。
アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。
専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

到達目標

1. 自由競争原理について理解し、説明出来る。
2. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
3. 時事問題に対して知識を持ち、自分の言葉で説明出来る。

評価方法

ゼミの予習・復習の態度（評価割合50%）およびまとめレポート（評価割合50%）により評価する。（到達目標1~3を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

関連する書籍を輪読する。
まとめレポートを作成して発表。

授業外学習

ゼミナールなので、受講者が決まればその都度指導する。
読むべきテキスト等はゼミ内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

ゼミ内で指示する。

参考書

ゼミ内で指示する。

備考

特になし。

経営危機管理学演習 I（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practice I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤ブラダンスジツ

授業の概要

この科目では、専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。

企業、政府機関や社会における情報システム・データベースシステムが果たしている役割を理解したうえで、情報システム・データベースシステムの構成や特徴を学ぶ。

- 【アクティブラーニング】グループディスカッション、PowerPointによるプレゼンテーションを実施する
- 【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。
- 【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。
- 【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。
- 【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1．リレーショナルモデルによるデータベース管理システムの特徴を理解し、新型情報を管理し、それを操作するための専門的な技術を身につける。
- 2．また、情報検索技術について専門的な知識をを身につける。

評価方法

プレゼンテーション（50％）、授業に取り組む姿勢（50％）を基準にして、総合的に評価する。（到達目標 1 ・ 2 を評価）

注意事項

プログラミングの基本的知識を要する。

授業計画

回数	内容
第1回	講義の進め方
第2回	個別のテーマ決定
第3回	データベースの設計技術について・進捗発表
第4回	よいデータベースの設計とは？・進捗発表
第5回	データベース設計における正規化についてI・進捗発表
第6回	データベース設計における正規化についてII・進捗発表
第7回	概念モデル作成I進捗発表
第8回	概念モデル作成II・進捗発表
第9回	概念モデル作成III・進捗発表
第10回	データベースシステム開発I・進捗発表
第11回	データベースシステム開発II・進捗発表
第12回	データベースシステム開発III・進捗発表
第13回	システムテストI・進捗発表
第14回	システムテストII・進捗発表
第15回	まとめ発表

授業外学習

- ・授業外に自らやるべきことについて考え、主体的に学ぼうとする態度や姿勢が大切である。
- ・課題に対する成果をレポートにまとめて報告するので、準備をしておくこと。
- ・データベースや情報検索分野の最新技術について情報を収集し、その内容を理解した上で定期的にプレゼンテーションを行う。
- ・期末に半期の間に学んだことを総括するためパワーポイント資料を使って発表する。

(各 1 時間)

教科書

使用しない

参考書

資料を配布する

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	村山公保

授業の概要

各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけ、専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために、演習形式で実施される。

村山公保担当の演習では、産業制御システムとIoT (Internet of Things)関連技術について学び、情報技術とインターネット活用法の基礎力を身につけ、情報リスクを学ぶための土台を作る。

【アクティブラーニング】発見学習、問題解決学習、調査学習、グループ・ワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】活動内容やプレゼンテーションに対して、フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1. 自分(達)が作ったり活動した内容を他人に見せることの楽しさが多少はわかる。
- 2. 考えていることを多少は文書にできる。
- 3. 考えていることを多少は発言できる。
- 4. グループ活動において、多少は協調性を持って活動できる。

評価方法

授業に取り組む姿勢60%(到達目標の1、2、3、4を評価)、および、ゼミレポート40%(到達目標の1、2)の重みで判定する。

注意事項

- ・受講者の知識レベル、技術レベル、興味の内容によって、内容を変更することがある。
- ・正規時間以外に活動を行うことがある。(休日、夏休みを含む)
- ・学内だけでは得られない学びのためにイベントへの参加等、学外実習を行うことがある。
- ・授業の内容には情報処理技術者試験で出題される内容を含んでいる。
- ・自分で努力することも大切だが、行き詰まったら、プライドを捨てて、人を頼ることの大切さも理解してほしい。

授業計画

- ・ 課題の内容

ArduinoやRaspberry Pi、PLC (Programmable Logic Controller)などにセンサーやアクチュエータを接続して、日常生活で役立つシステムや、楽しいシステムを作成する。例えば、変声器、ハムスターホイールの回転計、3Dイルミネーション、鉄道模型の自動運転、歩行ロボット、色覚ゲームなどがある。

各自の課題の内容によって、プログラミング、システム構築、ネットワーク構築、電子工作、模型工作、3Dモデリング、3Dプリンタ、VR(Virtual Reality)、AR(Augmented Reality)等の各種技術の習得を行う。

- ・ イベント

6月に「日ようびこども大学」、7月に「おもしろ体験で～」などのイベントに出展し、子供たちに情報技術の楽しさを体験させる予定である。

他にも、原稿の校正手伝い、学内イベントの手伝い、4年生の卒業研究の手伝い等を行う。さらに、半期の間に行ったことを総括するため、ゼミレポートを課す。

授業外学習

学習時間の目安：時間内、時間外合わせて合計45時間

- ・ 学習内容が多岐にわたるため、自分で調べて、自分で学ぶ姿勢が必要となる。
- ・ 各自の学習や、グループワーク等のために、時間外にゼミ室を利用することができる。
- ・ グループでは協調性を持って取り組む姿勢が大切である。
- ・ 授業時間外に何をしたらよいかわからない場合には担当教員に相談すること。

教科書

内藤 春雄著、「Arduinoで楽しむ鉄道模型」、技術評論社、2018、978-4-774-19919-1

参考書

村山 公保著、「基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

備考

なし

経営危機管理学演習 I（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practice I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 芦田雅子

授業の概要

各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

演習 I では、大学近隣の地域を事例として取り上げ、その地域の成り立ちや産業あるいは歴史の変遷から将来像を考察する。その上で、観光を含めたリスクが存在するかどうかを議論する。また、同地域をフィールドワークすることによって理解を深め、身近な問題として捉える。大学二年間の経験を生かし検証に基づく論理的な学びを修得する。

到達目標

この講義は、経済・経営など専門分野の諸問題を解決する能力を身につけることを目的として以下のように目標を設定している。

- 1、観光データや資料を正確に読み解く能力を身につける。
- 2、地域の成り立ちと将来に向けた展望を把握する。
- 3、地域の産業について理解を深める。
- 4、卒業研究のテーマ設定に向けて、観光とリスクについて専門知識を深める。

評価方法

- ・レポート50%（到達目標 1～4 を評価）
 - ・ゼミ発表50%（到達目標 1～4 を評価）
- 総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・対外的なマナーを含め、学びの姿勢を常に遵守すること。
- ・卒業研究のテーマについて、観光とリスクについて様々な角度からアプローチすること。
- ・フィールドワークを通して、自治体や観光関係者と社会的なネットワークを構築すること。

授業計画

回数	内容
第1回	第1回 ガイダンスと年間計画
第2回	第2回 地域研究
第3回	第3回 地域研究
第4回	第4回 地域と産業
第5回	第5回 地域と産業
第6回	第6回 中間報告会（プレゼンテーション）
第7回	第7回 講評
第8回	第8回 フィールドワーク事前研究
第9回	第9回 ヒアリング調査
第10回	第10回 フィールドワーク（日時は相談のうえ決定する）
第11回	第11回 フィールドワークのまとめ
第12回	第12回 資料作成
第13回	第13回 前期研究発表

回数	内容
第14回	第14回 前期研究発表
第15回	第15回 前期まとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

フィールドワークを二回程度実施する。（視察先はゼミで相談し決定する）

教科書

指定しない。資料は都度紹介する。

参考書

その都度案内する。観光白書、自治体の観光データや産業観光に関する文献などを参照する。

備考

特記なし。

経営危機管理学演習 I（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practice I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	

授業の概要

各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

経済学の基礎を固め、リスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。

到達目標

- 1． 経済経営関連分野を中心とするリスクや危機的事態の事例について危機の原因や過程、影響、要因などを正しく理解して説明できる。
- 2． 4 年時で卒業研究を行うための、基礎的な準備が整っていること。

評価方法

到達目標

- 1． 経済経営関連分野を中心とするリスクや危機的事態の事例について危機の原因や過程、影響、要因などを正しく理解して説明できる。
- 2． 4 年時で卒業研究を行うための、基礎的な準備が整っていること。

評価方法

到達目標 1、 2 をレポートにより評価する。そのうち到達目標 1 を60%、 到達目標 2 を40%評価し、 総合計 60 点以上を合格とする

注意事項

受講生は 4 年次で所属を希望する研究室で本演習を受講すること。

授業計画

- 1週目：経営危機管理学演習の受講方法の説明と所属する研究室への配属を行う。
- 2週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（1）。
- 3週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（2）。
- 4週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（3）。
- 5週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（4）。
- 6週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（5）。
- 7週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（6）。
- 8週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（7）。
- 9週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（1）。
- 10週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（2）。
- 11週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（3）。
- 12週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（4）。
- 13週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（5）。
- 14週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（6）。
- 15週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（7）。

授業外学習

学習時間の目安:合計30時間。

各回のテーマ等に関してあらかじめ予習しておくこと。また、毎回の演習終了後は演習した内容について適宜レポートにまとめること。

教科書

World Development Report 2014 : Risk and Opportunity—Managing Risk for Development. 世界銀行ウェブサイト（<https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/16092>）でダウンロードできるので各自準備すること。

参考書

適宜指示する。

備考

Google Classroomを資料提示などに活用する。

経営危機管理学演習 I（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practice I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

ゼミナールは学問の楽しさと厳しさ、研究の楽しさと厳しさを、具体的に各自の関心ある領域の教員のサポートを得ながら獲得していくと共に、社会人として応用できるさまざまな知識と技能を獲得する場でもある。主体は学生1人1人であることを自覚し主体的に学び考えさせる。例えば、企業（組織）と個人のリスク・危機管理を学び研究し、実践を目指すための基礎的な知識や手法を理解する。経済学や企業経営論の基礎を自ら学び、様々なケースを検討し詳細に考察することで経済・経営に関する危機やリスクへの対応能力を獲得する。輪読、討論、プレゼン等様々な手法で実施する。

当ゼミナール[経営危機管理学演習 I・経営危機管理学演習 II]は、“ビジネス・リスク”に特化したゼミナールであり、履修生主体で運営する。

まず、企業で行われるマネジメントについて体系的に理解し、企業の仕組みや直面する問題・意思決定プロセス・企業の目的と社会的責任・企業組織・経営戦略・企業の国際化など、企業を総合的見地から捉え、その行動の基本的な理論や知識について、履修生がお互いに議論を交わし、問題発見・分析・解決能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

そのことから、一方的に話を聞く講義とは異なり、時間外学習で専門書を熟読“専門書4～5冊程度”し、プレゼンテーションツールで内容をまとめ、ゼミナール時間内（毎回）での発表を通して、個々の履修生が主体的に発言・考察・行動する相互学習により、卒業研究への基礎づくりの場を提供する。

それに加えて、企業訪問・学会および各行事などへの参加と発表を検討する。

※Google Classroomのクラスコード：n4cbtcp

到達目標

企業を中心とした経営学とはどのような概念であるかを正しく理解した上で、[経営危機管理学演習I]から[経営危機管理学演習 II]を引き続き履修することで、次の内容が習得できる。

- 1.経営学概念と企業経営におけるリスクに関係するフレームワーク（枠組み）の作成方法
- 2.経営活動におけるビジネス・リスクの種類知識と基本的なリスクマネジメント手法
- 3.経営活動とビジネス・リスクの関連性を探り、企業を生き物として把握する力

評価方法

（履修生が4～5人の場合の点数であり、増減時は点数を変更する）

ゼミナールでの発表・質疑応答、行事参加（企業訪問・学会および各行事への参加と発表）および授業態度などからの評価とする（到達目標1、2、3を評価）

- ・専門書のプレゼンテーション発表の場合は、1人当たり2回目以降の各回で15分以上の発表（発表内容の重複は不可）5点（15分以下は0点）、発表内容への質問（同じ内容の質問は不可）1点、質問への回答1点の加算積み上げ方式とする
- *発表は各回、輪番制とし当番が発表できない場合は次の履修生が行い、欠席時を埋める発表はなしとする
- *同じページ・内容の発表は該当者全員0点
- ・初回の評価は、書籍の選択状況などで評価する
- ・ゼミ開催時限に別のプログラムが入った場合は、欠席時を除き標準点をその回数に対して加算する

《規定授業時間数の3分の1》以上を欠席（【注意事項】にある欠席扱い含む）した場合は単位を認定しない

注意事項

このゼミナールに参加する履修生は、次の内容を留意および準備すること

- 《運営上の注意事項》
- 1)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
 - * 10分以上の[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
 - 2)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要

*[証明書]がない場合の途中退回は欠席扱いとする

3)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする

4)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止

*特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする

5)連絡は、L I N Eを媒体とする（端末不所持の場合はメール）

《課題への取り組み上の注意事項》

1)第1回（オリエンテーション）で、参考書欄にある専門書（15冊）から4～5冊を興味のある順に順位付けして発表

2)授業計画は参考であり、優先順位は1.主体的活動、2.専門書のプレゼンテーションでの発表・質疑応答、3.授業計画（時間が残った場合）

3)書籍購入費を含む交通費などの実費は各履修生の負担とする

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	経営学とはなにか
第3回	経営学の対象と特色
第4回	企業と経営
第5回	企業・会社の概念と諸形態
第6回	所有・経営・支配と経営目的
第7回	会社機関とコーポレート・ガバナンス
第8回	日本型企業システム
第9回	経営戦略の体系と理論
第10回	全社戦略
第11回	事業戦略
第12回	機能別戦略
第13回	戦略の策定とコントロール
第14回	組織に関する基礎理論（伝統的組織論）
第15回	組織に関する基礎理論（近代組織論）

授業外学習

学習時間の目安：15時間

(1)履修生は、専門書の指定された箇所（毎回1～2章程度）を熟読し、プレゼンテーションツールを使用して、ゼミナール時間内での発表に備える
・発表時に発表用プレゼンテーションツールのデータは、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする

*データ格納されたUSBの持参でも可

(2)履修生は、主体的活動により、企業訪問・学会および各行事への参加と発表および必要な資料の作成を行う

(3)履修生は、危機管理学科（指導教員のみも含む）が主体となる学内外の行事には必ず参加（出席）し、依頼された事項に協力、支援、応援をする

(4)履修生は、3年次対象の“キャリア支援課の主催行事（就職ガイダンスなど）”には他の履修授業と重ならない限り必ず出席する

(5)夏休みの宿題を課す：[経営危機管理学演習Ⅱ]の評価に25点分を加算

①進路調査票が記入できるように準備（下書き）をしておく(5点)

*特に、性格・自己PRはすぐには書けないのでノートなどに作成しておく

②卒業論文のテーマ（大枠）と、そのニーズに合った書籍5冊以上を、夏休み期間中に次に従い指導教員に教える（20点）

- ・書籍名 & 著者名および、ISBN番号（13桁）をLINEで教える
- * 書籍をサーチして、実物を手に取って目を通して、本当に参考文献になるのかを見極める
- * 実物は、大学図書館・公営図書館（倉敷市立など）・大きな書店などを利用する
- * 大学図書館になければ、公営図書館（倉敷市立図書館など）で借りる
 - ☆公営図書館は、他の県市町村図書館にあれば（取り寄せて）借りることができる
 - ☆書籍（5冊以上）が決まったら、大学の図書館に購入依頼をする

教科書

教科書は、使用しない。

参考書

下の15冊または類似したテーマの文献から、輪読する専門書を履修生の総意（まとまらなければ多数決）で選出（2～3冊程度）して、各自が購入する。但し、手に入らない専門書は次の順位の専門書とし、[経営危機管理学演習Ⅱ]へ継続する。

(1)1.または2.を選出した場合は、優先的に1.および2.をセットとする。

(2)履修生間で決まらない（輪読が難しい）場合は、履修生が各自で類似したテーマの文献を選出しても構わない。

1. 現代の経営「上」：ピーター・F・ドラッカー_著/ ISBN 9784478307007
2. 現代の経営「下」：ピーター・F・ドラッカー_著/ ISBN 9784478307014
3. 場の倫理とマネジメント：伊丹敬之/ ISBN 9784492521588
4. 学習する組織：ピーター・M・センゲ_著/ ISBN 9784862761019
5. パラダイムの魔力 新装版：ジョエル・バーカー_著/ ISBN 9784822250140
6. インテル戦略転換：アンドリュー・S・グローブ_著/ ISBN 9784883043330
7. なぜ危機に気づけなかったのか：マイケル・A・ロベルト_著/ ISBN 9784862760647
8. 予測できた危機をなぜ防げなかったのか？：マックス・H・ベイザーマン_著/ ISBN 9784492502297
9. 失敗学のすすめ：畑村洋太郎_著/ ISBN 9784062747592
10. 名経営者が、なぜ失敗するのか？：シドニー・フィンケルシュタイン_著/ ISBN 9784822244125
11. なぜリーダーは「失敗」を認められないのか：リチャード・S・テドロー_著/ ISBN 9784532197599
12. ビジネスで失敗する人の10の法則：ドナルド・R・キーオ_著/ ISBN 9784532197308
13. 失敗の本質：戸部良一他_著/ ISBN 9784122018334
14. 組織の盛衰：堺屋太一_著/ ISBN 9784569568515
15. ビジヨナリー・カンパニー③ 衰退の五段階：ジム・コリンズ_著/ ISBN 9784822248178

備考

経営危機管理学演習 I（21674）

前期

Business Risk and Crisis Management practice I

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。
専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

当ゼミでは、経営戦略論、アントレプレナーシップ論（起業・創業）、人的資源管理論などの知見をもとに、厳しい競争環境のもと、企業活動を継続するためにどのように対応すべきか、理論だけでなく、ケース分析や、地元の企業と連携し、企業が抱える課題解決に向けての提案など、実践的な学びを実施する。
3年次は、経営におけるリスクに関連する書籍や論文を輪読し、そこで得られた知見をもとに各ゼミ生に設定いただいた課題に基づき、資料収集・分析検討・報告を行う。

【アクティブラーニング】グループディスカッション、PowerPointによるプレゼンテーションを実施する
【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．経営学に関連するリスクについての基礎的な知識や手法を理解する
- 2．各自が設定した課題に関する取組を通して分析方法・報告・ディスカッションのスキルと研究への意識・姿勢を高める
- 3．地元企業、高校との連携の中で、企業が抱える課題の解決に向けて、主体的に進めることができるスキルを身につける

評価方法

ゼミへの貢献（調査、ディスカッション）：40％（到達目標1を評価）、レジメ作成・発表：40％（到達目標2を評価）、課題レポート：20％（到達目標2、3を評価）を基準として総合的に評価する。

注意事項

本ゼミでは、ゼミ生が主体的に運営するスタイルを実施する。
報告・発表及び学生間の議論を軸に実施するため、ゼミ生間の活発な意見交換を期待する。

授業計画

第1回： 前期オリエンテーション
第2回～第14回 文献レビュー、レジメの作成・発表、ビジネスコンテストへのエントリー
第15回：前期のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：15時間

発表、ディスカッションに向けての準備など、詳細はゼミ生・教員で相談して決める。

教科書

ゼミ実施時に案内する。

参考書

各ゼミ生のテーマにあわせて、適宜案内する。

備考

特になし

年次	3年
対象	26～23R
単位数	1.0単位
担当教員	田原 静

授業の概要

各教員毎に実施される。一例として、各分野におけるリスク・危機管理の基本、危機管理の素養、対応力、実践力を身につけるべく、演習形式で実施される。

専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために主体的に学び考えさせる。

本ゼミナールでは、主に企業(非営利組織も対象となる)のマーケティング活動および消費者行動をテーマとしている。活動のベースは関係分野の文献の輪読(発表レジメ作成、発表、討論)であり、当該分野の理論を体系的に理解することと、研究に必要な基本的なスキルを身につけることを目指す。また輪読と並行して、各自興味のある分野・業界・企業についての問題発見・調査・報告を行う。

到達目標

- 1 マーケティング・消費者行動の基礎的な概念、理論を理解する
- 2 卒業研究の前段として、研究に必要なスキルを身につける

評価方法

ゼミ中での発表40%(到達目標1,2を評価)、最終レポート40%(到達目標1,2を評価)、態度20%によって評価する。

注意事項

学生自身による発表、討論を中心に進められるため、準備をしっかりと行ってからゼミに臨んで欲しい。

授業計画

- 1週：前期オリエンテーション
- 2～14週：文献の輪読（レジメ作成、発表、討論）、各自課題の検討
- 15週：中間発表、前期まとめ

授業外学習

- ・週ごとの発表担当となった者は、その事前準備(レジメ、発表内容要約等)を行うこと
- ・自身が発表担当でない場合も、事前に該当の章をよく読み、疑問点など皆で議論したい点についてまとめておくこと。

教科書

ゼミ内で指示する。

参考書

ゼミ内で適宜紹介する。

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 渡谷真吾

授業の概要

経営危機管理学Ⅰに引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。

専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

渡谷担当では、コンピュータやインターネット利用者に求められる知識、統計解析の方法を適切に利用するための知識、調査や実験で得られた様々なデータを効果的に示すための方法や、表計算ソフトウェアをより有効に利用するためのマクロ言語・スクリプト言語の習得などさまざまな分野から、受講者の希望により選択して学習する。

危機管理学科のディプロマポリシー「専門分野の諸問題を自ら解決できる。」に基づく科目。

到達目標

- 1 「文献（書籍だけでなくWeb等も含む）から情報を収集することができるようになる。」
- 2 「収集した情報を分析したり検討したりすることがができるようになる。」

評価方法

資料収集・分析・検討などの演習への取り組み（6 0 %（到達目標 1、2 を評価）、発表・討論（中間発表も含む）の内容 4 0 %（到達目標 2 を評価）によって総合的に評価する。

注意事項

電子メールによって連絡を行なうことがあるので、掲示と同様に毎日電子メールを確認する習慣にしておくこと。

授業計画

- 1.後期オリエンテーション
- 2.テーマ（課題）の設定
- 3～13.資料収集・分析・検討（適宜、中間発表・討論）
- 14.15.発表・討論

授業外学習

学習時間の目安：合計 1 5 時間

討論・発表に向けての準備等、詳細は受講学生・教員で相談して決める。

教科書

必要に応じて案内する。

参考書

適宜案内する。

備考

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。
アクティブ・ラーニングとして「課題解決学習」「質問」「ライティング」を取り入れている。
専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

到達目標

1. 自由競争原理について理解し、説明出来る。
2. 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
3. 時事問題に対して知識を持ち、自分の言葉で説明出来る。

評価方法

ゼミの予習・復習の態度（評価割合50%）およびまとめレポート（評価割合50%）により評価する。（到達目標1~3を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

関連する書籍を輪読する。
まとめレポートを作成して発表。

授業外学習

ゼミナールなので、受講者が決まればその都度指導する。
読むべきテキスト等はゼミ内で指示する。
予習と復習が必要。
普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

ゼミ内で指示する。

参考書

ゼミ内で指示する。

備考

特になし。

経営危機管理学演習Ⅱ（21675）

後期

Business Risk and Crisis Management practice Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	👤 ブラダンスジット

授業の概要

経営危機管理学演習Ⅰに引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。

専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

企業、政府機関や社会における情報システム・データベースシステムが果たしている役割を理解したうえで、情報システム・データベースシステムの構成や特徴を学ぶ。

【アクティブラーニング】グループディスカッション、PowerPointによるプレゼンテーションを実施する

【アクティブラーニング】グループ・ワークとプレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】プレゼンテーションの内容について、講評や省察などのフィードバックを含めた指導を行う。

【ICTを活用した双方向型授業】本授業では、Google Classroomを活用して教員と学生の相互コミュニケーションを図る。更に、それを使って講義に関する電子資料、学生への課題の提示、また学生による課題提出などを統合的に管理する。

到達目標

- 1．リレーショナルモデルによるデータベース管理システムの特徴を理解し、新型情報を管理し、それを操作するための専門的な技術を身につける。
- 2．また、情報検索技術について専門的な知識をを身につける。

評価方法

プレゼンテーション（50％）、授業に取り組む姿勢（50％）を基準にして、総合的に評価する。（到達目標1・2を評価）

注意事項

プログラミングの基本的知識を要する。

授業計画

回数	内容
第1回	情報検索技術について
第2回	情報検索におけるアルゴリズムⅠ・進捗発表
第3回	情報検索におけるアルゴリズムⅡ・進捗発表
第4回	J A V A 言語について・進捗発表
第5回	J A V A 開発環境 E C L I P S E について・進捗発表
第6回	L U C E N E について・進捗発表
第7回	情報検索モデルについて・進捗発表
第8回	ブリアンモデル・進捗発表
第9回	ベクトル空間モデル・進捗発表
第10回	索引について・進捗発表
第11回	情報検索システム評価・進捗発表
第12回	情報検索システム開発Ⅰ・進捗発表
第13回	情報検索システム開発Ⅱ・進捗発表
第14回	情報検索システム開発Ⅲ・進捗発表

回数	内容
第15回	まとめ・発表

授業外学習

- ・授業外に自らやるべきことについて考え、主体的に学ぼうとする態度や姿勢が大切である。
- ・課題に対する成果をレポートにまとめて報告するので、準備をしておくこと。
- ・データベースや情報検索分野の最新技術について情報を収集し、その内容を理解した上で定期的にプレゼンテーションを行う。
- ・期末に半期の間に学んだことを総括するためパワーポイント資料を使って発表する。

(各1時間)

教科書

使用しない

参考書

資料を配布する

備考

本学倉敷芸術科学大学障がい学生支援規定に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要である場合は事前に相談してください。

経営危機管理学演習Ⅱ（21675）

後期

Business Risk and Crisis Management practice Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	村山公保

授業の概要

経営危機管理学演習Ⅰに引き続き、専門分野の諸問題を自ら解決できるようになるために、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。

村山公保担当の演習では、産業制御システムとIoT (Internet of Things)関連技術について学び、情報技術とインターネット活用法の基礎力を身につけ、情報リスクを学ぶための土台を作る。

【アクティブラーニング】発見学習、問題解決学習、調査学習、グループ・ワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】活動内容やプレゼンテーションに対して、フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

1. 自分(達)が作ったり活動した内容を他人に見せることの楽しさが以前よりわかる。
2. 考えていることを文書にする能力が向上する。
3. 考えていることを発言する能力が向上する。
4. グループ活動において、協調性を持って活動する能力が向上する。

評価方法

授業に取り組む姿勢60%(到達目標の1、2、3、4を評価)、および、ゼミレポート40%(到達目標の1、2)の重みで判定する。

注意事項

- ・受講者の知識レベル、技術レベル、興味の内容によって、内容を変更することがある。
- ・正規時間以外に活動を行うことがある。(休日、夏休み、冬休みを含む)
- ・学内だけでは得られない学びのためにイベントへの参加等、学外実習を行うことがある。
- ・授業の内容には情報処理技術者試験で出題される内容を含んでいる。
- ・自分で努力することも大切だが、行き詰まったら、プライドを捨てて、人を頼ることの大切さも理解してほしい。

授業計画

- ・課題の内容

ArduinoやRaspberry Pi、PLC (programmable logic controller)などにセンサーやアクチュエータを接続して、日常生活で役立つシステムや、楽しいシステムを作成する。例えば、変声器、ハムスターホイールの回転計、3Dイルミネーション、鉄道模型の自動運転、歩行ロボット、色覚えゲームなどがある。各自の課題の内容によって、プログラミング、システム構築、ネットワーク構築、電子工作、模型工作、3Dモデリング、3Dプリンタ、VR(Virtual Reality)、AR(Augmented Reality)等の各種技術の習得を行う。

- ・イベント

11月に、日本将棋連盟・倉敷市・倉敷市文化振興財団・山陽新聞主催の女流プロ将棋タイトル棋戦「大山名人杯倉敷藤花戦」の決勝戦第2局、第3局の模様をインターネット中継に関わる予定である。

授業外学習

学習時間の目安：時間内、時間外合わせて合計45時間

- ・学習内容が多岐にわたるため、自分で調べて、自分で学ぶ姿勢が必要となる。
- ・各自の学習や、グループワーク等のために、時間外にゼミ室を利用することができる。
- ・グループでは協調性を持って取り組む姿勢が大切である。
- ・授業時間外に何をしたらよいかわからない場合には担当教員に相談すること。

教科書

内藤 春雄著、「Arduinoで楽しむ鉄道模型」、技術評論社、2018、978-4-774-19919-1

参考書

村山 公保著、「基礎からわかるTCP/IPネットワークコンピューティング入門第3版」、オーム社、2015、978-4-274-05073-2

備考

なし

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 芦田雅子

授業の概要

経営危機管理学演習Ⅰに引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、諸問題を自ら解決できる実践力を養う。

専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

演習Ⅱでは、演習Ⅰによって得られた学びを生かし、地域の観光リスクについて具体的な対策を構築する。とりわけ産業に着眼し、産業が将来にわたって持続するためにはどのような観光が必要なのかを考察する。また、地域の観光リスクを新たなツーリズムによってプラスの効果に転換することを討議する。フィールドワークを通して、理想的な地域の在り方を探る。

【アクティブラーニング】調査学習（グループ）、課題解決型学習、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】事前調査に関してプレゼンテーションやレポート提出を義務付けた場合は、講評などのフィードバックをする。

演習Ⅱでは、演習Ⅰによって得られた学びを生かし、地域の観光リスクについて具体的な対策を構築する。とりわけ産業に着眼し、産業が将来にわたって持続するためにはどのような観光が必要なのかを考察する。また、地域の観光リスクを新たなツーリズムによってプラスの効果に転換することを討議する。フィールドワークを通して、理想的な地域の在り方を探る。

到達目標

この講義は、経済・経営など専門分野の諸問題を解決する能力を身につけることを目的として以下のように目標を設定している。

- 1、観光データや資料を正確に読み解く能力を身につける。
- 2、地域産業の抱える問題点を改善していくための手法を考察し、施策を構築する。
- 3、新たな視点で産業や地域資源を捉え、ツーリズムとして展開する手法を身につける。

評価方法

- ・レポート50%（到達目標1～3を評価）
 - ・ゼミ発表50%（到達目標1～3を評価）
- 総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・対外的なマナーを含め、学びの姿勢を常に遵守すること。
- ・卒業研究のテーマについて、様々な角度からアプローチすること。
- ・NPOや観光関連団体などの動きに注目し、社会的なネットワークを構築するための活動へ積極的に参加すること。

授業計画

- 第1回 産業観光について
- 第2回 産業観光について
- 第3回 観光事業研究
- 第4回 観光事業研究
- 第5回 準備（アンケート調査やヒアリングに向けて）
- 第6回 調査実施
- 第7回 フィールドワーク
- 第8回 プレゼンテーション
- 第9回 ツーリズム検証
- 第10回 ツーリズム検証
- 第11回 まとめ
- 第12回 検討会
- 第13回 検討会
- 第14回 全体総括
- 第15回 全体総括

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間
フィールドワークを実施する。（視察先はゼミで相談し決定する）

教科書

指定しない。資料は都度紹介する。

参考書

その都度案内する。観光白書、自治体の観光データや産業観光に関する文献などを参照する。また、自治体や観光関連組織が手掛ける観光事業についての報告書などを読み解く。

備考

特記なし。

経営危機管理学演習Ⅱ（21675）

後期

Business Risk and Crisis Management practice Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	

授業の概要

経営危機管理学演習Ⅰに引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。
専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

到達目標

- 1．経済経営関連分野を中心とするリスクや危機的事態の事例について危機の原因や過程、影響、要因などを正しく理解して説明できる。
- 2．4 年時で卒業研究を行うための、基礎的な準備が整っていること。

評価方法

到達目標

- 1．経済経営関連分野を中心とするリスクや危機的事態の事例について危機の原因や過程、影響、要因などを正しく理解して説明できる。
- 2．4 年時で卒業研究を行うための、基礎的な準備が整っていること。

評価方法

到達目標 1、2 をレポートにより評価する。そのうち到達目標 1 を60%、到達目標 2 を40%評価し、総合計 60 点以上を合格とする。

注意事項

受講生は4年次で所属を希望する研究室で本演習を受講すること。

授業計画

- 1週目：経営危機管理学演習の受講方法の説明と所属する研究室への配属を行う。
- 2週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（1）。
- 3週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（2）。
- 4週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（3）。
- 5週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（4）。
- 6週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（5）。
- 7週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（6）。
- 8週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（7）。
- 9週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（1）。
- 10週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（2）。
- 11週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（3）。
- 12週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（4）。
- 13週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（5）。
- 14週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（6）。
- 15週目：所属する研究室のテーマに関する事例研究について説明・論議する（7）。

授業外学習

学習時間の目安:合計30時間。

各回のテーマ等に関してあらかじめ予習しておくこと。また、毎回の演習終了後は演習した内容について適宜レポートにまとめること。

教科書

塩澤修平著『経済入門 第3版』有斐閣、ISBN 978-4-641-22004-1。

World Development Report 2014 : Risk and Opportunity—Managing Risk for Development. 世界銀行のウェブサイト (<https://openknowledge.worldbank.org/handle/10986/16092>) でダウンロードできるので各自準備すること。

参考書

適宜指示する。

備考

Google Classroomを活用する。

経営危機管理学演習Ⅱ（21675）

後期

Business Risk and Crisis Management practice Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

[経営危機管理学演習Ⅰ]に引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。

専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

[経営危機管理学演習Ⅰ]に引き続き、経済・経営の分野に関する考え方や研究方法などを、実際のケーススタディや外部学習グループへの参加、対外調査等々により理解を深め、卒業研究に繋げる。

当ゼミナール[経営危機管理学演習Ⅰ・経営危機管理学演習Ⅱ]は、“ビジネス・リスク”に特化したゼミナールであり、履修生主体で運営する。

企業で行われるマネジメントについて体系的に理解し、企業の仕組みや直面する問題・意思決定プロセス・企業の目的と社会的責任・企業組織・経営戦略・企業の国際化など、企業を総合的見地から捉え、その行動の基本的な理論や知識について、履修生がお互いに議論を交わし、問題発見・分析・解決能力やコミュニケーション能力の向上を図る。

そのことから、一方的に話を聞く講義とは異なり、時間外学習で専門書を熟読“専門書4～5冊程度”し、プレゼンテーションツールで内容をまとめ、ゼミナール時間内（毎回）での発表を通して、個々の履修生が主体的に発言・考察・行動する相互学習により、卒業研究への基礎づくりの場を提供する。

それに加えて、企業訪問・学会および各行事などへの参加と発表を検討する。

※Google Classroomのクラスコード：d2o7c7a

到達目標

企業を中心とした経営学とはどのような概念であるかを正しく理解した上で、[経営危機管理学演習Ⅰ]から引き続き履修することで、次の内容が習得できる。

- 1.経営学の概念と企業経営におけるリスクに関係するフレームワーク（枠組み）の作成方法
- 2.経営活動におけるビジネス・リスクの種類の知識と基本的なリスクマネジメント手法
- 3.経営活動とビジネス・リスクの関連性を探り、企業を生き物として把握する力

評価方法

（履修生が4～5人の場合の点数であり、増減時は点数を変更する）

ゼミナールでの発表・質疑応答、行事参加（企業訪問・学会および各行事への参加と発表）および授業態度などからの評価とする（到達目標1、2、3を評価）

・専門書のプレゼンテーション発表の場合は、1人当たり各回15分以上の発表（発表内容の重複は不可）3点（15分以下は0点）、発表内容への質問（同じ内容の質問は不可）1点、質問への回答1点の加点積み上げ方式とする

*発表は各回、輪番制とし当番が発表できない場合は次の履修生が行い、欠席時を埋める発表はなし

*同じページ・内容の発表は該当者全員0点

・ゼミ開催時限に別のプログラムが入った場合は、欠席時を除き標準点をその回数に対して加点する

《規定授業時間数の3分の1》以上を欠席（【注意事項】にある欠席扱い含む）した場合は単位を認定しない

注意事項

このゼミナールに参加する履修生は、次の内容を留意および準備すること

《運営上の注意事項》

1)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要

*10分以上の[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする

2)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要

*[証明書]がない場合の途中退出は欠席扱いとする

3)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする

4)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
＊特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などを行っている場合は、退出させ欠席扱いとする

5)連絡は、L I N Eを媒体とする（端末不所持の場合はメール）

- 《課題への取り組み上の注意事項》
- 1)授業計画は参考であり、優先順位は1.主体的活動、2.専門書のプレゼンテーションでの発表・質疑応答、3.授業計画（時間が残った場合）
- 2)書籍購入費を含む交通費などの実費は各履修生の負担とする

授業計画

回数	内容
第1回	経営組織の基本形態
第2回	企業組織の諸形態
第3回	組織の制度・管理・文化
第4回	経営管理の基礎理論
第5回	マネジメントの階層とプロセス
第6回	経営計画
第7回	コントロール
第8回	M&Aと買収防衛策
第9回	経営のグローバリゼーション
第10回	企業経営と情報化
第11回	企業の社会的責任(CSR)と企業倫理
第12回	環境経営
第13回	企業倫理への取組み
第14回	マネジメント
第15回	まとめ

授業外学習

学習時間の目安：15時間

- (1)履修生は、専門書の指定された箇所（毎回1～2章程度）を熟読し、プレゼンテーションツールを使用して、ゼミナール時間内での発表に備える
・発表時に発表用プレゼンテーションツールのデータは、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする
＊データ格納されたUSBの持参でも可
- (2)履修生は、主体的活動により、企業訪問・学会および各行事への参加と発表および必要な資料の作成を行う
- (3)履修生は、危機管理学科（指導教員のみも含む）が主体となる学内外の行事には必ず参加（出席）し、依頼された事項に協力、支援、応援をする
- (4)履修生は、3年次対象の“キャリア支援課の主催行事（就職ガイダンスなど）”には他の履修授業と重ならない限り必ず出席する

教科書

教科書は、使用しない。

参考書

[経営危機管理学演習Ⅰ]からの継続として、下の15冊または類似したテーマの文献から、輪読する専門書を履修生の総意（まとまらなければ多数決）で選出（2～3冊程度）して、各自が購入する。但し、手に入らない専門書は次の順位の専門書とする。

(1)1.または2.を選出した場合は、優先的に1.および2.をセットとする。

(2)履修生間で決まらない（輪読が難しい）場合は、履修生が各自で類似したテーマの文献を選出しても構わない。

1. 現代の経営「上」：ピーター・F・ドラッカー_著/ ISBN 9784478307007

2. 現代の経営「下」：ピーター・F・ドラッカー_著/ ISBN 9784478307014
 3. 場の倫理とマネジメント：伊丹敬之/ ISBN 9784492521588
 4. 学習する組織：ピーター・M・センゲ_著/ ISBN 9784862761019
 5. パラダイムの魔力 新装版：ジョエル・バーカー_著/ ISBN 9784822250140
 6. インテル戦略転換：アンドリュー・S・グローブ_著/ ISBN 9784883043330
 7. なぜ危機に気づけなかったのか：マイケル・A・ロベルト_著/ ISBN 9784862760647
 8. 予測できた危機をなぜ防げなかったのか？：マックス・H・バイザーマン_著/ ISBN 9784492502297
 9. 失敗学のすすめ：畑村洋太郎_著/ ISBN 9784062747592
 10. 名経営者が、なぜ失敗するのか？：シドニー・フィンケルシュタイン_著/ ISBN 9784822244125
 11. なぜリーダーは「失敗」を認められないのか：リチャード・S・テドロー_著/ ISBN 9784532197599
 12. ビジネスで失敗する人の10の法則：ドナルド・R・キーオ_著/ ISBN 9784532197308
 13. 失敗の本質：戸部良一他_著/ ISBN 9784122018334
 14. 組織の盛衰：堺屋太一_著/ ISBN 9784569568515
 15. ビジヨナリー・カンパニー③ 衰退の五段階：ジム・コリンズ_著/ ISBN 9784822248178
-

備考

経営危機管理学演習Ⅱ（21675）

後期

Business Risk and Crisis Management practice Ⅱ

危機管理学部 危機管理学科

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

経営危機管理学演習Ⅰに引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。
専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

当ゼミでは、経営戦略論、アントレプレナーシップ論（起業・創業）、人的資源管理論などの知見をもとに、厳しい競争環境のもと、企業活動を継続するためにどのように対応すべきか、理論だけでなく、ケース分析や、地元の企業と連携し、企業が抱える課題解決に向けての提案など、実践的な学びを実施する。
3年次は、経営のリスクに関連する書籍や論文を輪読し、そこで得られた知見をもとに各ゼミ生の研究課題に基づき、資料収集・分析検討・報告を行う。

【アクティブラーニング】グループディスカッション、PowerPointによるプレゼンテーションを実施する
【フィードバック】】課題（レポート、プレゼンテーション等）に対する講評や省察などの フィードバックを含めた指導を行う。

到達目標

- 1．経営学に関連するリスクの基礎的な知識や手法を理解する
- 2．各自が設定した課題に関する取組を通して分析方法・報告・ディスカッションのスキルと研究への意識・姿勢を高める
- 3．地元企業との連携の中で、企業が抱える課題の解決に向けて、主体的に進めることができるスキルを身につける

評価方法

ゼミへの貢献（調査、ディスカッション）：40％（到達目標1を評価）、レジメ作成・発表：40％（到達目標2を評価）、課題レポート：20％（到達目標3を評価）を基準として総合的に評価する。

注意事項

本ゼミでは、ゼミ生が主体的に運営するスタイルを実施する。
報告・発表及び学生間の議論を軸に実施するため、ゼミ生間の活発な意見交換を期待する。

授業計画

- 第01回：後期オリエンテーション
第02回：課題設定、調査方法、資料収集の検討
第03回：調査①、進捗報告
第04回：調査②、進捗報告
第05回：調査③、進捗報告
第06回：調査④、進捗報告
第07回：調査結果報告、ディスカッション
第08回：ケース分析、文献レビュー
第09回：ケース分析、文献レビュー
第10回：ケース分析、文献レビュー
第11回：企業訪問
第12回：課題解決提案作成
第13回：課題解決提案作成
第14回：報告、ディスカッション
第15回：後期のまとめ

授業外学習

学習時間の目安：合計15時間

発表、ディスカッションに向けての準備など、詳細はゼミ生・教員で相談して決める。

教科書

ゼミ実施時に案内する。

参考書

各ゼミ生のテーマにあわせて、適宜案内する。

備考

特になし

年次	3 年
対象	26 ～ 23 R
単位数	1． 0 単位
担当教員	 田原 静

授業の概要

経営危機管理学演習Ⅰに引き続き、各分野におけるリスク・危機管理の考え方や研究方法を、文献輪読やワークを通じて学習し、危機管理学の理解を深め、演習形式で実践力も培う。
専門分野の諸問題を自ら解決できることを目的とする。

本ゼミナールでは、主に企業(非営利組織も対象となる)のマーケティング活動および消費者行動をテーマとしている。活動のベースは関係分野の文献の輪読(発表レジメ作成、発表、討論)であり、当該分野の理論を体系的に理解することと、研究に必要な基本的なスキルを身につけることを目指す。また輪読と並行して、各自興味のある分野・業界・企業についての問題発見・調査・報告を行う。

到達目標

- 1 マーケティング・消費者行動の基礎的な概念，理論を理解する
- 2 卒業研究の前段として，研究に必要なスキルを身につける

評価方法

ゼミ中での発表40%(到達目標1,2を評価)，最終レポート40%(到達目標1,2を評価)，態度20%によって評価する。

注意事項

学生自身による発表，討論を中心に進められるため，準備をしっかりと行ってからゼミに臨んで欲しい。

授業計画

- 1週：後期オリエンテーション
- 2週～12週：文献の輪読（レジメ作成、発表、討論），各自課題への取り組み
- 13～14週目：研究発表・討論
- 15週：最終レポートの提出，後期まとめ

授業外学習

- ・週ごとの発表担当となった者は，その事前準備(レジメ，発表内容要約等)を行うこと
- ・自身が発表担当でない場合も，事前に該当の章をよく読み，疑問点など皆で議論したい点についてまとめておくこと。

教科書

ゼミ内で指示する。

参考書

ゼミ内で適宜紹介する。

備考

危機管理と社会制度（21257）

後期

Crisis management and social systems

危機管理学部 危機管理学科

年次	2 年
対象	27 ～ 23 R
単位数	2. 0 単位
担当教員	土屋博之

授業の概要

人間は誕生してから死去するまで社会の構成員の一人であり、また社会の行為者でもある。「社会」は広範かつ複雑な現象であるが、秩序化、組織化されたある一定の人間の集合体である。社会の範囲は非常に広く、単一の組織や結社などの部分社会から国民すべてを包含する全体社会、国家間の関係を包含する国際社会等様々である。

社会制度は上記のような社会における人間行動の定型化されたシステムである。例えば社会保障制度（年金、医療、介護）、裁判制度、税制制度、教育制度、労働制度、企業システム、安全保障制度、国際組織システム等である。この講義ではこれらの社会人として活躍するための危機管理に関する基礎的な知識および技能を身につけることを目的とする。

- ※この講義を履修する前に、「危機管理学概論」と「リスクマネジメント」および「リスク・コミュニケーション」を修得しておくことが望ましい。
- ※Google Classroomのクラスコード：cioclhy

【アクティブラーニング】

グループ・ディスカッションと調査学習およびグループ発表を取り入れている。

到達目標

- さまざまな社会制度（ニュース）を、現代社会の諸問題と関連づけることにより、理解できる
- さまざまな社会制度（ニュース）を、危機管理の観点から読み解くことにより、自分なりの意見を導くことができる

評価方法

- ・学期末試験(穴埋め問題の予定)：40%（到達目標1を評価）
 - ＊但し、【規定授業時間数の3分の1以上を欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、受験することが出来ない】
 - ・小テストまたは、小レポート(該当授業回内での提出15回)：30%（到達目標1、2を評価）
 - ＊但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
 - ・平常点【授業への積極的参加および態度】(グループ・ディスカッションとプレゼンテーションの内容で判断)：30%（到達目標2を評価）
 - ＊但し、【欠席(注意事項の欠席扱いも含む)した場合は、該当授業回は採点しない】
- ★再試験は、上記の合計点（100点満点）が40点未満の履修生には、実施しない

注意事項

- 1)許可のない途中退出は不可：やむを得ない退出は、[証明書]などを提示の上、事前許可要
- 2)欠席・遅刻・早退は不可：遅刻の場合は[遅延証明書]などの[証明書]の提出要
 - ＊10分以上の、[証明書]がない場合の遅刻および早退・離席は欠席扱いとする
- 3)授業開始10分経過後に上記の[証明書]がなく、所定の席に未確認の場合は欠席扱いとする
- 4)授業中の私語および周囲から迷惑と思われる行為の禁止：場合＜教員判断＞によって、退出させ欠席扱いとする
- 5)授業に関係（必要）のない、電子機器の使用は禁止
 - ＊特にゲーム、音楽を聴く、マンガを読む、メール（LINE・SNS含む）、通話などをしている場合は、退出させ欠席扱いとする
- 6)授業中の飲食禁止
 - ＊教室内で飲食している場合は、退出させ欠席扱いとする
- 7)講義資料は、“Google Classroom”の指定されたクラスにアップロードする
 - ＊但し、【教科書】は著作権があるためアップロードしない

授業計画

中学_社会（公民的分野）対応項目 / テキスト項目

第 1回：オリエンテーション

人権と日本国憲法① / 私たちの民主主義：PP8-11.

第 2回：人権と日本国憲法② / 日本国憲法の行方：PP16-19.

第 3回：人権と日本国憲法③ / 日本外交の現状と課題：PP20-23.

第 4回：人権と日本国憲法④ / 変容する安全保障：PP24-25.

第 5回：人権と日本国憲法⑤ / 核兵器と向き合う世界：PP112-115.

第 6回：人権と共生社会① / 司法と市民 いまとあす：PP84-87.

第 7回：現代の民主政治と社会① / これからの日本政治：PP12-15.

第 8回：現代の民主政治と社会② / やせ細る地方自治：PP26-29.

第 9回：価格の働きと金融① / 足踏みする日本経済：PP32-35

第10回：価格の働きと金融② / 世界経済の見通しは：PP40-43.

第11回：価格の働きと金融③ / 自由貿易体制の行方は：PP44-47.

第12回：消費生活と経済① / 転換期迎えた日本産業：PP48-51.

第13回：消費生活と経済② / どう守る 消費者の権利：PP70-73.

第14回：さまざまな国際問題① / 「強国」目指す中国：PP106-109.

第15回：さまざまな国際問題② / 米国と民主主義の行方：PP110-111.

授業外学習

学習時間の目安：60時間

- ・授業計画で次の学習項目を確認し、該当項目を熟読し、当日すぐにグループ・ディスカッションが可能な状態で授業参加すること（1.5時間／回）15回
- ・グループ内でプレゼンテーション作成と発表の役割を決め、次の授業に発表可能な状態で授業参加すること（2.5時間／回）14回
 - ＊尚、発表時はプレゼンテーション技法を取り入れて発表すること

教科書

＊注意：同じ年度に開講される前期開講「リスク・コミュニケーション」・読替「リスクコミュニケーション」と、後期開講「危機管理と社会制度」の教科書は同じですので、重複して購入しないでください。

書名：2022年度版 ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編(1・2・準2級対応)

監修：日本ニュース時事能力検定協会

発行：毎日教育総合研究所／朝日新聞社

販売：毎日新聞出版

ISBN：978-4-620-907543

参考書

書名：2022年度版 ニュース検定公式問題集(1・2・準2級対応)

監修：日本ニュース時事能力検定協会

発行：毎日教育総合研究所／朝日新聞社

販売：毎日新聞出版

ISBN：978-4-620-907550

備考

教科書を購入時は、教科書欄の【注意】を確認してください。